



Contents

[Contents](#)

[MUSIC MISSION APPENDIX](#)

[DRIVERS INSTALLATION](#)

[Switching ON MERGING+ANUBIS](#)

[ANUBIS HOME PAGE and MUSIC MISSION LAUNCH](#)

[IO Connectivity to your System/DAW](#)

[TOUCHSCREEN AND NAVIGATION](#)

[ANUBIS+MUSIC MISSION](#)

[THE FEATURES](#)

[Mission IO Channel Specifications](#)

[OPERATING MODES](#)

[MUSIC MISSION SCHEMATIC](#)

[MULTIPLE POSSIBILITIES](#)

[ANUBIS + MUSIC A MIXER TOPOLOGY](#)

[THE MIXER](#)

[MIXER LAYOUT](#)

[Strip Channel Layout Diagram](#)

[Mixer Channel Detailed](#)

[Channel indications & Options](#)

[CUES MONITORING CONTROLS](#)

[MIXER CONTROL COLUMN](#)

[MIXERS \(Control Column\)](#)

[IMPORT MIXERS](#)

[Cues Set Up Example](#)

[BUS PARAMETERS](#)

[SNAPSHOTS](#)

[PEERING](#)

[How to peer a device](#)





[Multiple Anubis Peering](#)

[ANUBIS BUILT-IN EFFECTS](#)

[PREAMPS CONTROL](#)

[SETTINGS CATEGORIES DESCRIPTION](#)

[MUSIC SECTIION](#)

[MIXING Settings](#)

[MONITORING Settings](#)

[ACCESS CONTROL Settings](#)

[INFO Settings](#)

[DEBUG Settings](#)

[EXIT Settings](#)

[ANUBIS ROOM CORRECTION WITH SONARWORKS SOUNDID REFERENCE](#)

[BASIC MUSIC SETUP](#)

[RECORDING SETUP WITH CUES](#)

[HARDWARE INSERTS](#)

[MONITORING WEB USER INTERFACE](#)

[Snapshots](#)

[Tablet Remote Access - Anubis の IPアドレスを使った Web GUI アクセス](#)

[Identify Me – Device Location](#)



Thank you for choosing MEGING+ANUBIS

MUSIC MISSION APPENDIX

この“APPENDIX”は、“ANUBIS+MUSIC”のミッションの詳細を説明するためのもので、“Anubis ユーザーマニュアル”の補足となります。この“APPENDIX”をお読みになる前に、まず“MERGING+ANUBIS ユーザーマニュアル”をご理解いただくことをお勧めします。

Anubis を安全にお使いいただくために、設置や使用の前に、取扱説明書、重要な安全情報、警告をよくお読みください。

DRIVERS INSTALLATION

ドライバーのインストールに関しては、“Anubis ユーザーマニュアル”をご覧くださいか、Merging のオンラインデータベースを御覧ください。

<https://confluence.merging.com/pages/viewpage.action?pageId=45449231>

Anubis Music Mission は、以下のOSと環境でサポートされます。

Windows 7 – 64 bit

Merging RAVENNA ASIO Driver

Windows 10 – 64 bit

Merging Audio Device (MAD)

Merging RAVENNA ASIO Driver

MacOS support: High Sierra – Mojave – Catalina – Big Sur (Intel & M1)

RAVENNA Virtual Audio Device Premium 3.0 以降

Linux OS – ALSA RAVENNA/AES67

ANEMAN version 1.3

RAVENNA/AES67のAoIP接続を管理するためには、ANEMANのバージョン1.3以降がインストールされている必要があります。

重要: お使いの Anubis に最新のファームウェアがインストールされていることを確認してください。

ファームウェアのバージョンを確認するには、“Settings > Info”を御覧ください。

Anubis Downloads and Procedures:

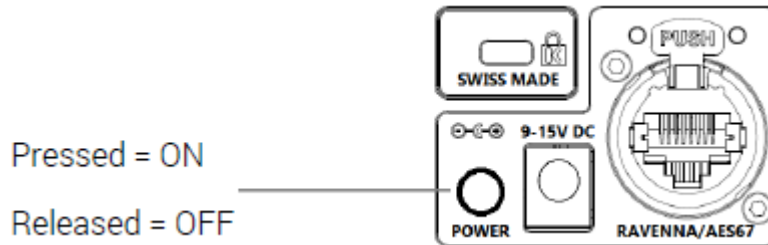
<https://www.merging.com/anubis/download>





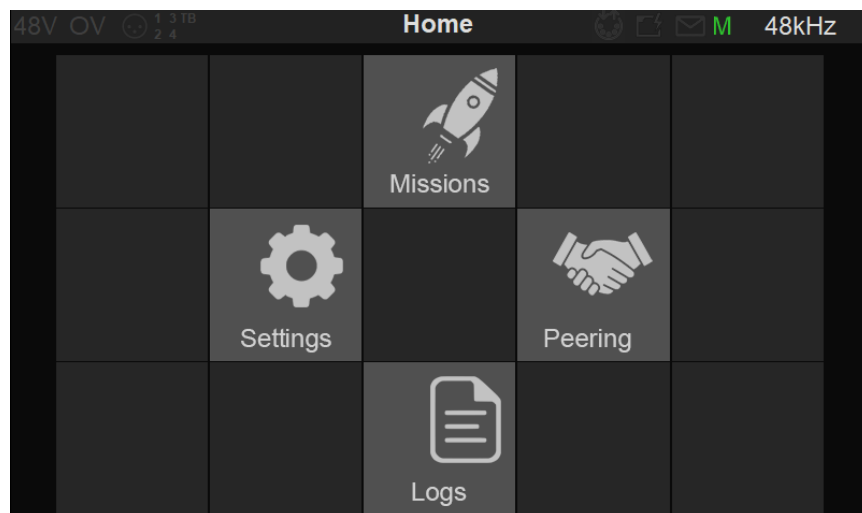
Switching ON MERGING+ANUBIS

1. Anubis 背面の DC 入力コネクタの隣にある POWER ボタンを押してください。



2. 本体が起動すると、Anubis のボタンがオレンジ色に点灯し、その後すぐにTFTディスプレイが表示されます。この間、本機は一連のセルフテストと初期化ルーチンを実行します。
3. AnubisのTFTディスプレイにホーム画面が表示されたら、本機を使用することができます。

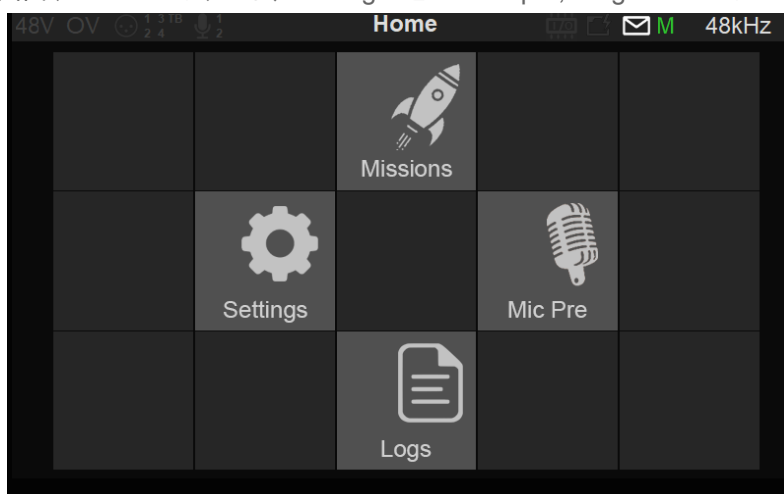
Note: Anubisの電源を切るには、POWER ボタンを押して解除状態にします。





ANUBIS HOME PAGE and MUSIC MISSION LAUNCH

Anubis の ホーム画面 (Home ページ) では、“Settings” と “Preamps”, “Logs” のページにアクセスできます。



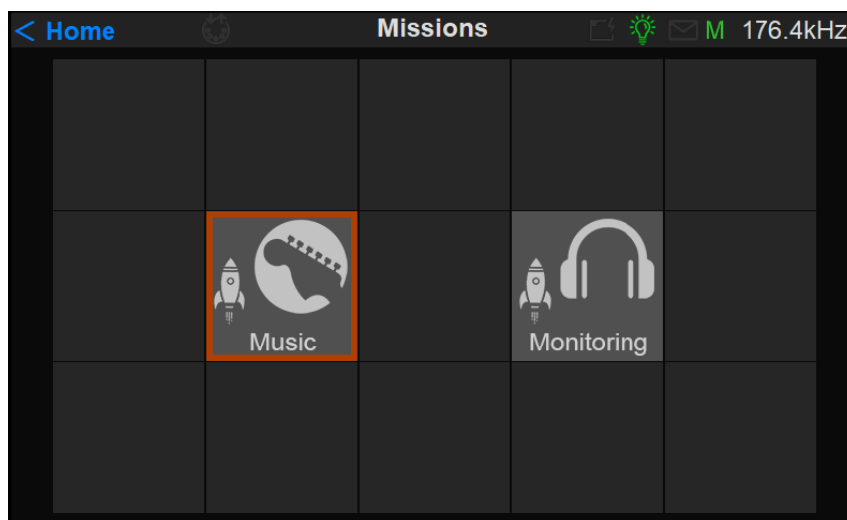
Home ボタンを長押しすることで、“Home ページ” にアクセスできます。



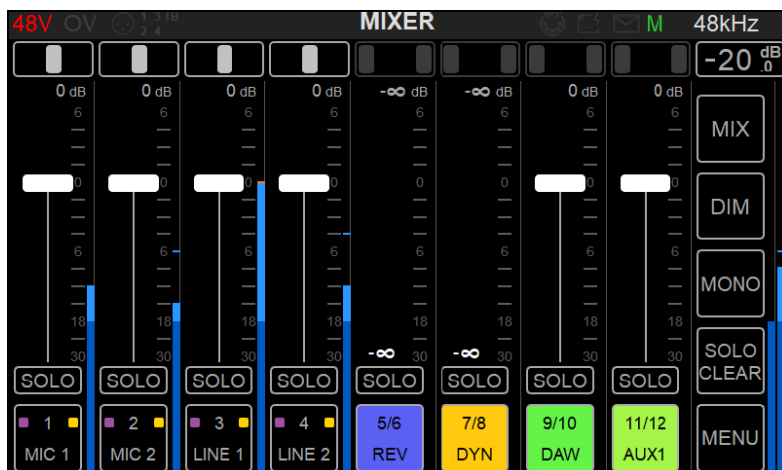
上記ページで、Mission アイコンを押すと、Mission ページに入ることができます



使用したい Mission を選択してください。“Monitoring Mission” と “Musin Mission” があります。本ガイドでは、“Music Mission” を解説しています。



Musin Mission を選択して起動すると、Main Mixer ページが表示されます。



IO Connectivity to your System/DAW

Anubisはネットワークオーディオインターフェースなので、DAWなどのアプリケーションと使用したい場合は、まずAnubisとシステムMerging Driverとの間で IOネットワークストリームの接続を確立する必要があります。

1. まず、Merging社 のドライバー (MAD (Windows 10) または VAD (MacOS)) をインストールしてください。

<https://confluence.merging.com/pages/viewpage.action?pagelId=45449231>

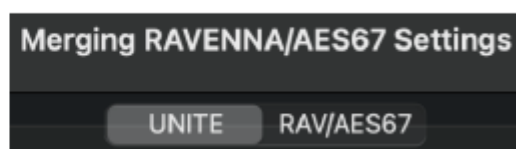
注意: Pyramix MassCoreをお使いの方は、ドライバーは必要ありません。

2. ドライバーをインストールしてPCの再起動後、MADまたはVADパネルを開きます。最新のドライバーでは、AoIP IOストリームの接続を簡単かつ自動的に行うことができる **UNITE** を使用することができます。
3. 最初に **UNITE** タブを選択してください。

MAD- PC (Win10)

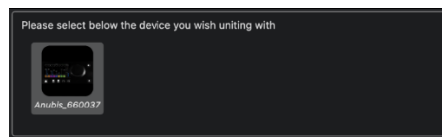
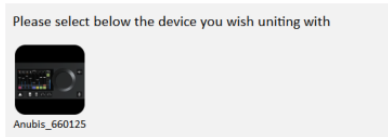


VAD - MacOS

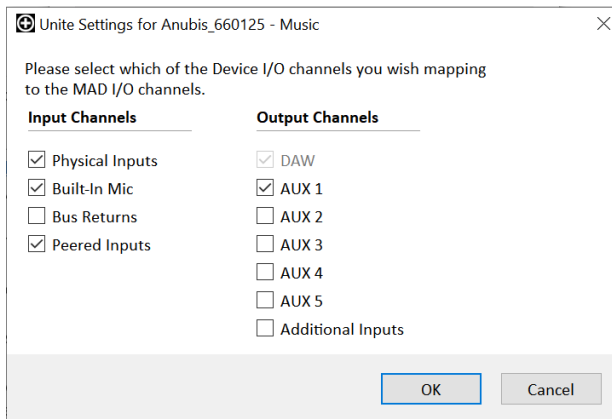


注: 複数の機器がネットワーク上にある場合は、RAV/AES67 を選択して、ANEMANを使用してください。

4. UNITE する Anubis をクリックしてください。



5. UNITE したい Anubis の IO にチェックを入れてUNITEボタンを押すと、それらはアプリケーションやDAWで使用できるようになります。

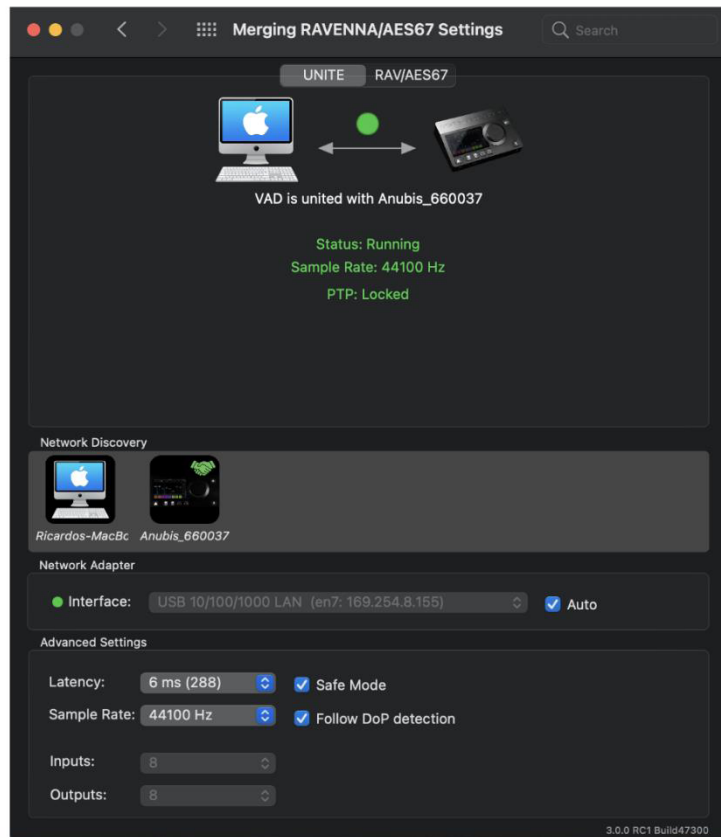


Unite が成功すると表示され、Anubisをアプリケーション/DAWで使えるようになります。

MAD- Successful UNITE



VAD - Successful UNITE



UNITE の詳細については、下記リンクのデータベースをご覧ください。

<https://confluence.merging.com/display/MPD2/UNITE++MAD+%28PC%29+and+VAD+%28Mac%29+Guide>



TOUCHSCREEN AND NAVIGATION

本機の操作には、タッチスクリーン上で以下の動作やジェスチャーを使用してください。



TFTスクリーンを右から左にスワイプすると、次のメニューやページが表示されます。



TFTスクリーンを左から右にスワイプすると、前のページに戻ることができます。



上下にスワイプすると、メニューや各種オプションをスクロールできます。



TFTスクリーンをシングルタップすると、機能/オプションを選択/有効にします。



1秒間押し続けると、いくつかのパラメータにアクセスしたり変更したりすることができます。これは、Home ページにアクセスしたり、いくつかのダイアログボックスを開くために必要です。

Anubis Rotary Knob



Anubisのロータリーノブは、ボリュームコントロール、プリアンプのゲインコントロール、パン、フェーダーのレベルコントロール、設定コントロール(明るさ、数値入力)、各種メニューのナビゲーションなどに使用できます。パン、フェーダーのレベルコントロール、設定コントロール(明るさ、数値入力)、Anubisの各種メニューのナビゲーションに使用します。

ロータリーノブを時計回りに回すと値が増加し、反時計回りに回すと値が減少します。



Home Button

Music Mission でピラミッドマークの Homeボタンを素早く押すと、すべての Sends のロータリービューが表示されます。戻るを押すと Mix ページに戻ります。Home ボタンを長押しすると、Setting にアクセスできます。





ANUBIS+MUSIC MISSION

THE CONCEPT

マイク、ギター、キーボード、インサートを接続して、パーソナルスタジオや路上でもプロ品質のレコーディングを行うことができます。Merging の DSPミキシングエンジン、内蔵エフェクト、驚異的な I/O の機能により、超低レイテンシーのパフォーマンスを実現します。

ミキシング コンソールのトポロジーをベースにした “Music Mission” は、手のひらの上で様々な機能を提供します。ミキサーは Anubis に完全に組み込まれており、DAWやタブレット、外部プログラムを必要とせずにコントロールすることができます。

これらの機能と RAVENNA / AES67 AoIP プロトコルのサポートにより、Anubis は拡張可能です。Anubis Music Mission は、同じネットワーク上のもう1台のデバイスを接続することで、ミックス、モニター、追加したデバイスへの I/O の分配をローカルで、またはネットワーク上で行うことができます。

Music Mission で想定している使用場所

- プロフェッショナル レコーディングスタジオ
- プロジェクトスタジオ
- ミュージシャン
- リハーサル / ライブ
- プロデューサー
- 放送局
- ゲーム インスタレーション
- ミキサーを必要とするすべての人



THE FEATURES

- 低遅延エンジンによるAnubis IOのリアルタイム処理
- Anubis TFTから 直接コントロール
- 内蔵ミキサー - コンソール スタイル
 - 1xメインミキサー
 - 1x Altミキサー(モニタリング目的のため)
 - 3 x Send
 - 5 x Cue
 - 内蔵エフェクト(EQ, リバーブ, ダイナミクス)
- ミキサーコントロール
 - レベル、パン、ソロ、エクスクルーシブ ソロ、PFLソロ、ミュート
 - リンク、グループ、色、名前、レイアウト変更
 - 任意の入力, 任意の出力にルーティングすることができます。
- ミキサーの特徴
 - 48 入力 ミキサーをサポート (他の RAVENNA / AES67 インターフェースとの拡張が可能)
 - メータリング
 - ピークホールドとピークリセットを備えた信号レベルメーター。
 - 独立した PreAmps の測定、チャンネルの測定およびバスの測定。
- モニターコントロール
 - 各出力/バスのボリューム、リファレンスレベル、DIM、ミュート
 - モノラル ダウンミックス
 - ミキサーオルタネイトのヘッドフォン用クロスフィード
 - 柔軟な出力ルーティングパッチ
 - 内蔵ミキサーでのAUXセンド
 - 2.1,2.2スピーカーをサポートし、ミキサーオルタネイトでクロスオーバー
- 複数のソフトウェア再生DAWのサポート
 - ステレオ DAW (1)
 - ステレオ AUX (5)
- トークバックを内蔵し、5つのCueへ個別でのトークバック可能
- すべての送り/インサートをモニター(ウェット)し、録音が可能(ウェットまたはドライ)
- Merging のビルトイン プラグイン
 - MERGING + EQ
 - MERGING + DYNAMICS
 - MERGING + REVERB
- 18 スナップショットで完全なAnubis設定を保存して呼び出し
- 内蔵プラグインごとに18個のスナップショット/プリセット。
- PEERING 機能により、ネットワーク上の他のRAVENNA/AES67デバイスを発見し、それらのIOをAnubis内に統合します。Anubis PreAmpsページから直接それらのADを制御可能
- 様々な設定と設定オプション
- 完全なスタンドアロンでの動作とリモートコントロール





Mission IO Channel Specifications

Max channels for	44.1/48 kHz	88.2/96 kHz	176.4/192 kHz	352.8/384 kHz	DXD	DSD64	DSD128	DSD256
Anubis incoming streams	256	256	128	48	48	64	64	64
Anubis outgoing streams	256	256	128	64	64	64	64	64
Anubis+Monitor Sources	128	128	64	32	32	32	32	32
Anubis+Monitor Monitors	32	32	32	32	32	32	32	32
Anubis+Music Input Mixer	48	48	48	24	24	0	0	0
Anubis+Music Output Mixer	24	24	24	24	24	0	0	0

44.1kHz~192kHz

ミキサー内では、ピアした入力を含めて合計48のストリップチャンネルをサポートしています。出力チャンネルは制限されていませんが、入カストリームは制限されています。

352.8kHz (DXD) および 384kHz

ピアした入力を含む合計 24 のストリップチャンネルをサポートしています。

注意:ビルトイン・リバーブ、ダイナミクス、ソフトウェア・プレイバック(DAW/AUX)、センドはこれらの制限から除外されています。

DSD

Music MissionのミキサーはDSDをサポートしていませんが、DSDで直接PreAmpを録音し、ANUBISの外部でモニタリングすることができます。適切なDSDモニタリングを行うためには、Monitor Missionを使用してください。



OPERATING MODES

Anubis Music Mission には 2つのモードがあります。

Default Mode

簡素なオペレーティング モードで、エンジニア/ミュージシャンが別の演奏者と使用するモードです。

- ロータリー センド で素早く送れる ビルトイン リバーブ, EQ, ダイナミクス
- 1 X CUE, 1 X SEND
- 1 X CUE モニターコントロール
- 簡素なメニュー
- 簡素なConfigとセットアップ エラーを起こしにくい設定

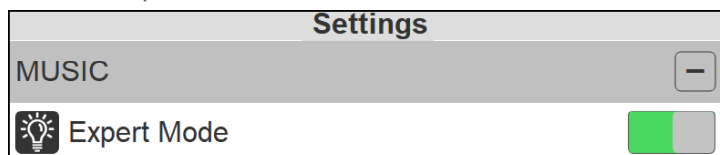
Expert Mode

全てのコントロールが使用可能なモードです。

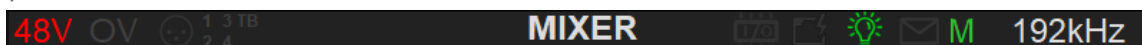
- 5 X CUES, 3 X SENDS
- 5 X CUE のモニタリング
- 3 X SENDS のロータリー センド
- リバーブ, ダイナミクス バスを含んだ 全てのSENDSのフェーダー表示
- ミキサーのチャンネル レイアウトを変更できる Mixer Setup ページ
- Mono Bus Routing サポート
- 拡張IOのペアリング サポート
- Mixerのパンニングなどの追加設定

Expert Mode に切り替えるには

Settings > Music オプションで Expert Mode を有効にしてください。

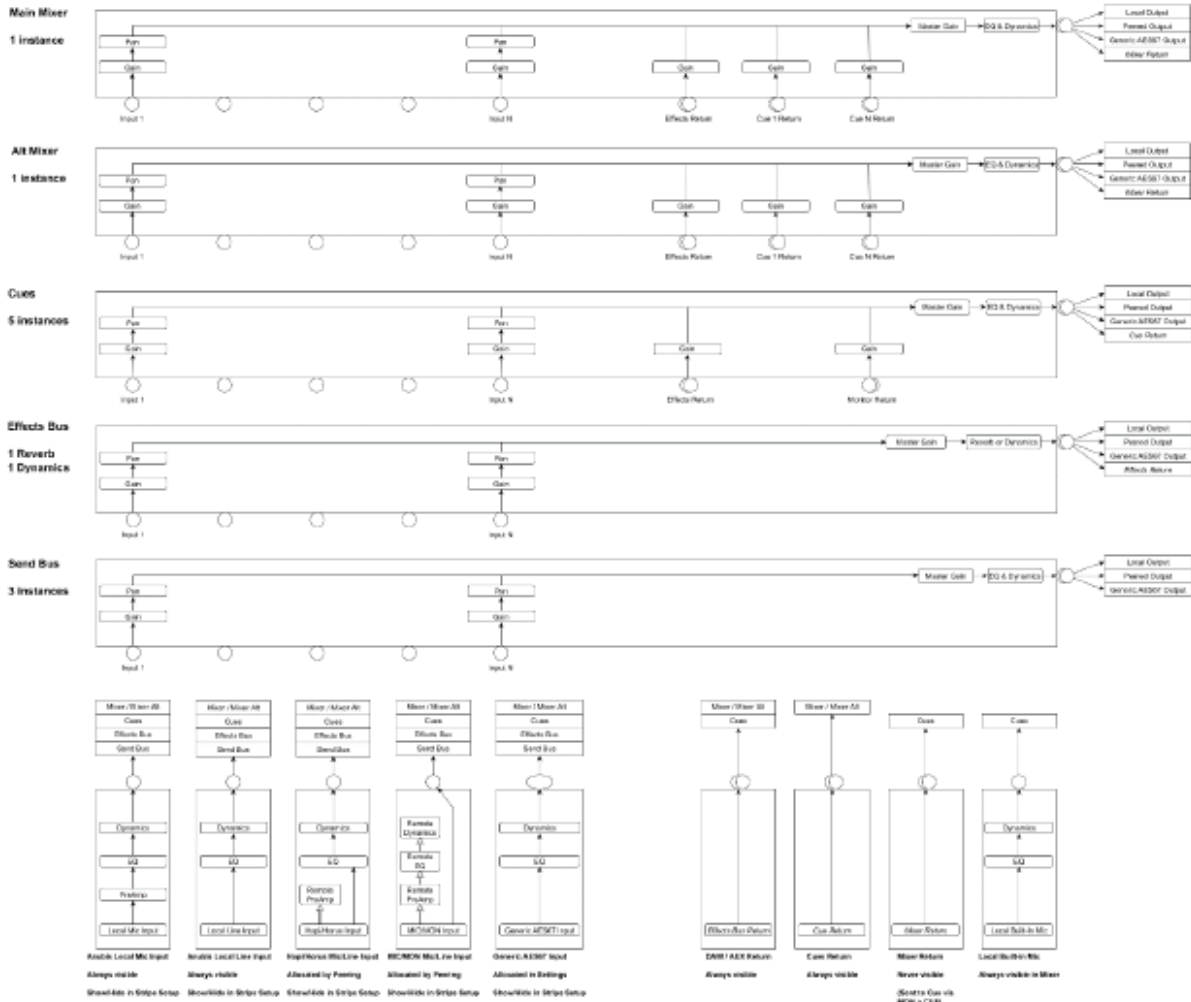


Expert Mode の時、Anubis の上部タスクバーに電球アイコンが点灯します。





MUSIC MISSION SCHEMATIC

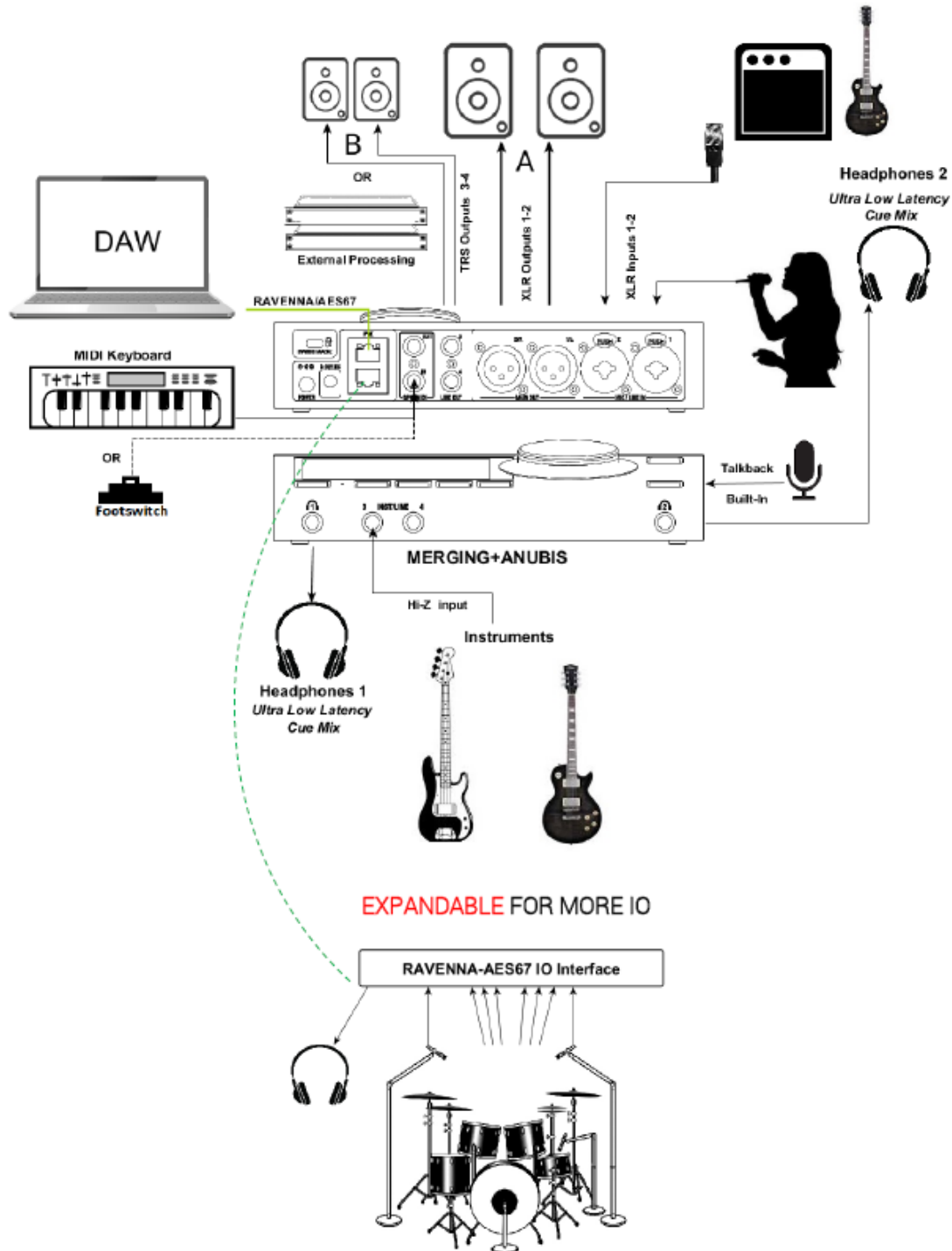


注: 同じ画像をより高い解像度で見するには、下記リンクの Anubis FAQ の画像を参照してください。

<https://confluence.merging.com/pages/viewpage.action?pageId=86212659&preview=/86212659/86213167/Music%20Mission%20Schematic.png>

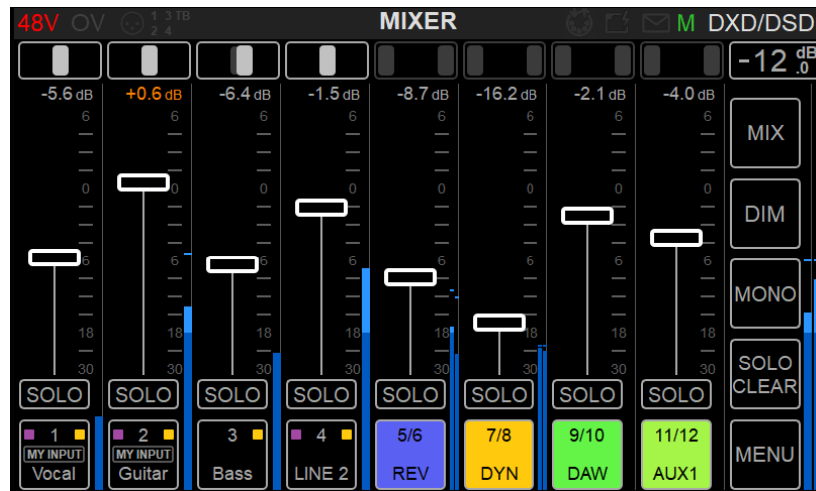


MULTIPLE POSSIBILITIES





ANUBIS + MUSIC A MIXER TOPOLOGY



Music Missionの背後にあるアイデアは、オーディオミキサーのコンソールレイアウトです。

インプット、バス、AUX、インサート、センド、モニタリング機能など、従来のコンソールスタイルのハードウェアとほとんど変わりません。

Anubisのミキサーも大差ありません。Anubisには非常に大きなミキサーがあり、Anubis DSPエンジンのパワーとAoIP RAVENNAテクノロジーにより、拡張可能なIOと信じられないほどの可能性をユーザーに提供します。

MERGING+ANUBISの内部エンジンには、複数のミキサーが搭載されており、異なる入力ソースから異なる出力を使用して、1つまたは複数のミックスを作成することができます。

これらのソースは、Anubisのプリアンプのような物理的な入力であったり、ネットワーク上の他のマーキング社製デバイスからの入力であったり、ソフトウェアプレイバック(DAWバスやAuxバス)からの入力であったりします。

これらの入力ソースは、ローカルの物理的な出力であるXLR 1-2、TRS 3-4、Anubisのヘッドフォン1と2などの出力にルーティングしたり、他のネットワーク上の他のデバイス(Horus、Hapi、Anubisなど)の出力にルーティングしたり、ミックスしたりすることができます。

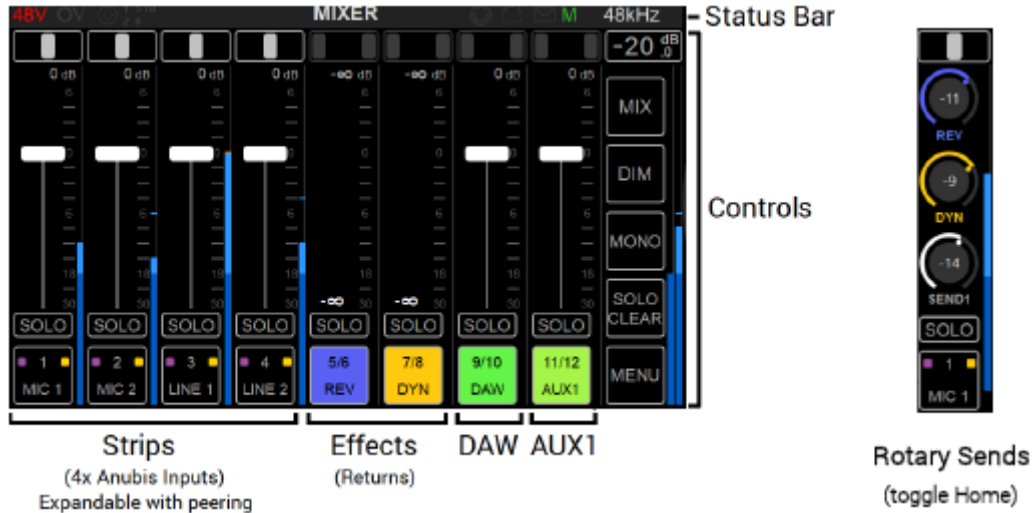
Music Missionは、スタンドアロンでもDAWと同時に使用しても、フロントエンドの信号処理にAnubis DSPエンジンと組み合わせて超低レイテンシーのモニタリングやトラックングを行うことができます。Anubisミキサーの処理はすべてハードウェアユニット内で行われます。

スタンドアロンでは、Anubisはオンステージミキサーとして使用することができます。インプットをミックスしたり、エフェクトをAnubisのインプットに適用したり、お好みのモニターアウトプットに送ることができます。より多くのIOが必要な場合は、ピアードデバイスを使用して拡張することができます。これらの追加I/Oは、外部システム(PCやMac)を必要とせずAnubisからミックスやルーティングが可能です。



THE MIXER

ミキサーページは Music Mission のメインページです。このメインミキサーから、Music Mission のすべてのコントロールにアクセスできます。デフォルトでは、ミキサーはすべての物理的なInputとOutputを使用してAnubisをすぐに操作できるように設定されており、DAWとAUXをミックスするために素早く設定することができます。



The Mixer Components

・チャンネルストリップ (Channel Strips)

すべての Anubis インput、または他のデバイスからピアリングされたインputで構成されます (Peering の章を参照してください)。工場出荷時には、4 つの Anubis インputがあります。

・Effects Returns Channels

内蔵のリバースとダイナミクスのフェーダーは、エフェクトからのリターンです。

・DAW-AUXES

お使いのシステムのソフトウェアプレイバックを接続します。DAWの出力バスをRAVENNAで Anubis Mixer の DAWステレオチャンネルにルーティングしてください。AUXについても同様です。

・AUXとトークバック

DAW/AUX やトークなどのコントロールはデフォルトで非表示になっていますが、Menu の SHOW ALL AUX を選択すると表示させることができます。

・Rotary Sends コントロールビュー

Home ボタンを押すと、Strip チャンネルの表示を切り替えることができ、ストリップチャンネルが Rotary Sends ビューで表示されます。

・拡張可能な I/O

Anubisは、Anubis Mxerに多くの外部デバイスの IOをピアリングすることができるので、Anubis自体のIOよりも多くの入力または出力を持つことができます。一度ピアしたIOが画面上に収まりきらなかった場合はスクロールして表示させてください。

・コントロールバー

右側のコントロールバーで、より多くのパラメータにアクセスできます。



MIXER LAYOUT

Music Mission を初めて起動すると、以下のようなレイアウトが表示されます。



Inputs 1-2 and 3-4 (Expandable to Peered inputs):

左のチャンネルストリップは、Anubis の 4 つの物理入力です。これらのストリップ入力は Anubis の物理入力の番号を表しており、Anubis 背面の XLR Combo 1, 2 から始まり、前面の Line/Instrument 入力 3, 4 に続きます。別の RAVENNA デバイスの入力モジュール(A/D, AES, MADI, PT64, ADAT など)をピアリングすると、これらのインプットは Anubis の物理入力の後に続きます (Peering の章を参照)。

Internal Effects Returns (REV/DYN):

MERGING + REVERB と MERGING + DYNAMICS のリターンです。

Software Playbacks (DAW/AUX):

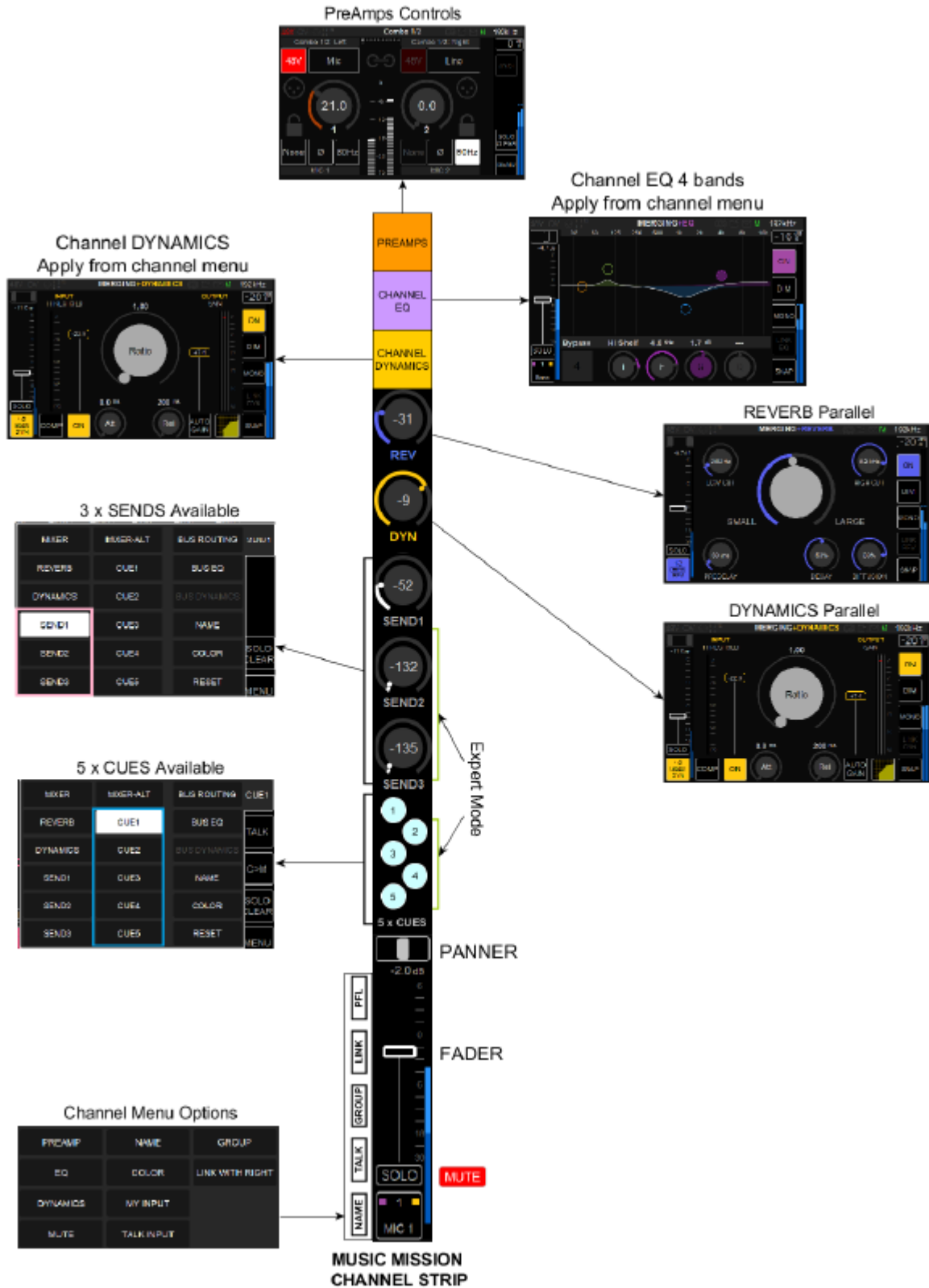
DAW 出力の Tracks/Bus/Aux をルーティングすると、Anubis Mixer に追加されます。

Output Routing (MIX>Bus Routing):

Music Mission には複数のミキサーが搭載されています。工場出荷時には、Mixer Main を XLR 1, 2 と HP1 に、CUE 1 を HP2 に、Send 1 を TRS 3, 4 にルーティングしています。これらは Bus Routing のページでルーティングを変更し、ミキサーバスをローカルまたはネットワーク上でピアリングしたデバイスのいずれかを選択して出力することができます。

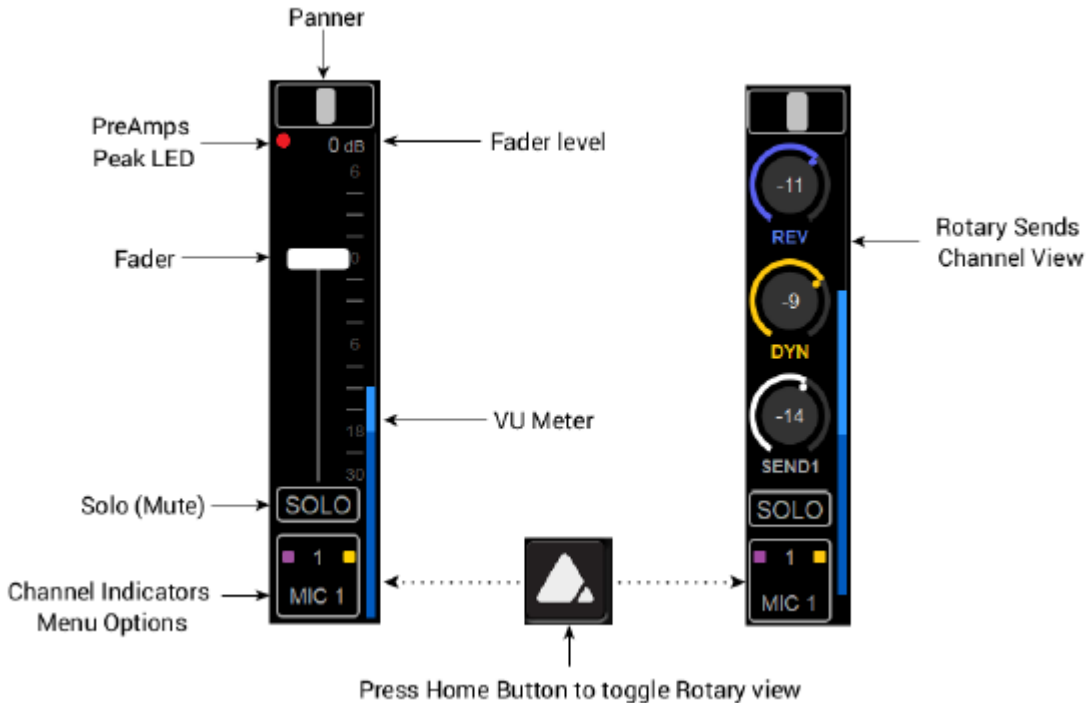


Strip Channel Layout Diagram



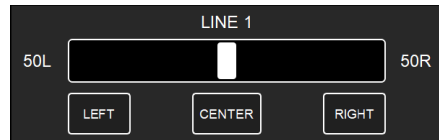


Mixer Channel Detailed



Panner

Strip Panner Window を開くにはパンナーの部分をつまみます。パンニングするには、バーを左右にドラッグします。



LEFT ボタンをタップすると最も左にパンニングされます。

CENTER ボタンをタップするとセンターにパンニングされます。

RIGHT ボタンをタップすると最も右にパンニングされます。

正確に調整するには、指またはAnubisロータリーエンコーダーを使用します。中央が完全でない場合、パンインジケータは白くなりません。



PreAmps Peak LED

PreAmp入力がクリップすると赤LEDが完全に点灯します。ピークホールドは、赤の空の円になります。クリップを避けるためにPreAmpsゲインを減らし、メニューオプションからピークをリセットしてください。

PreAmpsページとそのピークのすべての詳細については、PreAmpsセクションを参照してください。



PreAmpsのリアルタイムのピーク時(赤丸)

録音中やライブ中にピークが発生した場合は、クリップを避けるために入力信号のゲインを下げてください。

Fader Level (dB)

現在のフェーダー位置の数値

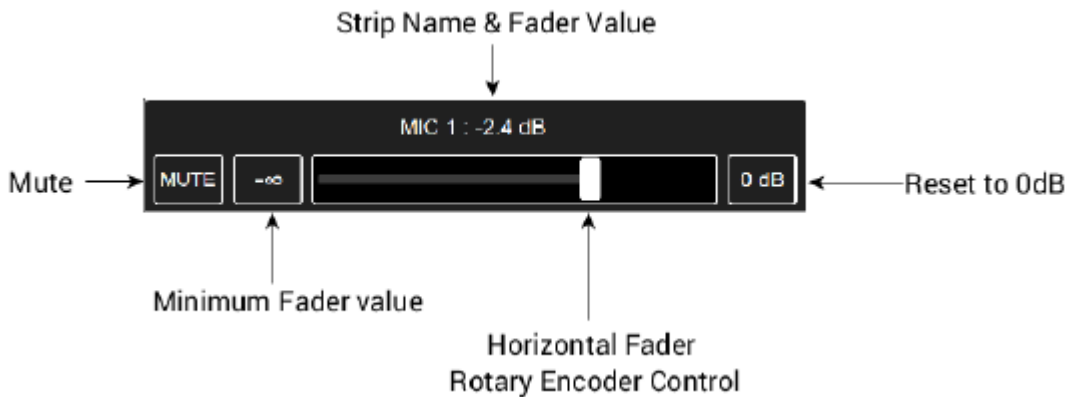
Channel Fader

フェーダーを使用して、入力ストリップ信号のレベルを調整したり、DAW/AUXES の信号を調整することができます。指でフェーダー領域を選択し、上下に動かしてコントロールします。チャンネルフェーダーは、ドラッグしたフェーダーの可動範囲のどこにあっても使用することができます。

デフォルトのフェーダー値は 0dB、フェーダー最大値は +6dBです。

Horizontal Faderコントロール(フェーダーをタップすると開きます)

Horizontal Fader は、ロータリーエンコーダーまたは TFT(タップして指を左右に動かす)でコントロールすることができます。



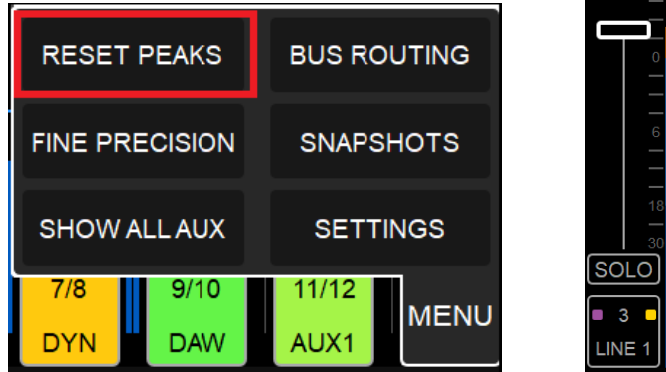
フェーダーをデフォルトの 0dB にリセットするには、Horizontal Fader ビューを開きフェーダーセクションの 0dB ボックス をタップしてください。これにより、ストリップチャンネルのピークホールドもリセットされます。





VU Meter

入力信号のレベルメーターです。チャンネルに入力されたレベルを表示します。dBFS で表示され、最大スケールは +6dBFS です(詳細は DXD/DSD ワークフローを参照してください)。0dBFS でデジタルクリップとなります。



Reset Peak

ピークレベルの表示は、メーターの上部に赤色で表示されます。ピークをリセットするには、メインメニュー(右下)を開き、RESET PEAK を選択してください。注: Horizontal Fader からストリップを 0dbにリセットすると、ピークもリセットされます。

Solo

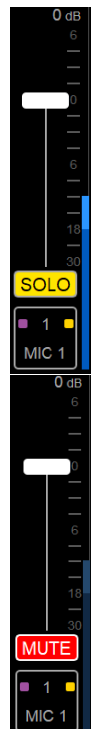
Solo ボタンをタップするとソロになります。これは、チャンネル信号を直接モニター出力にルーティングします(詳細は出カルーティングを参照)。ストリップをソロにしても、他のシグナル ルーティングを変更することはありませんし、アプリケーション(例えばDAW)に録音している信号を止めることもありません。

Solo Exclusive オプションは、Anubis Settings の Music Monitoring> SOLO Exclusive で利用可能になります。このオプションが有効になっている場合、選択したチャンネルストリップのSoloの動作は、他のチャンネルストリップのSoloを解除し、そのチャンネルのみをSoloします。

Mute

Mute オプションはメインのミキサー UI にはありませんが、Horizontal Fader ビューとチャンネルのボトムメニューで利用できます。ストリップまたはバスをタップしてHorizontal Fader を開き、Mute ボックスをタップしてミュートします。


Mute になると、ミキサービューの Solo ボタンが Mute ボタンに置き換わります。Mute を解除するには、もう一度 Mute をタップしてください。





Rotary Sends Channel view

Rotary Sends 表示ではストリップ チャンネル表示の続きが表示され、SENDSコントロールにアクセスできます。

Anubis Home ボタン  を押すと、フェーダーとロータリーセンドの表示が切り替わります。

Rotary Channel View (Default)

Rotary Channel Second View (Expert)



Default Mode では1つの Rotary view のみが表示されます。ここには Reverb Send, Dynamics Send, Send channel が表示されます。これはコンソールの送りと同様に、選択したチャンネルからエフェクトに送る操作です。

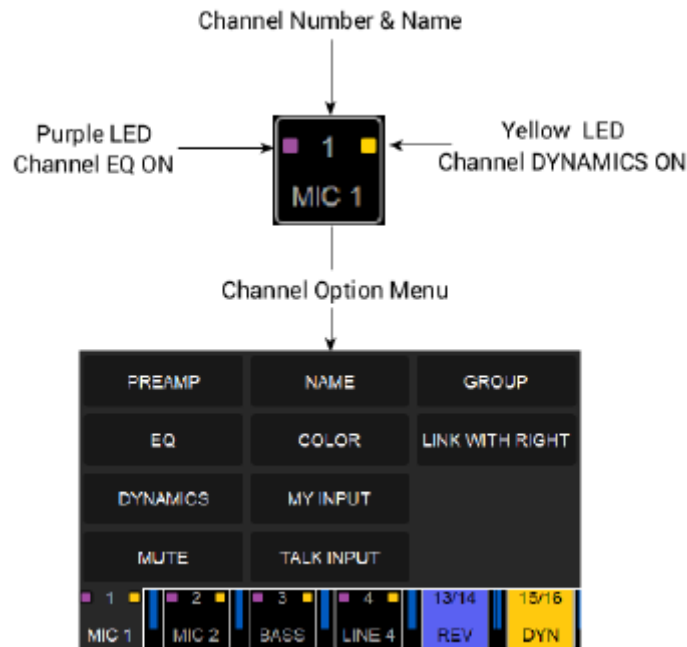
Home ボタンで Rotary view と Fader view を切り替えることができます。

Expert Mode では Home ボタンをタップすると、SENDS 1 から 3 までのコントロールとメニューオプションが表示されます。Home ボタンで、Rotary ビューと Fader ビューを循環表示させることができます。



Channel indications & Options

各チャンネル(ストリップとバス)の底部にはインジケータがあり、様々なオプションやコントロールを含むチャンネルメニューへアクセスができます。



Channel Number & Name

チャンネルの識別子、ナンバリング、名前。チャンネルの名前を変更するには、Channel Menu オプション(下記参照)を使用します。

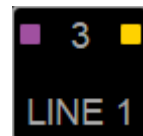
LED indicators

2つのLEDインジケータがあります。

紫LED: 選択したチャンネルでEQがオンになっている場合に点灯します。

黄色LED: 選択したチャンネルでダイナミクスが有効になっている場合に点灯します。

これらのエフェクトは、チャンネルメニューオプションからアクセスできます(後述)。



Channel Option Menu

チャンネルメニューを開くには、下のチャンネルセクションをタップします。

Pre Amp

PreAmpのパラメーターにアクセスするには、「PREAMP」をタップします。

PreAmpの詳細については、User Manualを御覧ください。

EQ

選択したチャンネルにEQを挿入するには、「EQ」をタップしてEQのUIに入ってください。

Note: EQユーザーインターフェースの詳細については、「エフェクト」のセクションを参照してください。

Dynamics

選択したチャンネルにDynamicsを挿入するには、「Dynamics」をタップしてDynamicsのUIに入ってください(詳細は「エフェクト」を参照)。



Mute

そのチャンネルをMuteします。Horizontal チャンネル表示のMuteと同様に動作します。

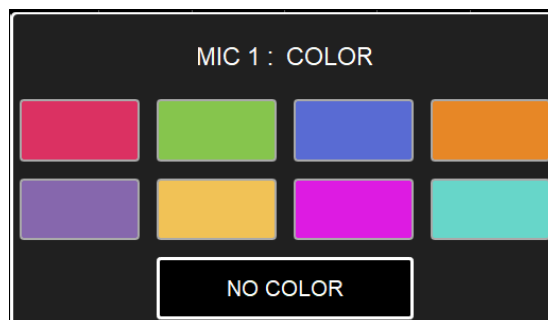
Rename Strip

チャンネルの名前をつけられます。

例: Kick, Snare, Guitar, Bass, Vocal, Synth など

Strip Color

チャンネルの色を 8色のプリセットから決められます。



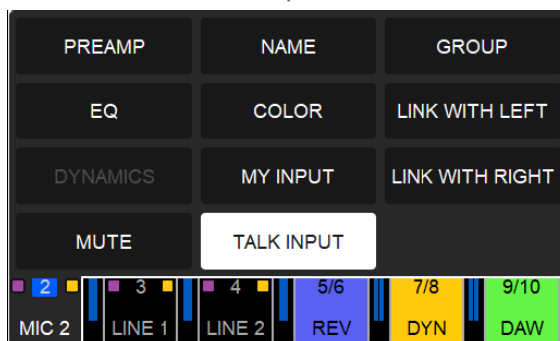
My Input

"My Input" は、パフォーマンスの入力と Cue を識別するために使用します。これにより、パフォーマンスの入力と Cue に色付けすることにより明確に識別することができます。

パフォーマンスのミキサー(例: Cue)を選択して、パフォーマンスのインプットストリップのメニューを開き、"My Input" を選択してください。

Talk Input

デフォルトの内蔵トークバックとは別のトークバック入力を使用することができます。マイクをいずれかの入力に接続し、そのストリップ入力オプションメニューで Talk Input を設定してください。



するとそのストリップのチャンネル番号が青く表示され、このストリップが現在トークバックチャンネルになっていることを示します。トークバックの信号は、トーク機能とボタンがアクティブになったときにCueに送られます。

Group

グループ オプションを使用して、複数のチャンネルを同時に管理したり、分類することができます。Group master(グループマスター)チャンネルは、グループ化されたすべてのチャンネルのレベルをコントロールしながら、各チャンネル間の相対的なレベルバランスを保ちます。



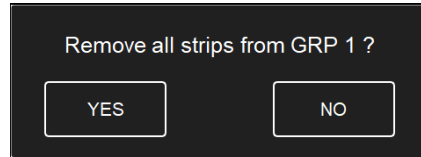
新しいグループを作成するには、Channel Menu で Group エントリを選択します。



チャンネルのオプションメニューを開き、グループを選択します。他のチャンネルのオプションメニューを開き、追加したいグループ番号を選択することで、他のチャンネルをグループに追加することができます。"No Group" を選択すると、グループからチャンネルを外すことができます。グループ化されたチャンネルは、グループマスターチャンネルに保存されます。

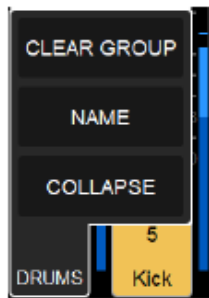
Clear Group

グループとその内容を消します。ダイアログが表示され、確認を求められます。

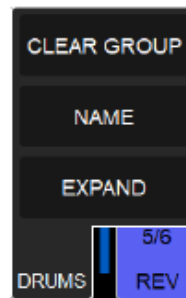


Group Name

グループを作成すると、Group Name でグループの名前を変更できます。グループ アイコンをタップすると、グループのチャンネルを表示/非表示させます。グループを作成するとこれを2つのモードで表示させることができます。



Collapse Group



Expand Group

Collapsed View:

チャンネルのグループ全体が 1 つのチャンネルとして表示されます。グループのすべてのチャンネルの一部は、チャンネルセクションの上部と下部に色が付いて表示されます。



Expanded group view

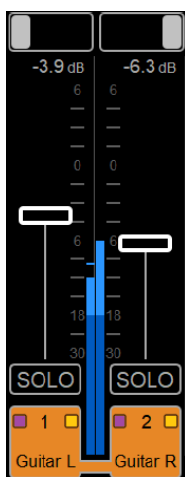


Collapsed group view

Clear group は、グループに含まれているチャンネルを外し、グループを消します。グループは最低1つのストリップが含まれていなければなりません。

Link / Expand Link

2つのチャンネルをリンクするオプションがあり、自由にチャンネルをパンニングすることができます。



チャンネルがリンクされると、両方の VU メーターが横並びになり、チャンネルの識別子がリンクされます。この例では、ギターの入力の左右をリンクしています。



チャンネルをリンクすると、両方のチャンネルに同じエフェクト (EQ, ダイナミクス, リバーブなど) をかけるのに非常に便利です。グループからリンクチャンネルを削除すると、両方のチャンネルが削除されます。

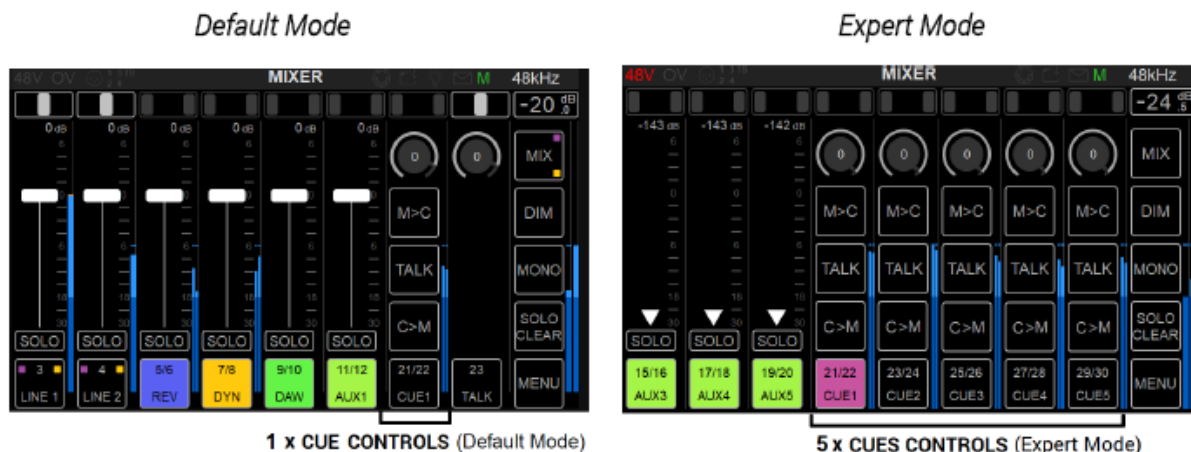
Note: グループが 2 つのリンクチャンネルだけで構成されている場合、そのうちの 1 つを削除すると、グループ全体が削除されます。



CUES MONITORING CONTROLS

ミキサーの右端には、CUES CONTROLS があります。これは、すべてのキューとそのモニタリングをコントロールするための表示です。

Default モードでは1つのCUEのみが表示され、Expert モードでは5つのCUEが表示されます。



Parameters



GAIN(trim)

エンジニア用リスン バックのレベル コントロール用の Cue Output Routing のレベルにアクセスします。演奏者のモニターレベルには影響しません。レンジ -144dB ~ +6dB



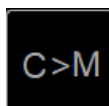
MON to CUE

アクティブにすると、メインミキサーが CUE ミキサーをオーバールートします。MON>CUE は、エンジニアが演奏者に録音したテイクを聴かせたい場合に便利です。この場合、DAW ソフトウェアのプレイバックチャンネルが演奏者の AUX を上書きして CUE に送られます。



TALK

CUE 上にある TALK を有効にしておく、Anubis Talkback ボタンを押したときに、このCUEに対して TALKBACKを行うことができます。



CUE to MON

MON>CUE は、エンジニアが演奏者の CUE ミックスをオーバールートして、録音したテイクを聞いてもらうのに非常に便利ですが、CUE>MON オプションはその逆で、エンジニアが演奏者の CUE ミックスのバランスをとったり、演奏者が聴いている音をモニターしたりすることができます。

Note: CUE to MONを使用している場合、Solo Clear ボタンはC>Mボタンに置き換わります。

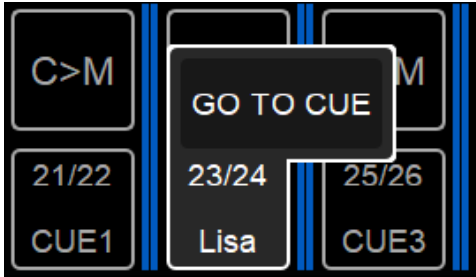


CUE Channel Numbering and Option Menu

デフォルトでは、CUE の名前は使用中の CUE ミキサーに対応しています。下部のチャンネルセクションをタップして CUE チャンネルメニューを開きます。チャンネルメニューの詳細は Channel Menu を参照してください。

Cue Channels Options

“Go to Cue” オプションは、直接 CUE ミキサーに移動するショートカットです。

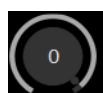




TALK Channel

トークバックチャンネル, レベル, パンニングのコントロールを提供します。内蔵入力にエフェクトを適用することもできます。

Note: デフォルトでは内蔵マイクにルーティングされていますが、別のチャンネル/マイクをトークバックマイクとして指定することができます。



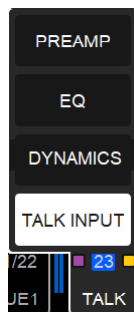
Talk Level

一番上のパラメータは、内蔵トークバックの入力ゲインおよびまたはトークバックの物理入力を使用する場合のプリアンプです。

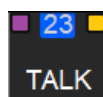


Talk Channel Numbering and Option Menu

チャンネルメニューを開くには、下部のチャンネルセクションをタップします。



TALKチャンネル内から、内蔵のトークバックプリアンプにアクセスするか、EQまたはゲートなどのダイナミクスをトークバックの内蔵マイクに適用します。詳細については、Channel Menu を参照してください。

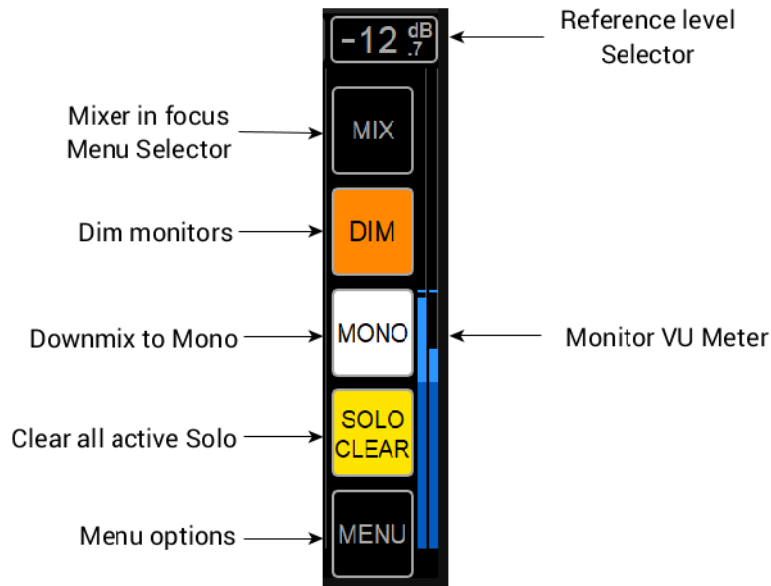


青く強調表示された番号は、内蔵マイクが選択されていることを示します。デフォルトでは、トークバックマイクとしてTALKINPUTがデフォルトで有効になっています。



MIXER CONTROL COLUMN

ミキサーの右側には、常にコントロールコラムが表示されています。モニタリング エLEMENTや機能、メニューオプションを提供されています。



Reference Level Selector

このゾーンをタップすると、リファレンスレベルフェーダーが開きます。デフォルトのリファレンスは-20dBになっており、Monitoring > Anubis Settings で設定できます(詳細は Settings の章を参照してください)。

MIX

Mixer を操作していることを表しています。このボタンでどの Mixer を操作するかを指定します。

DIM

メインモニターの DIM を有効にすると、スピーカーセットの音量値に DIM が適用されます。デフォルトの Dim レベルは-20 dBで、Anubis Settings > Monitoring > Dim Level で設定できます(詳細はSettings を参照)。

MONO

このオプションボタンは、ステレオモニターミックスの左右のチャンネルをモノにまとめます。モノラルスピーカーのミックスをモニターしたり、入力チャンネルの位相をチェックしたりするのに便利です。

SOLO CLEAR

チャンネルでソロを使用すると、Solo Clear ボタンが黄色に点灯します。Solo Clear ボタンをタップすると、すべてのチャンネルの Solo が無効になります。Solo Exclusive にするか Solo PFL モードにするかは Anubis Settings > Monitoring で設定できます(詳細は Settings を参照)。

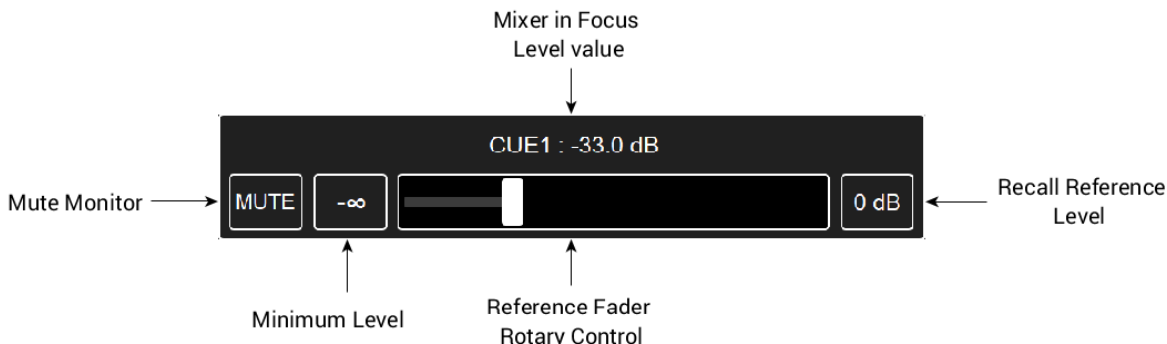
MENU

ミキサーの右下隅に位置し、ミキサーのパラメータとオプションを提供します。



REFERENCE LEVEL (Control Column)

選択したモニターの現在のリファレンスレベルを示します。Reference ボックスをタップすると、水平リファレンスフェーダーが表示されます。



リコール時に設定したいリファレンスリスニングレベルを決定するには、Settings セクションを参照してください。デフォルトでは、リファレンスレベルは-20dBに設定されており、Anubis Settings > Monitoringで、-144dB から +6dB の値範囲に設定することができます。

Mute: 選択されたバスの Ref をミュートすると、このバスがミュートされ、Anubis の Mute ボタンのステータスにも適用されます。ミュートはバスごとに独立しています。



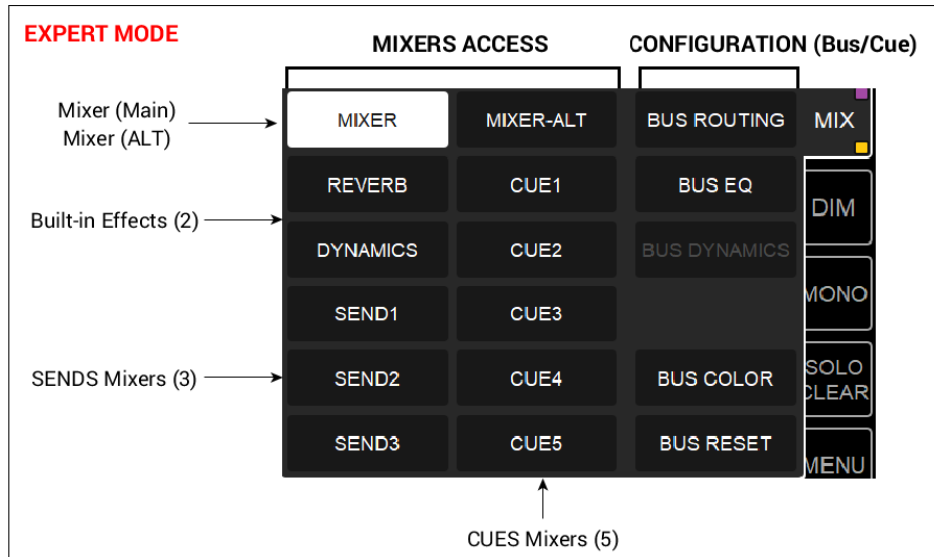
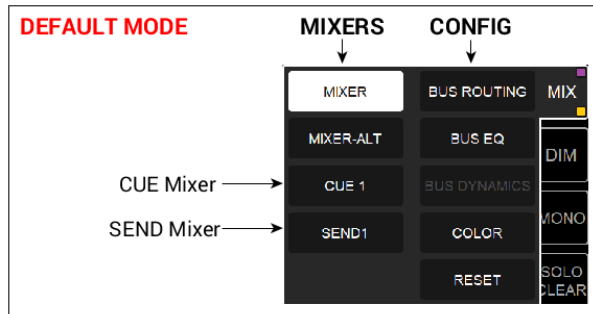
Note: Anubis のソフトボタンは、Anubis の物理出力に接続されたモニターバスをミュートすると赤に点灯します。



MIXERS (Control Column)

Music+Mission は複数のミキサーを持っています。1つのミキサーだけを使用する場合でも、Cue や Sends を使用する場合でも、エフェクターを使用する場合でも、どちらでも使用できます。操作したいミキサーやパラメータを選択することができます。

デフォルトではメインミキサーが表示されています。選択したミキサーに対して設定を行うことができます。



MIXER (MAIN) (1)

Main Mixer (通常はエンジニアのミキサー)を表示します。このミキサーは、複数のインプットをミックスしたり録音したりするために必要なすべての機能を備えたメインコンソールです。ミキサーの出カルーティングを設定するには、Menu を開いて行います。

MIXER ALTERNATE (1)

Mixer Alternate は、ヘッドフォンのモニター、A/B モニターセット、2.1、2.2 スピーカー レイアウトでのクロスオーバー(サブ用)、ヘッドフォンのクロスフィードなど、複数のオルタネイトモニターモードを提供します。

この Mixer Alternate は Main Mixer のクローンで、別のアウトプット セットにルーティングすることができます。工場出荷時には、Mixer Alternate は Headphone 1 にルーティングされています。



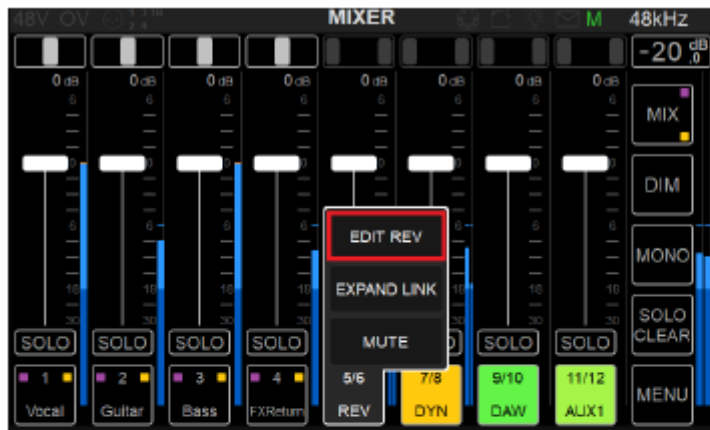
REVERB and DYNAMICS (1 + 1)

Rotary Sends ビューを開き(ホームボタンをタップ)、FX を適用したいチャンネルストリップでReverb、Dynamics、SEND 1 Rotary のいずれかを選択して Anubis のロータリーエンコーダーを使ってセンドレベルをコントロールします。

下の例では、Rotary Sends ビューを開き、ボーカルとギターにリバーブをかけています。エキスパートモードでも、Reverb Sends フェーダーミキサービューから同様の操作を行うことができます。



Reverb view は Reverb Return チャンネル ストリップからアクセスします。



MERGING+REVERB view

Mixer Reverb Return (Dry/Wet)



Mixer Reverb インпут リターン ストリップを上げて Dry/Wet のレベルを調整してください。

Expert Mode の Reverb ミキサーフェーダー ビューで EDIT ボタンを選択すると、Reverb ページ が開きます。



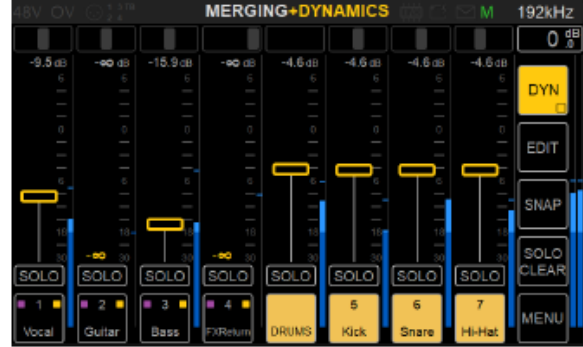
同様のことが Dynamics でも行えます。

下の例では、パラレルコンプレッサーであるDynamics に音を送る様子を Rotary Sends ビューまたは Expert モードの Dynamics Sends Fader ビューで見せています。

Default mode Rotary Sends



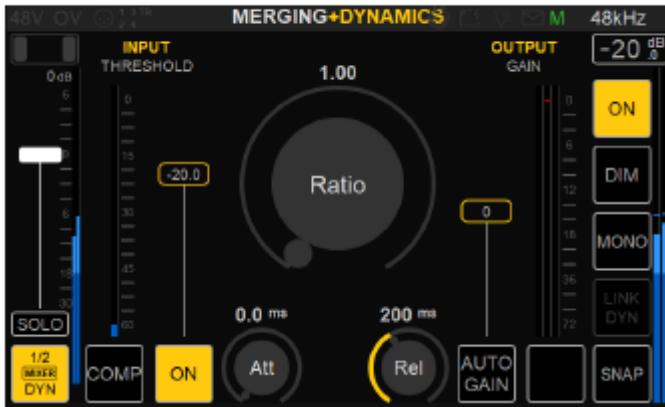
Expert mode Built-in MERGING+DYNAMICS Sends Faders



エフェクトのパラメーターと操作方法は Effect のセクションを参照してください。

Note: Dynamics のパラメータは SET/EDIT ボタンで調整することができますが、ミキサーの Dynamics input return ストリップを上げて全体のレベルを調整してください。

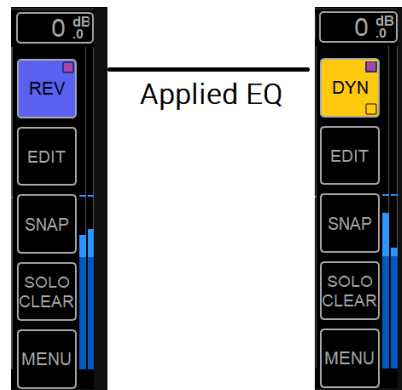
MERGING+DYNAMICS view



Mixer DYNAMICS Return (Dry/Wet)



Note: EQは Reverb バス と Dynamics バス にもかけることができます。

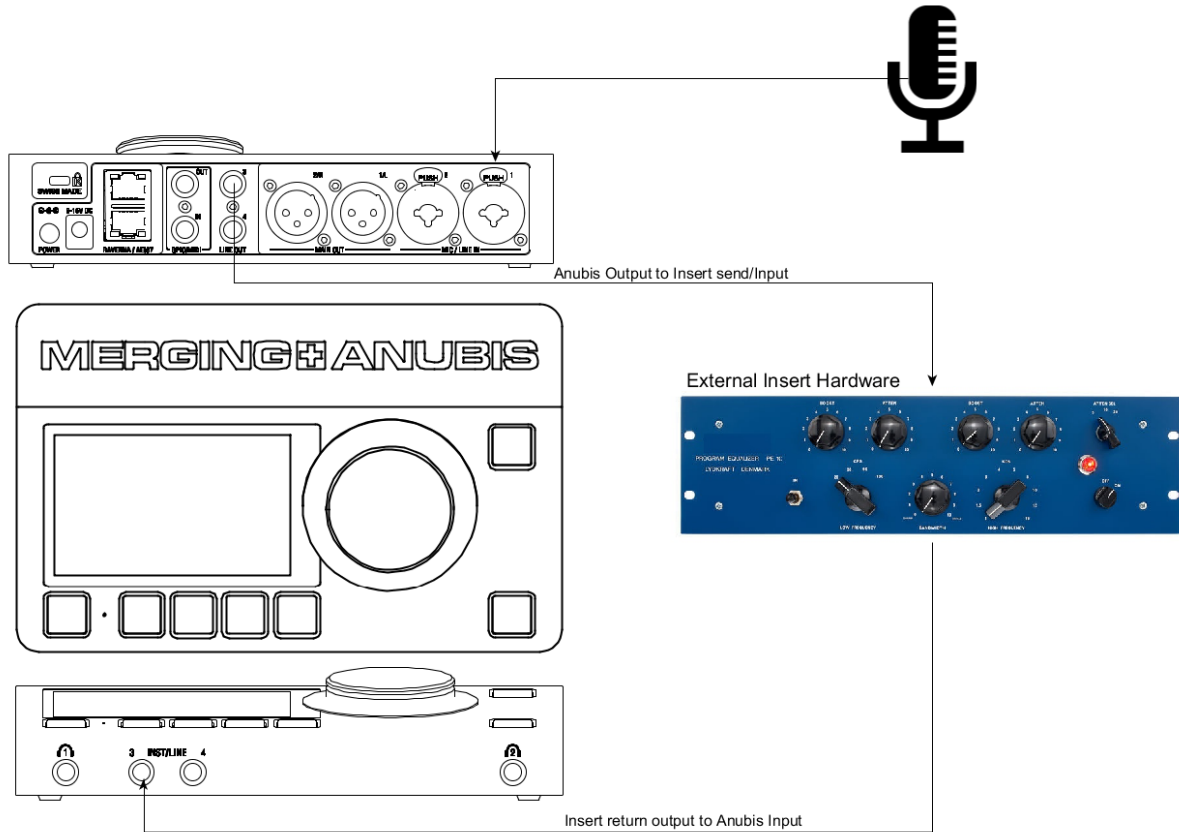




SENDS (3)

ミキサーは Expert Mode にすると 3つの Send バス、Default Mode では 1つの Send バスが用意されています。これらのバスは 外部のエフェクトプロセッサなどに使用することができます。Input と Output のルーティングを設定してください。

Hardware Insert を使用するには、このマニュアルの Hardware Insert のセクションを参照してください。



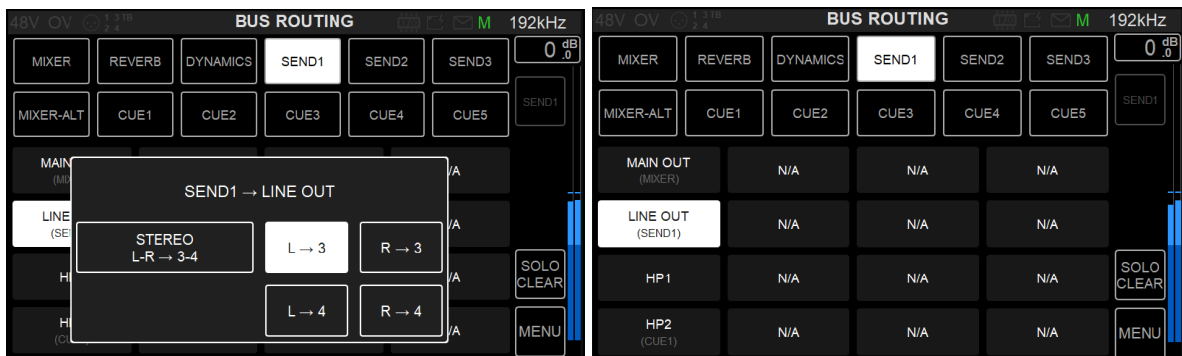
Note: Anubis Sends は DAW とは関係なく操作することができます。

Sends>Returns Typical scenario

外部のアナログ ハードウェアを接続して、これをミキサーやストリップに接続します。

Procedure

この例では、外部ハードウェアを Anubis Output, Line Out (L-3)に接続しています。これは Output Routing ページで設定できます。

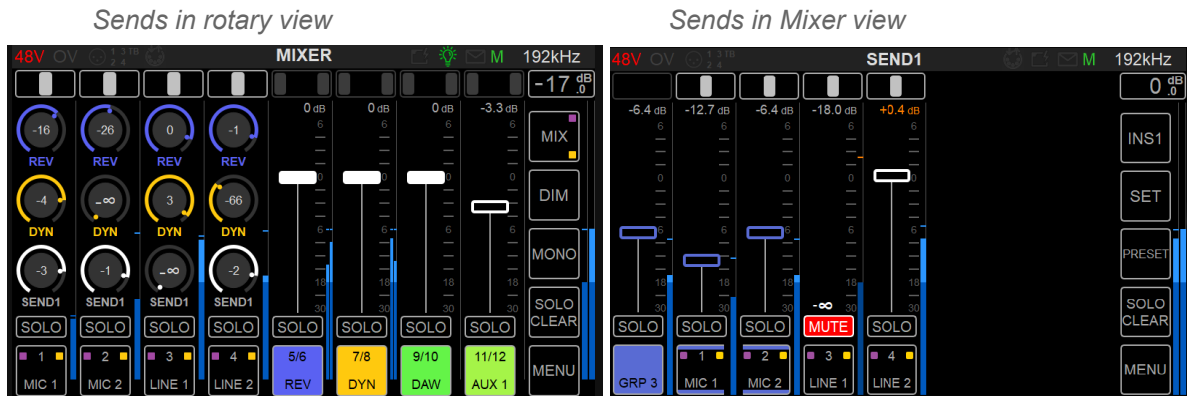




外部ハードウェアのリターンを Anubis の入力 (Instrument/Line Input 3) に接続しています。

最後に、Send 1 Mixer を開き、ストリップ レベル フェーダーを上げて、どのチャンネルをこの外部ハードウェアに送るかを決定します。

重要: フィードバックループを起こして、スピーカーや最悪の場合は耳にダメージを与えないように、Send Mixer の Return チャンネルを Mute して行ってください。



この様に設定を行うことで、Anubis の Combo 入力 1 の歌手の声にエフェクトを適用することができます。

注意: Setereo External Sends の場合、Channel pairs (例: Line Outputs 3-4 と Line Inputs 3-4) を接続し、左右のパンをフルに設定してください。

Mixer ページに戻るには、Anubis のホームボタンを押してください。

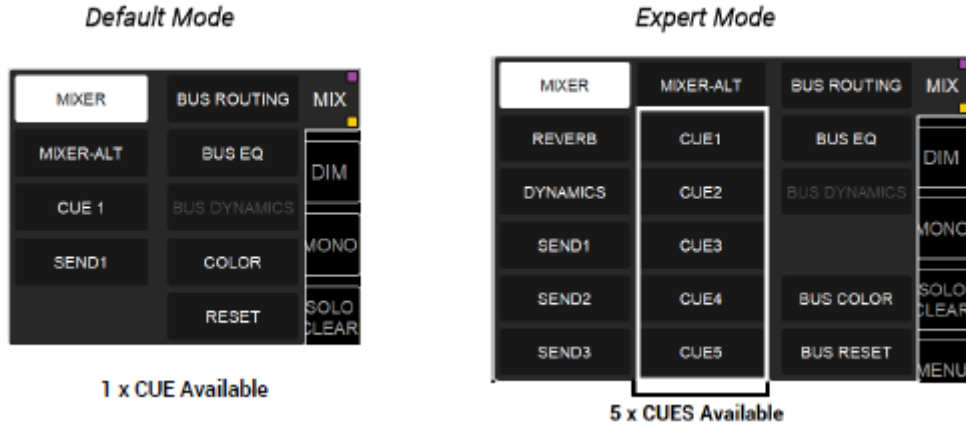




CUES (5)

Music Mission には 5つの低遅延の Cue Mixer があります。ここにメインミキサーとは別のミックスをつくるのが可能です。CUE は、パフォーマーへのフォールドバック ミックス用として使用します。

Note: デフォルト モードでは、1 x CUE が、エキスパート モードでは 5 x CUES が利用可能です。



Cueでは、パフォーマーの Anubis へのダイレクトインプットを Aux とミックスすることができるため、遅延の問題を回避することができます。レコーディング後、パフォーマーは M>C (Mon to Cue)を使用して、DAWの出力を聴くことができます。

CUES Operating Modes

すべてのCUESは、CUEごとに独立したミキサーを持つ「CUEモード」と、CUEミキサーがメインミキサーの複製となり、マスターゲインとマスターエフェクトを持つ「Mixer Alternate (MIX-ALT)モード」の2つのモードで動作します。「Mixer Alternate モード」では、CUEはCUEモニタリングセクションに表示されなくなり、右側のパーコントロールはメインミキサーのものと同じになります。このモードは、メインミックスを異なるバスからモニターする場合に便利です。

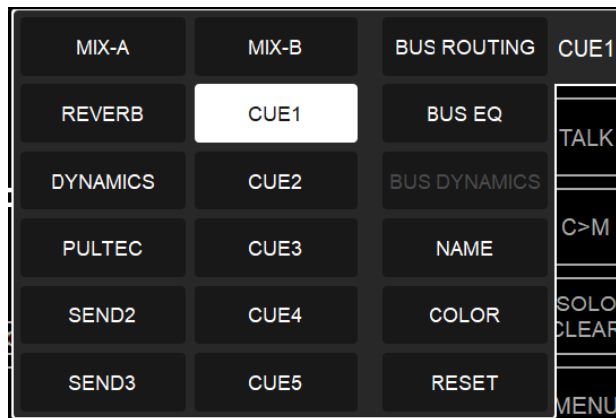
注意: CUE のオペレーションモードは、"Settings" > "Monitoring" ページで変更できます。

Cue Customization

キューの名前を変更し、色付けし、それらをローカルまたはピアしている出力にルーティングできます。CUE バスをルーティングするには、Menu Output Routing セクションで行ってください。

CUE Mixer selection

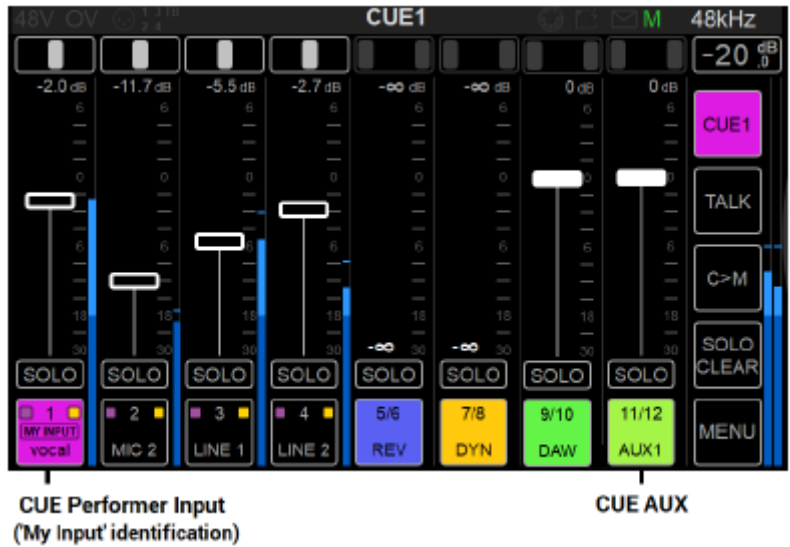
ミキサーオプションメニューから、設定または使用するCUEを選択します。





選択したCUE Mixer が表示されます。これはMixとは完全に別のミキサーです。

CUE 1 Mixer Fader display



CUE Display Layout

多くの場合、Cue ミックスは演奏者のダイレクト入力に入れられた音と DAWからの Auxバスのミックスで構成されます。レイアウトは、デフォルトでは各CUEとAUXで構成されています。

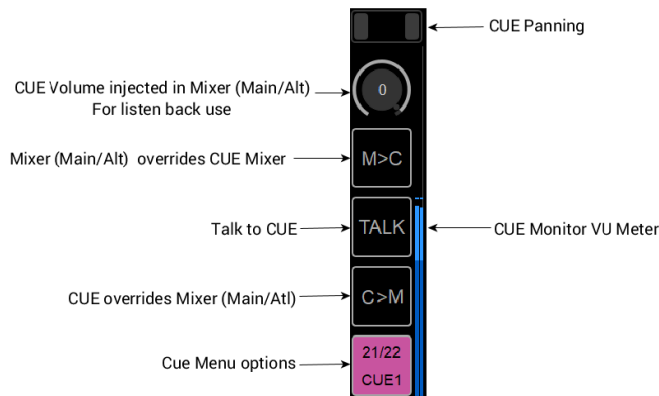
- Cue 1 は ソフトウェア プレイバック(DAW)に使用される AUX 1 を表示します。
- Cue 2 は ソフトウェア プレイバック(DAW)に使用される AUX 2 を表示します。
- Cue 3 は ソフトウェア プレイバック(DAW)に使用される AUX 3 を表示します。
- Cue 4 は ソフトウェア プレイバック(DAW)に使用される AUX 4 を表示します。
- Cue 5 は ソフトウェア プレイバック(DAW)に使用される AUX 5 を表示します。

SHOW ALL AUX (Column Menu)

この操作をすると、すべての DAW のAUXプレイバックを表示することができます。デフォルトCUE と AUX ミキサーのアサインを変更したい場合に使用します。

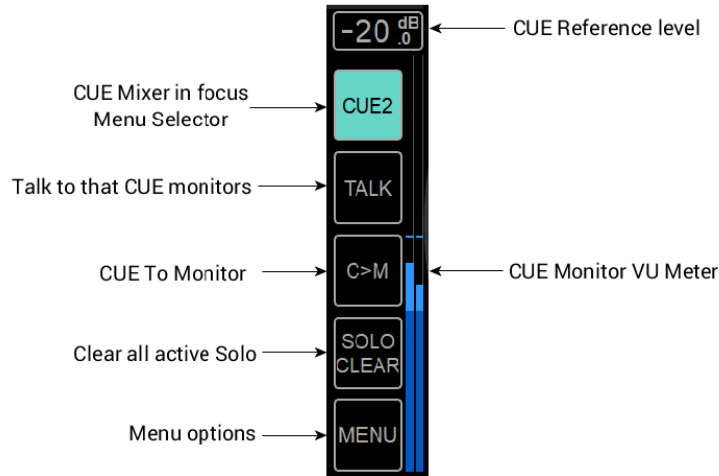
CUES Monitoring Controls

この表示を使うと、アーティスト用のCueをモニターしながらミックスしたり、録音したテイク(DAW再生)を聴かせたり、すべての CUE や個々の CUE にトークバックしたりなど、全ての機能をエンジニアがコントロールできます。





CUE では、表示がエンジニア用 Cueモニタリングコントロールに変わります。エンジニアはアーティストと話をしたり、CUE を聴いてアーティストに聴かせるミックスを作ることができます。



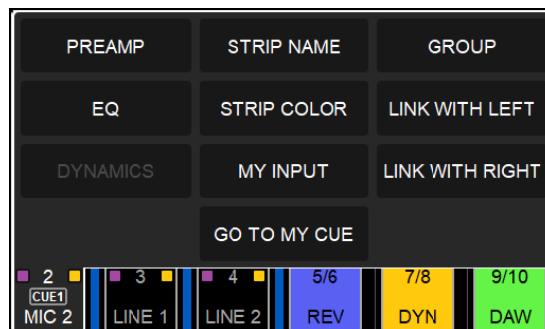
Cue to MON engaged

“CUE to MON” をオンにすると、“Solo Clear” ボタンが “C>M” に換わり、Cue をモニターしていないことが警告されます。デフォルト モードでは 1つの CUE が表示され、エキスパートモードでは 5つの CUE が表示されます。



My Input

“My Input” は、ライブ入力と CUE を識別する用途に使用します。これにより、パフォーマーの入力とCueが区別され、明確な識別とコントロール オプションが使用可能になります。





Go to My Cue

Channel optioni は、Cue Mixer へのショートカットです。"My Input" が設定されている場合に表示されます。

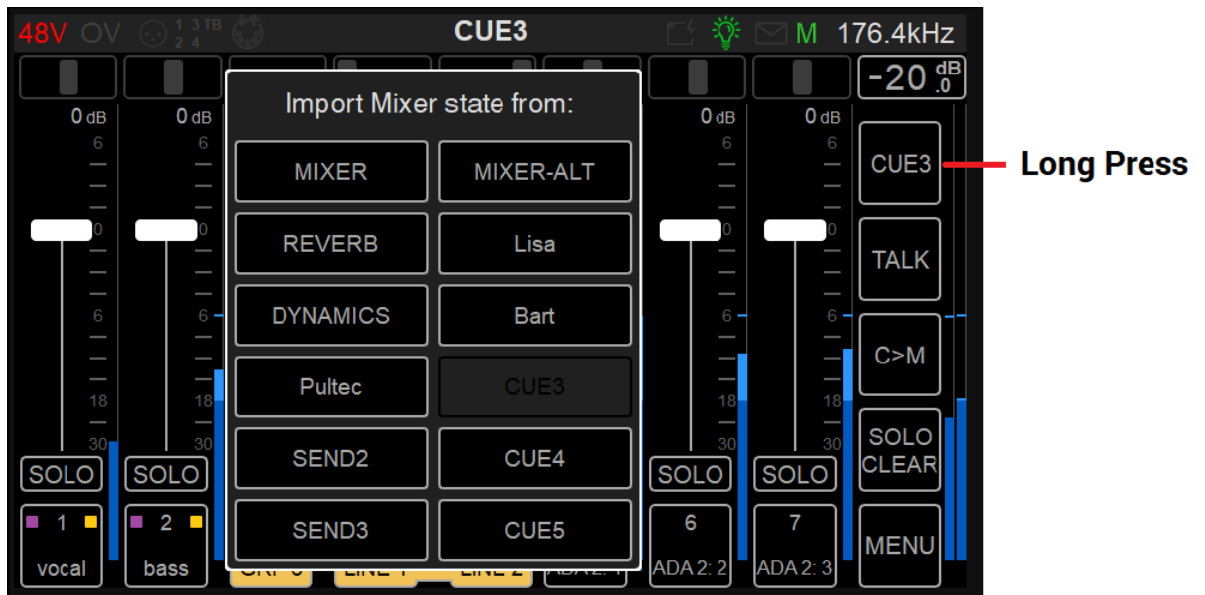


IMPORT MIXERS

現在ミックスしているミキサーに別のミックスバランスをインポートすることができます。複数のCUESがある場合、それらを同じミックスからスタートしたい場合に、迅速で効率的なワークフローが可能になります。

How to Import Mixers

1. インポートしたいミキサー/CUEで
(この例では、CUE 1のミキサーをCUE 3にインポートしたいとします)



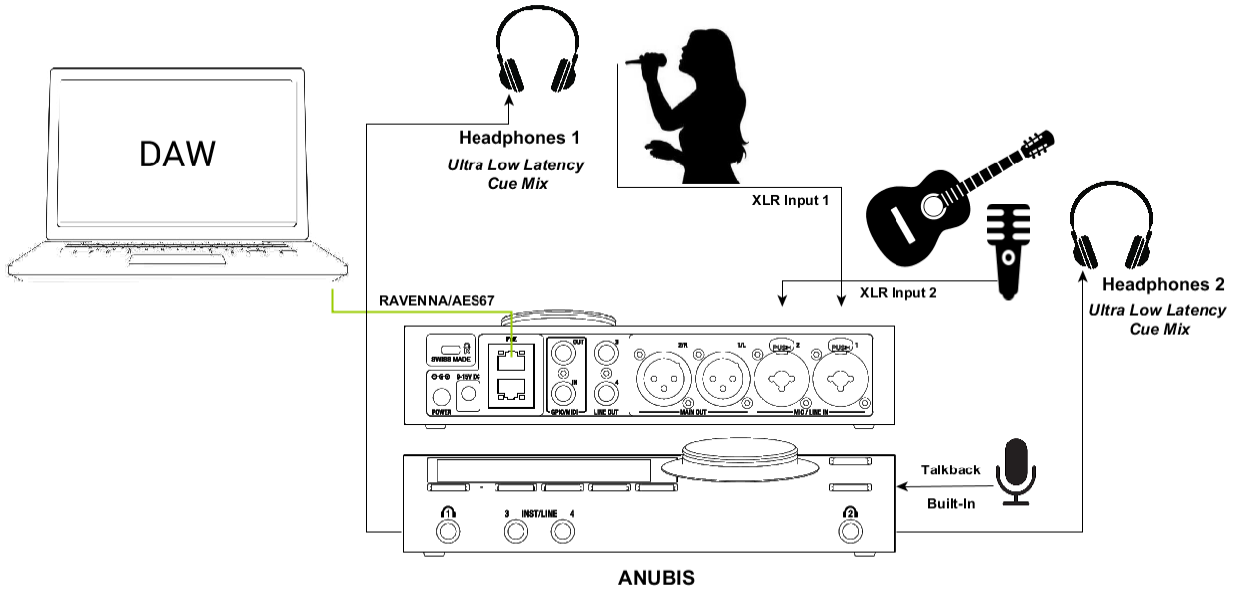
2. CUEボタンを2秒間長押しします。
3. “Import Mixer” ダイアログが表示されます。
4. インポートしたいミキサーを選択してください。
現在の CUE ミックスがインポートされたものの上に書き込まれます。



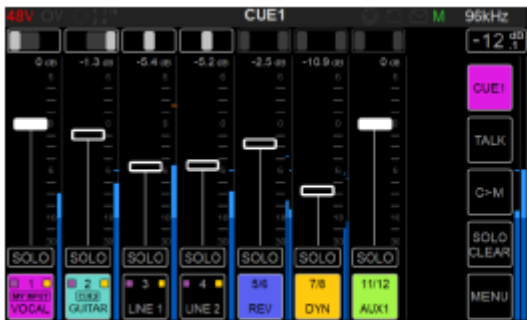


Cues Set Up Example

シンガーとギタリストはそれぞれ別の超低レイテンシーのCueミキサーを持つことができ、それぞれのCueは "my inputs" で識別されます(ストリップチャンネルオプションメニューを参照してください)。



各パフォーマーはそれぞれ別の Cue Mixer を持っています。



CUE 1 Mixer - Vocal (performer)

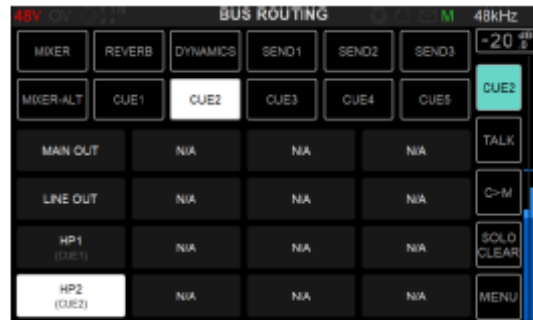


CUE 2 Mixer - Guitarist (performer)

バス出ルーティングは、CUE 1 から HP1、CUE 2 から HP2 に行っています。



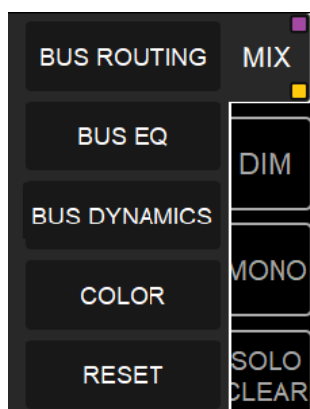
CUE 1 Routed to HP1 - Vocal (performer)



CUE 2 Routed to HP2 - Guitarist (performer)



BUS PARAMETERS



BUS ROUTING (Mixer Menu)

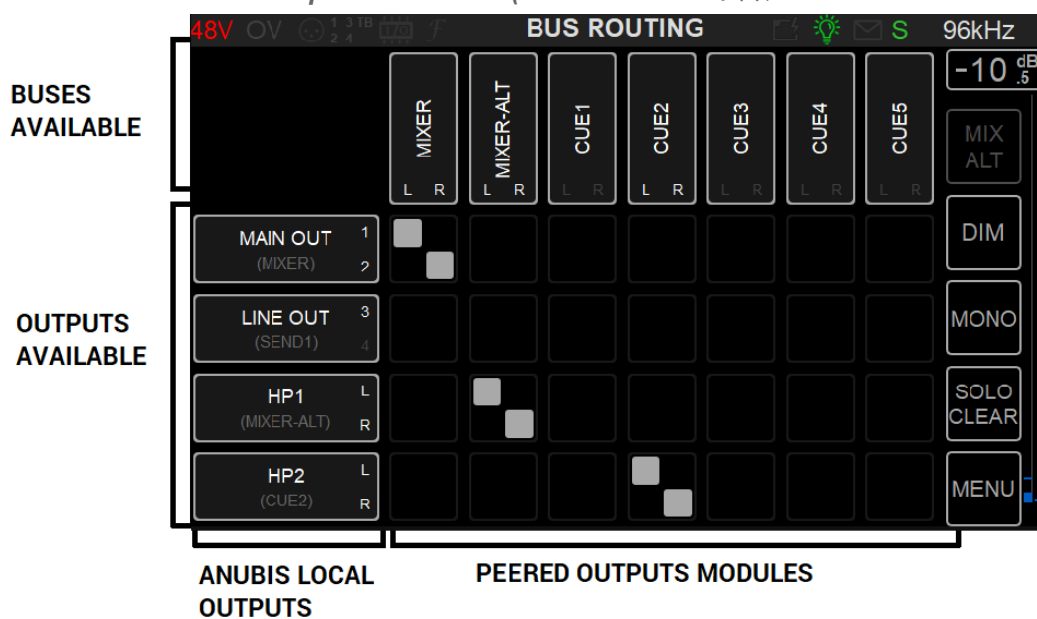
BUS ROUTING

バスルーティングの設定は、Mix Configuration ダイアログと Menu オプションからも開くことが可能ですが、どちらも同じ Bus Routing configuration ページにリダイレクトされます。

バスのルーティングの設定は、各ミキサーバスの出力をパッチし、Mixer や Sends, Cue をモニターするための基本設定です。

Note: Default モードでは、利用可能なバスのセットが少なく表示されます。拡張表示させるには Expert モードに切り替えてください。

Expert mode view (Firmware 1.2.5 以降)



Anubis で他のデバイスをピアリングしている場合、それらのデバイスはペアで表示されます。ピアリングは Expert モードでのみ使用できます。



Note: バスルーティングがローカルの Anubis の出力に接続されると、Anubis のソフトボタンがそのバスの色で点灯します。



How to configure the Bus Routing

Mixer Bus は Routing ダイアログの最初の行に表示されています。パッチを行いたいミキサーのバスをタップすると、白でハイライトされます。

Default mode Bus Routing



Expert Mode Bus Routing



その後、パッチしたい出力名をタップします。ダイアログが開き、使用できる出力を選択することができます。Anubisで他のデバイスをペアリングしていない場合、ローカルの出力のみが使用可能です。

Legacy (firmware 1.2.4 and prior)

MAIN OUT (MIXER)	N/A	N/A	N/A
LINE OUT (INSERT1)	N/A	N/A	N/A
HP1 (MIXER-ALT)	N/A	N/A	N/A
HP2 (CUE1)	N/A	N/A	N/A

New Bus Routing (Firmware 1.2.5 and higher)

MAIN OUT (MIXER)	1	2							
LINE OUT (SEND1)	3								
HP1 (MIXER-ALT)	L	R							
HP2 (CUE2)	L	R							

選択された出力は白でハイライトされます。工場出荷時のルーティングは以下のようになっています。

- Mixer(Main) -> Anubis Main Out XLR 1 & 2
- Mixer-Alternate -> Anubis Headphones 1
- CUE 1 -> Anubis Headphones 2
- Send 1 -> Anubis Line out TRS3 & 4

Bus ルーティングを設定するには、ルーティング先となる出力ペアをタップしてください。Routing ダイアログが開き、ステレオまたはモノラルでのルーティング、またはステレオルーティングを反転させることができます。

Note: Mono ルーティングと Stereo チャンネルの反転は、Expert モードでのみサポートされています。



Routing Patch Dialog (expert mode only)

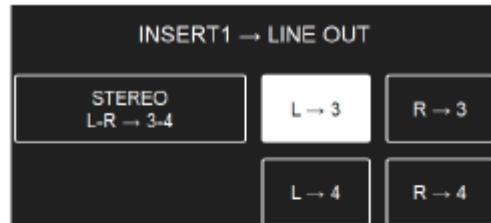


- Stereo L-R -> 1-2 :Bus を Anubis の Stereo Channel Pair (1-2) に送ります。
- L -> 1 :Bus の左チャンネルを Anubis (out 1) に送ります。
- R -> 1 :Bus の右チャンネルを Anubis (out 1) に送ります。
- L -> 2 :Bus の左チャンネルを Anubis (out 2) に送ります。
- R -> 2 :Bus の右チャンネルを Anubis (out 2) に送ります。

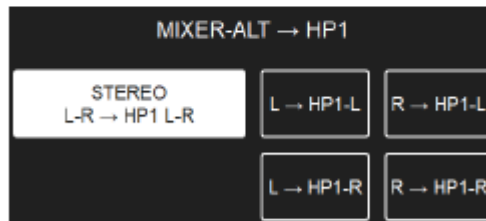
Bus Routing Examples



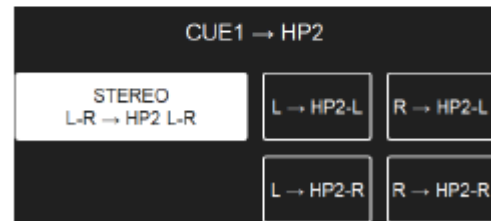
Mixer Main: Routed to Anubis XLR Outputs 1-2



Send1: Routed to Anubis TRS Outputs 3



Mixer ALT: Routed to the Anubis HP1 (1-2)



Cue1: Routed to the Anubis HP2 (1-2)

ルーティングされると、アウトプット セクションには使用中の Mixer Bus 名が表示されます。

注:L-1とL-2を選択すると、どちらか一方が選択されます。このようなパッチングは、シンプルにステレオを選択してください。



MAIN OUT (MIXER)
LINE OUT (INSERT1)
HP1 (MIXER-ALT)
HP2 (CUE1)

Main out (1-2) には MIXER 出力が送られています。

Line out (3-4) には SEND 1 出力が送られています。

Headphone (1) には MIXER ALTERNATE 出力が送られています。

Headphone (2) には CUE 1 出力が送られています。

Warning: ルーティングされた出力チャンネルを二重で使用することはできません。ルーティングされているチャンネルを他のミキサーバスで使用することはできません。

Mixer ページに戻るには、Anubis のホーム ボタンを押してください。



BUS EQ

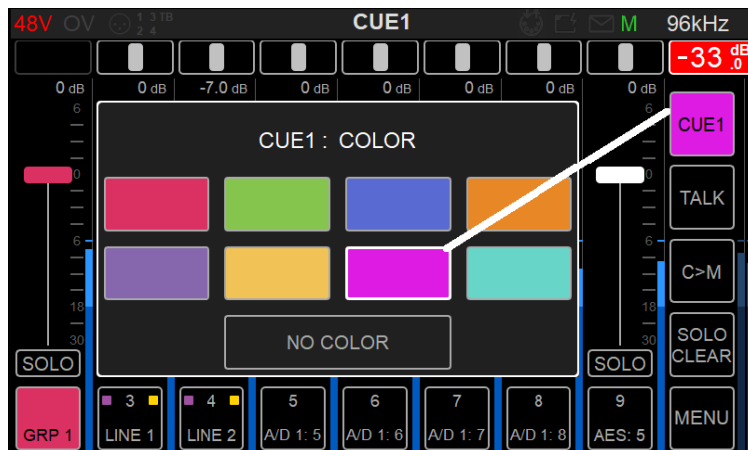
Anubis BUS EQ へアクセスします。詳細は Effect のセクションを参照してください。
EQは Pyramix のプラグイン EQ-X をベースにしており、DXDまでのサンプリング周波数で動作します。

BUS DYNAMICS

Anubis Dynamics へアクセスします。

BUS(CUE) Color

Mixer の識別を容易にするために色をつけます。
パレットの 8色から選択することで Mixer の選択した部分に色を付けます。この例では CUE 1 にBourgogneカラーをつけた例です。



RESET

Bus Reset を行うと選択している Mixer を初期化します。

- 全てのフェーダーは 0dB にリセットされます。

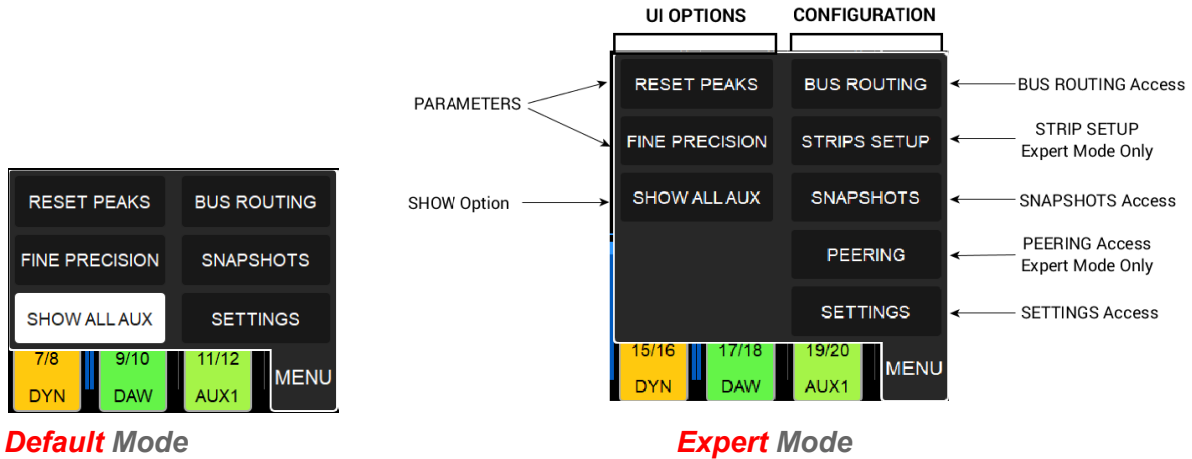


- Pan はセンターにリセットされます。
- Solo/Mute はリセットされ、Disableとなります。
- Bus Monitor レベルはリセットされず、変更されません。



MENU OPTIONS (Control Column)

Mixer の右下隅にあるメニューには、Mixer のパラメーター設定とオプション機能があります。



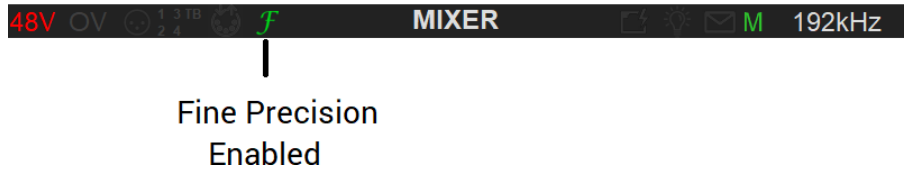
RESET PEAKS

Reset Peak を選択すると Mixer ページの Meter Peak がリセットされます。

FINE PRECISION

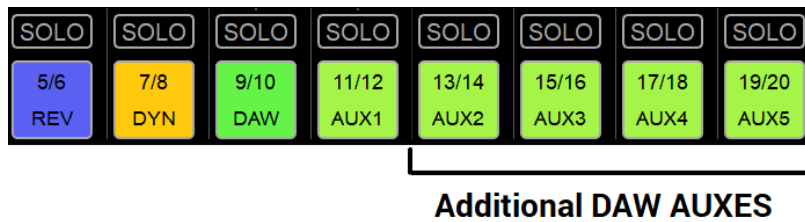
フェーダーをドラッグしたときの感度を設定します。スムーズで正確なフェーダーの動きの調整を行うには、Fine Precision オプションを有効にしてください。この機能は、Normal と Fine で切り替わり、フェーダーにのみ影響します。

Fine 時では、Anubis のタスクバーに F が表示されます。



SHOW ALL AUX

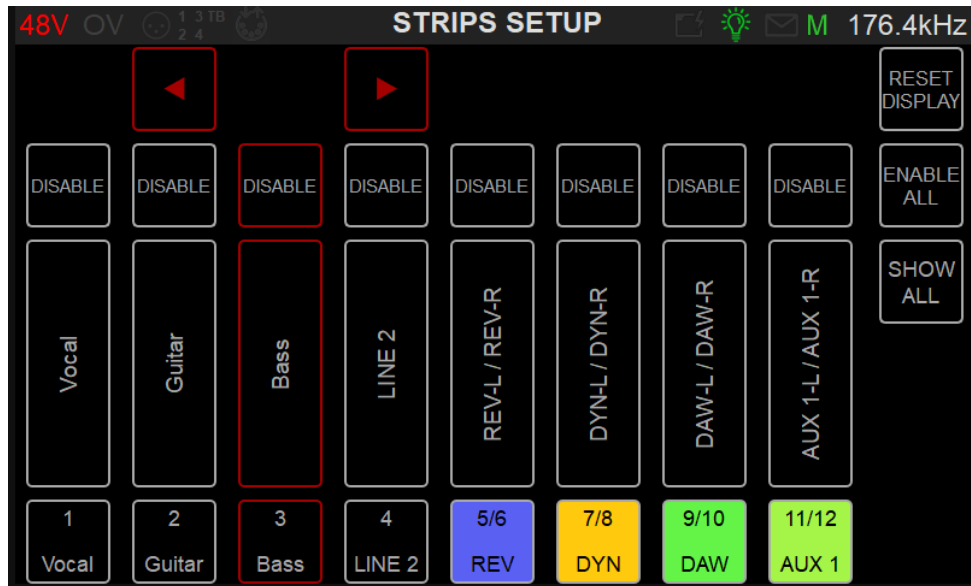
5 × AUX を表示させます。Default モードでは、DAW と一つのAUXのみが表示されます。



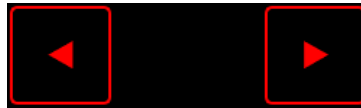


STRIPS SETUP

Strips SetUp は Expert モードの場合にのみ利用可能で、ストリップを移動して Mixer のレイアウトを整理するために使用します。



ストリップを移動するには、まず移動したいチャンネルを選択します。選択したチャンネルは赤でハイライトされ、2つの矢印が表示されず。矢印をタップしてチャンネルを左右に移動させてください。



Note: ストリップがすでにミキサーの端(左端か右端)にある場合、矢印は1つだけ表示されます。

Group Mater を選択した場合、Group 化されたチャンネルはすべて同時に移動します。Group 内のチャンネルを選択した場合は個別に移動させることができます。

Reset Display

ストリップのレイアウトをデフォルトのストリップ レイアウトにリセットします (Peered inputs, Local Inputsの順)。

Enable All

すべてのストリップを Enable にします。

Show All Strips

Setup ページで Disable になっているストリップを表示するオプションです。

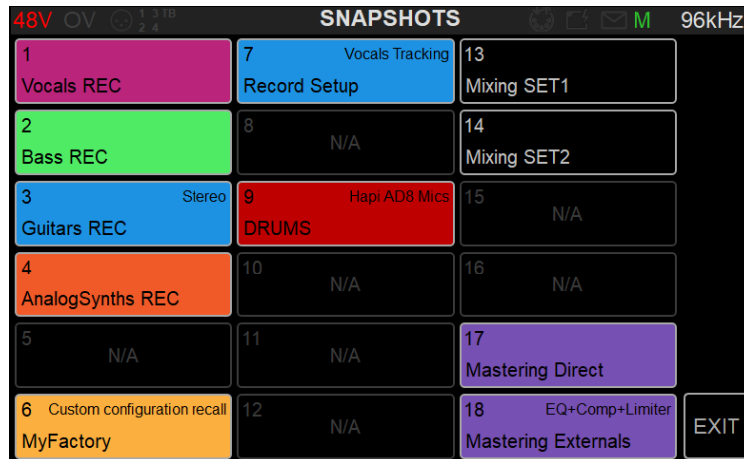


Strip SetUp での操作が完了したら、Anubis のホームボタンを使用して変更を適用し、ページを終了してください。

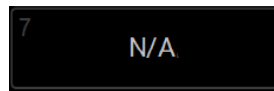


SNAPSHOTS

Anubis Music Missionには18個のスナップショットがあります。Session, Song, Mixer, Mastering, Live Set List など、Anubis の設定を保存して呼び出し、コメントを追加することができます。スナップショットをリコールすると、Anubis の設定全体がリコールされます。

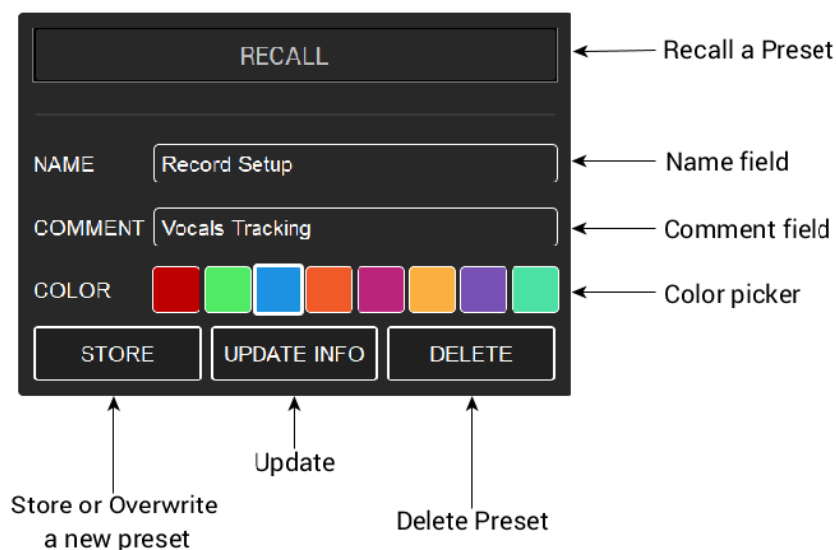


空 (N/A) のスナップショット エントリをタップすると Snapshot ダイアログが開きます。



Snapshot ダイアログでは、Snapshot の名前、コメント、色を設定し、Snapshot プリセットを保存することができます。

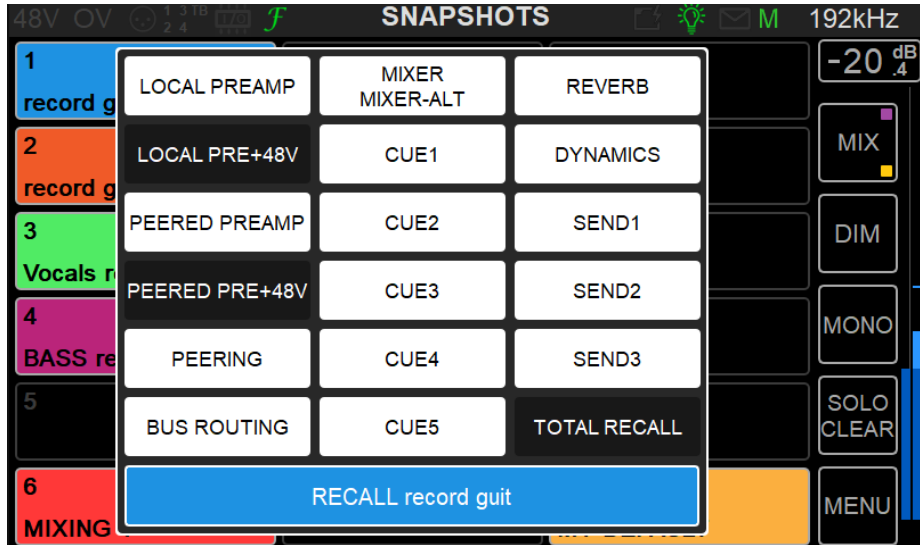
Name と Comment は編集可能なテキストフィールドで、選択するとキーボードが表示されます。Color, Store, Update, Delete は ボタンを単純に選択してください。



Recall, Update, Delete など、Loadした Snapshot を管理します。



Selective Snapshot Recall (Firmware 1.2.5 以降)



Snapshot で呼び出したいエレメントを白色にして Enable にします。

Local PreAmps: Anubis の PreAmp のパラメーターをリコールします。

Local Pre+48V: PreAmp と +48V の状態をリコールします。

Peered PreAmps: ピアしている PreAmp のパラメーターをリコールします。

Peered Pre+48V: ピアしている PreAmp と +48V の状態をリコールします。

Peering: ピアしているデバイスの IO をリコールします。

Bus Routing: 全てのバスルーティング マトリクスのパッチをリコールします。

MIXER & MIXER-ALT: Main Mixer の全体(フェーダー, パン, エフェクト, グループ, リンクなど)をリコールします。

Cue 1 to Cue 5: 選択している Cue Mixer をリコールします。

REVERB: リバースをリコールします。

DYNAMICS: ダイナミクス パラレル エフェクトの状態をリコールします。

Send 1-3: 選択している Send のパラメーターをリコールします。

Total Recall: Anubis全体が設定とともにリコールされます。

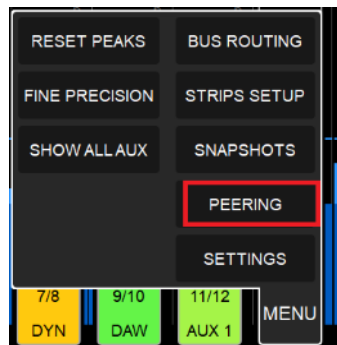
Note: Total Recallのみ、Snapshot で保存された設定を読み込むことができます。



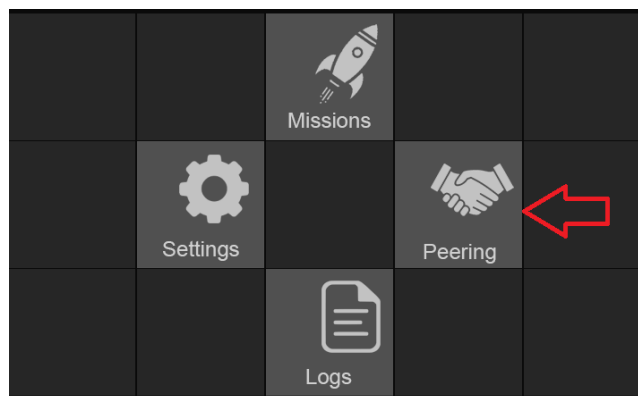
PEERING

Devices	Modules	Inputs	Outputs
Hapi_90003	AES 1	1-8	1-8
	AES 2	1-8	1-8
	AES 3	1-8	1-8
Horus_80064	A/D 1	1-8	n/a
	A/D 2	1-8	n/a
	D/A 3	n/a	3-4

Peering(ピアリング)は Expert Operation モードでのみ使用できます。Settings で Expert mode を有効にしてください。

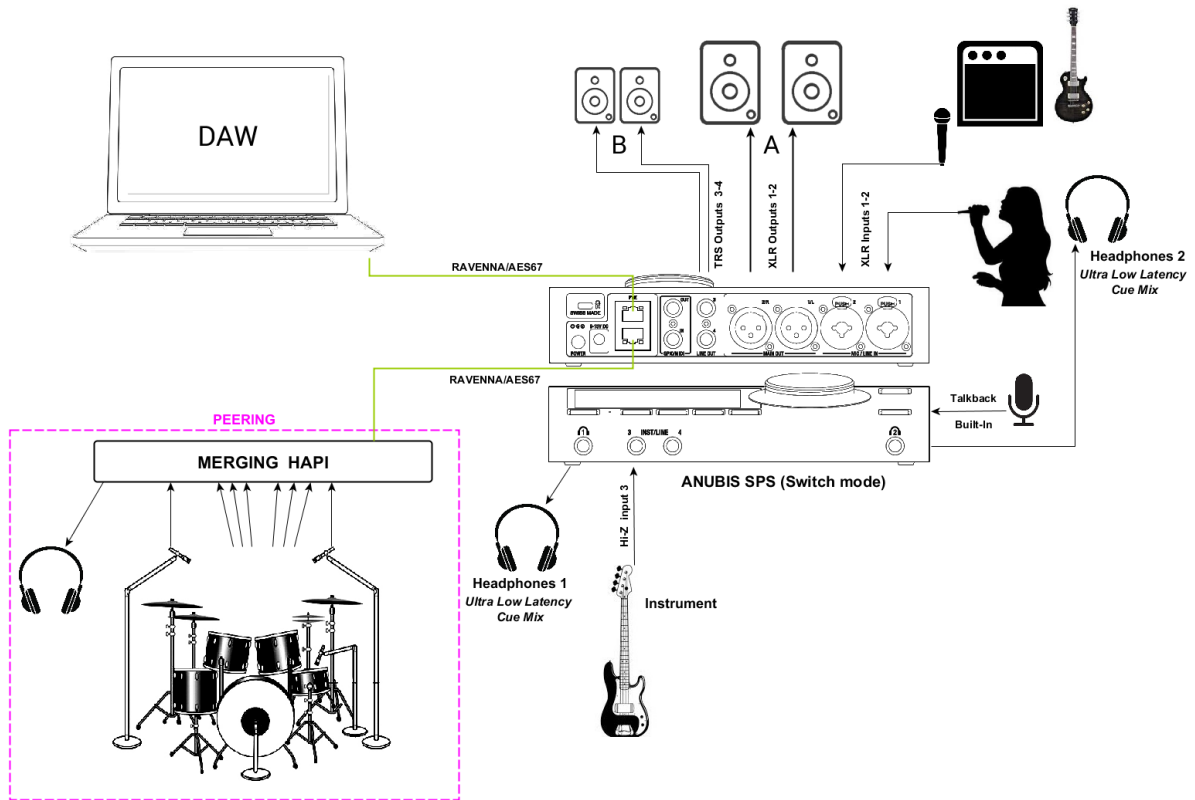


Peering は Anubis Home Page から 常時アクセス可能です。



Peering は、同じネットワーク上にある Hapi, Horus 別の Anubis を見つけることができます。Peering ページ内から、使用するIOモジュール(AD、AES、MADI、ADAT...)を選択することができるので、Anubis を簡単に拡張し、より多くの IO を使用することが可能になります。

Note: Peering はシステム(PC/Mac)を必要とせず2台のスタンドアローン デバイス上で実行できます。



セットアップ例: Merging Hapi は Anubis で Peering されているので、Hapi の A/Dモジュール(ドラム マイク) は Anubis の超低遅延エンジン内でミックスされ、パフォーマーの Cues に使用できます。

Peer to Expand the Anubis IO

外部システム(PCやMAC)や ANEMAN のようなアプリケーションを使わなくても、簡単に Anubis のIOを増やすことができます。

それらのデバイスが Merging デバイスであり、同じ RAVENNA ネットワーク上にある場合、Anubis はそれらのデバイスモジュールを発見し、Peer することができます。

Peer to Mix the IO for inputs or Outputs purpose

ミュージシャンの低遅延 Cue ミックスでは、他のデバイスからの入力を簡単に Anubis 内でミックスできるように、Peering が必要です。

他のデバイスからの入力モジュールを Peering すると、その入力モジュールが Anubis の Mixer ビューに表示され、Anubis でそれらの入力をミックスし、ローカルまたはデバイスの出力に戻すことができます。

応用例: Anubis は、Peer した Hapi のドラム用の 8つのマイクをベースプレーヤーのヘッドフォン用 CUE として低遅延ミキサーでミックスします。ドラムの Peer されたチャンネルは、ベースプレーヤーの好みに合わせてミックスでき、Anubis の楽器入力に接続したベースとミックスできます。

同様のことは出力側でも行えます。別のデバイスの出力(例えば、ドラマーが使用する Hapi のヘッドフォンジャックなど)に出力するミックスを作成することもできます。

Peer for Remote Control PreAmps

Peer された別のデバイスのADモジュールは、Anubis の PreAmps ページ でリモートコントロールすることができます。

PreAmps ページ の詳細については、User Manual の PreAmps セクションを参照してください。



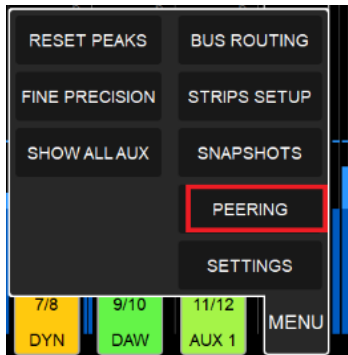
How to peer a device

Requirements:

- Horus, Hapi, Anubis など、複数の Mergig デバイスを持っていること。
- Horus, Hapi は ファームウェア 3.9.10 以降のものを使用してください。
- Anubis は ファームウェア 1.3 以降であること。
- Anubis と同じ RAVENNA ネットワークに接続されているか、または Anubis SPS ポートに直接接続されていることを確認してください。

警告: 複数の Anubis を Peering することは可能ですが、別の方法で行います。"[Multiple Anubis Peering](#)" をお読みください。

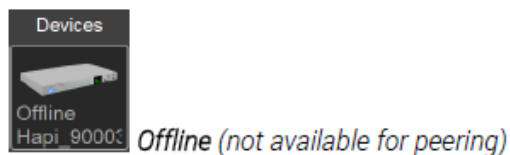
1. RAVENNA デバイスを Anubis と同じネットワークに接続します。
2. Anubis メニューで Peering ページを開きます。



3. オンライン デバイスは、左の列に表示されている必要があります。

Devices	Modules	Inputs	Outputs
Horus_80064	AES 1	1-8	1-8
	AES 2	1-8	1-8
Offline Hapi_90000	AES 3	1-8	1-8
	A/D 1	1-8	n/a
	A/D 2	1-8	n/a
	D/A 3	n/a	1-8

4. Peering したいデバイスを選択します(ここでは Horus を例にしています)。このデバイスがオンラインであることを確認してください。



5. 選択すると、Peering で利用可能なデバイス モジュールとIOが開きます。Horus のような多くのIOがあるデバイスでは、ページを下にスクロールしてください。



48V 0V 12V		Peering	M	96kHz
Devices	Modules	Inputs	Outputs	
 Horus_80064	AES 1	1-8	1-8	
	AES 2	1-8	1-8	
 Offline Hapi_90003	AES 3	1-8	1-8	
	A/D 1	1-8	n/a	
	A/D 2	1-8	n/a	
	D/A 3	n/a	1-8	

48V 0V 12V		Peering	M	96kHz
Devices	Modules	Inputs	Outputs	
 Horus_80064	MADI 1	25-32	25-32	
	MADI 1	33-40	33-40	
 Offline Hapi_90003	MADI 1	41-48	41-48	
	MADI 1	49-56	49-56	
	MADI 1	57-64	57-64	
	Headphone	n/a	1-2	



6. モジュール内で Anubis と Peering したい I/O を選択します。ダイアログを開き、モジュールの I/O に応じて、8 チャンネル、4チャンネル、2チャンネルが選択できます。

AES 3 : PEERED OUTPUT CHANNELS

1-8	1-4	1-2
	5-8	3-4
		5-6
		7-8

Note: 例として AES 3 モジュールの出力 1-8 と A/D 1 の入力チャンネル 1-8 を Peering します。

AES 3	1-8	1-8
A/D 1	1-8	n/a

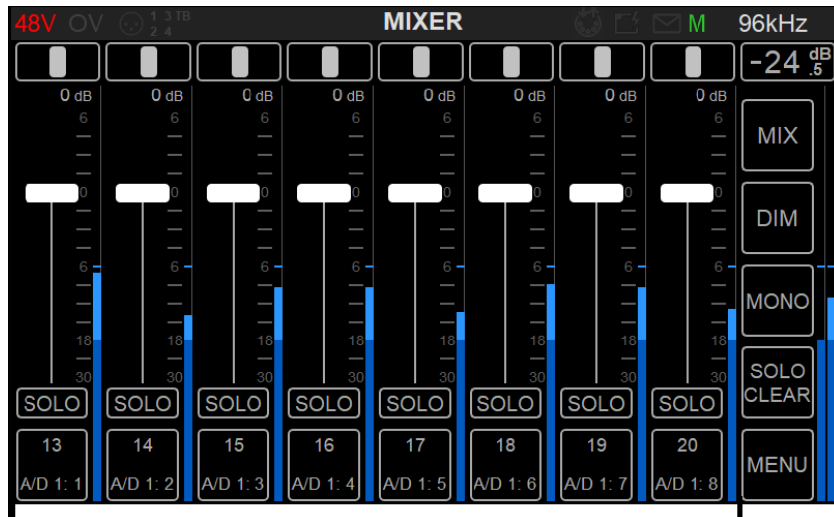
7. Peer するとインジケータは緑色になります。



注: ピアリングされたADモジュールは、プリアンプのMIDIプリアンプチャンネルの開始番号  を示します。以下の例では、リモートプリアンプは、A/D1ピアードモジュールのプリアンプ#5として開始されます。

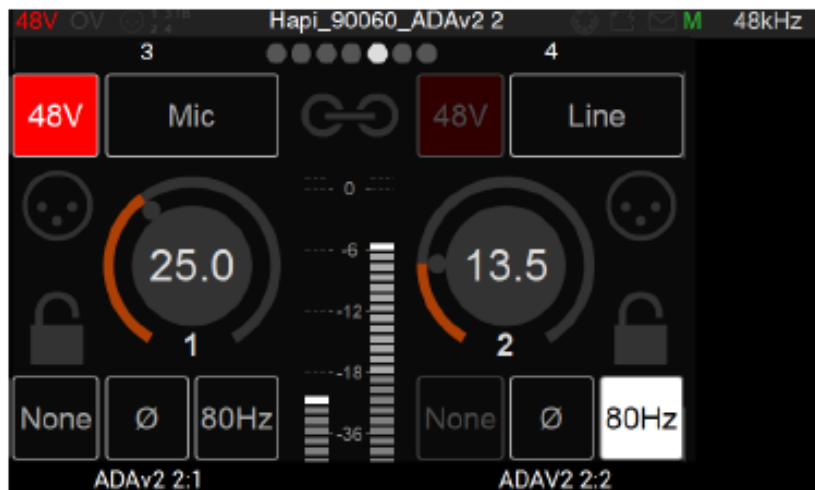


8. Home ボタンを押して Peering ページから出てください。
9. Anubis ミキサーにPeerしたチャンネルが表示されます。ミキサーのUIの右側にスクロールしてください。



Peered Channels

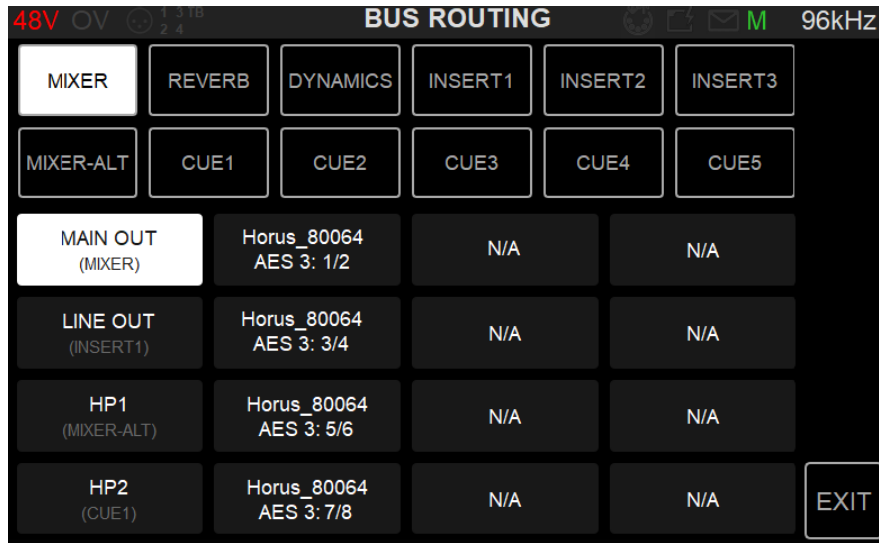
10. Peer された ADモジュール は、ローカルの Anubis PreAmpsに続いて Anubis PreAmps ページに表示されます。PreAmps ページでスワイプすると、Peer された PreAmps にアクセスすることができます。



Note: Peer されたモジュールの PreAmp は、一部のパラメータ (Cut, Lock, Boost) をサポートしていない場合があります。



11. Output Channels は、Bus Routing Settings (MIX または Menu エントリからアクセス可能)でも利用可能で、ペアでのルーティングが可能です。



MADパネルやVADパネルでUNITEを行うと、DAWに録音するインプット ストリームの接続が行えます。

注: Peered出力は、Anubis Bus Routing からのみ使用ができ、Unite では使用できません。これらをDAWに接続したい場合には、ANEMANでこれらの接続を行う必要があります。

Anubisを拡張して、AnubisのMixエンジンとBus Routingで利用できる追加のI/Oを使用できるようになりました。詳しくは Bus Routing の項をご覧ください。

オフラインのモジュールは Mixer で表示して調整することができますが、グレー表示になります。オンラインに戻ると 新しいパラメータが適用されます。



Offline Peered Inputs (grayed out)

Peering Rules

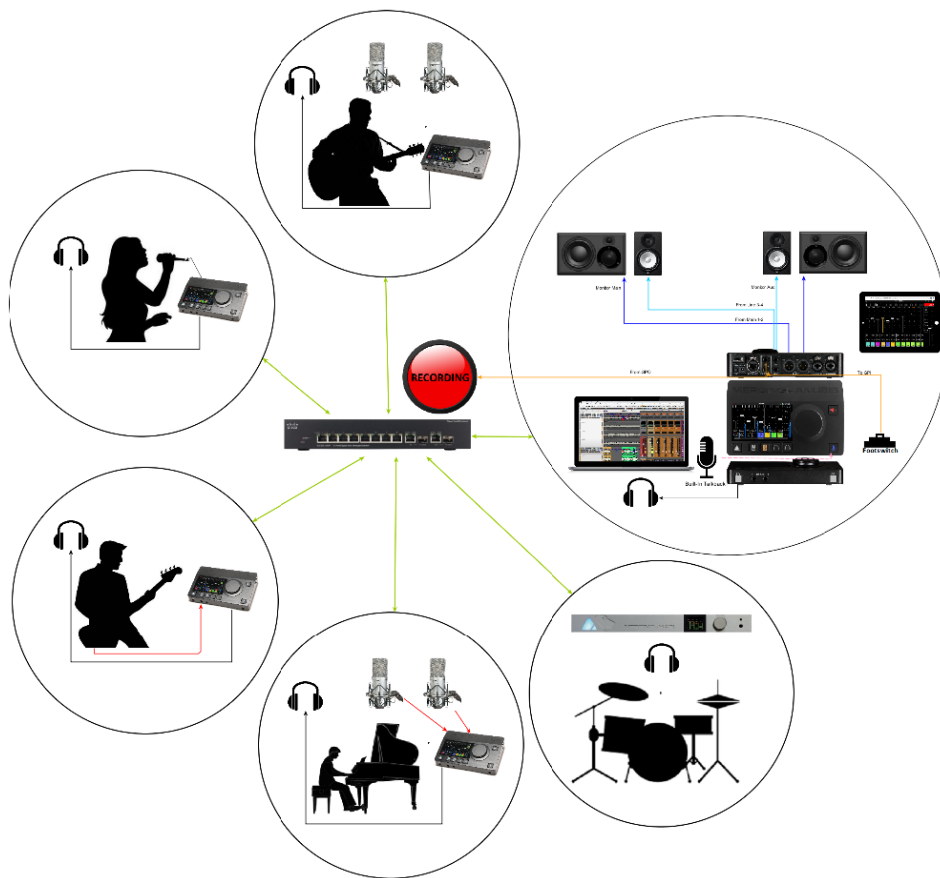
- Peering は Anubis からのみ可能で、Merging RAVENNAデバイスを使用する必要があります。
- 64の Peering入力(1~8チャンネルのモジュールを8つ)をサポートしています。





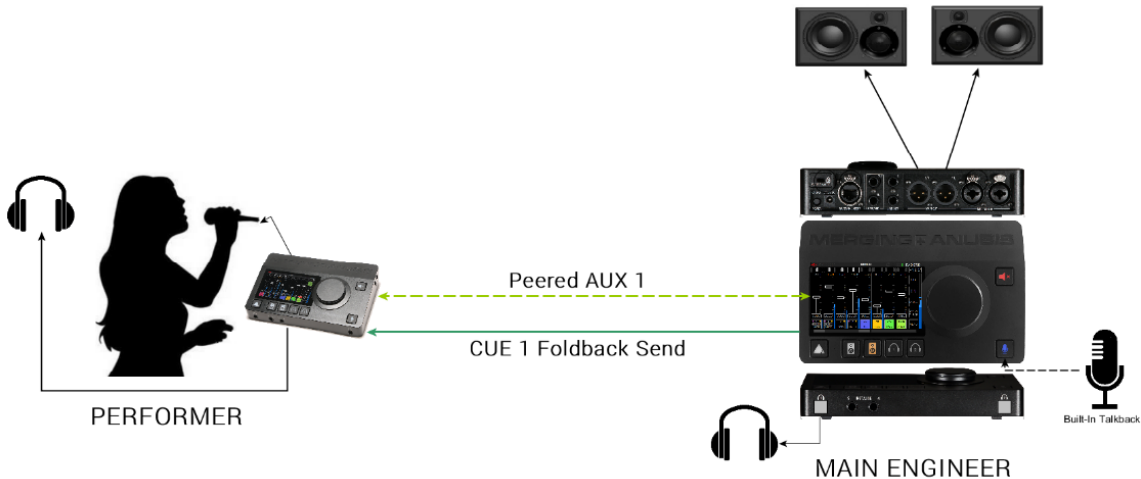
- 1台の Anubis で、4FS(192kHz)までで 48 の I/O、DXD 352.8 または 384kHz では 24 の I/O (Anubis のローカル入力を含む) が使用できます。
- 1つの出力モジュールは、1つのデバイスからしかピアリングできません。他のデバイスが同じ出力モジュールをピアリングした場合、前のデバイスは切断されます。
- 2台目の Anubis は、他の Anubis がすでにピアリングしている入力モジュールをピアリングできます。
- Peering はユニキャストで行われます。マルチキャストを使用したい場合は、ANEMANを使用してください。
- オフラインデバイスのモジュールは、Peering できず、Un-Peer のみ可能です。
- Peering はシステム(PC/Mac)を必要とせず、2台のスタンドアロンの Merging RAVENNA/AES67 デバイスで実行できます。
- モジュールのピアリングを解除して再度ピアリングすると、フェーダーレベルが 0 にリセットされます。

Multiple Anubis Peering



同じネットワーク上に複数の Anubis がある場合、演奏者が自分の Anubis 内で専用のエフェクトを使い、自分の Cue ミックスをつくりたい場合があるため、別の手順が必要となります。

このシナリオでは、複数の Anubis を別々の録音ブースにいる複数のパフォーマーが使用している場合を想定します。想定しているのは演奏者にフォールドバック ミックスを送り、演奏者はそのフォールドバック ミックスに自分のダイレクト インputをミックスして演奏します。



Procedure

1. すべてのAnubisと他のRAVENNA/AES67機器が同じネットワークに接続されている必要があります。
2. コントロールルームの Anubisは、他のAnubisへ Auxを送る Main Anubisとして機能し、各アーティストは、Performer Anubis を持っているとしてします。
3. DAWのプレイバックが必要な場合は、まず Main Anubisに接続して、入力をモニターして、最終的に Cue ミックスに送れる状態にします。
4. Main Anubis の Peering ページを開き、Performer Anubis のDAWまたはAUXを Peering してCue ミックスを送ります。

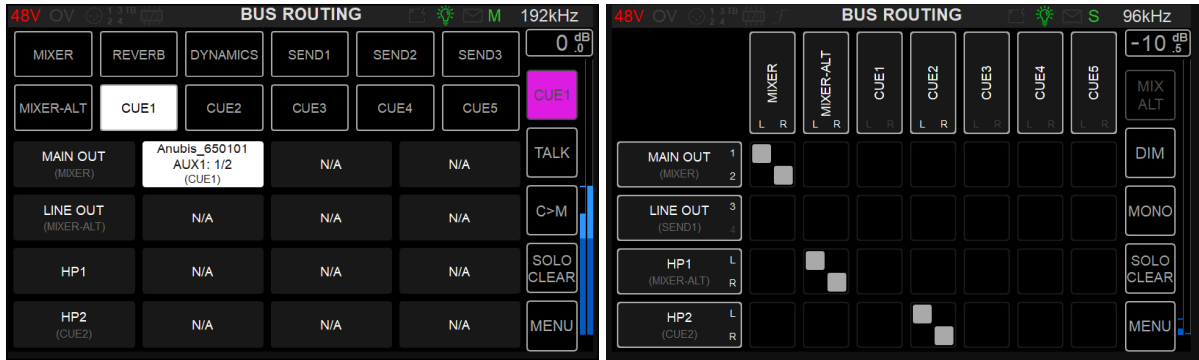
Note: Performer Anubis の入力をピアリングすることもできますが、レイテンシーが若干増加し、Performer Anubis のプロセッシング エンジン (Reverbなど)を使用することができなくなります。



5. Main Anubisでは、演奏者の入力はミックスせず、演奏者へのCUE ミックスを用意します。この Cue ミックスは、現在演奏しているミュージシャン全員のダウンミックスでも、メトロノームのクリックトラックでも、DAWソフトのプレイバック(AUX出力)でも構いません。この最初の Cue ミックスの準備ができたなら、Bus Routing ページでこのミックスをPerformer Anubisの AUX1:1/2 に送ります。

Legacy (firmware 1.2.4 and prior and higher)

New Bus Routing (Firmware 1.2.5)



Note:このような場合、CUEのボリュームレベルを -20dB に設定し、触らないようにすることをお勧めします。

6. パフォーマーは、この Cue ミックスを AUX1入力として受け、自分のダイレクト入力チャンネルをミックスしたり、EQ、ダイナミクス、リバーブなどの独自のエフェクトをかけて聴くことができます。

Notes:

- エンジニアはWebアクセスページを使って、Performer Anubis の CUEミックスをリモートコントロールすることができます。
- エンジニアは SetUp ページで Performer Anubis の Strip Layout を設定して、演奏者に必要なフェーダーだけをAnubisのLCDに表示させることができます。これで演奏者は、自分のダイレクトマイクとミックスを僅か数本のフェーダーで調整することができます。
- その他のワークフローの例を挙げると、例えばドラマーは Anubis と Hapi AD8を接続して、Anubisですべての入力をミックスし、エンジニアは録音用のプリアンプをコントロールしてDAWでモニターすることができます。

Talkback and Return Talkback

エンジニアは、Anubisの内蔵トークバックマイクや専用のマイク入力を使って、パフォーマーと対話することができます(上記セクションのトークバックの説明を参照)。

パフォーマーが Back Talk を必要とする場合は、Anubisの内蔵マイクや専用のマイク入力を使用することができます。この場合、パフォーマーは BackTalk用マイクをCUEに入力して、Peerしたエンジニアの Anubis の Aux に送ってください。

1. 演奏者の Anubisから、エンジニア用 AnubisのAUXの1つに Peerします。
2. 演奏者の AnubisでBus Routingを開き、利用可能なCUEを選択し、このCUEをEngineer AnubisのAUXにパッチします。
3. エンジニアの Anubisで、パフォーマーのAUXをメインミキサー内で、バックトークとしてモニターします。
4. エンジニアの Anubisで、パフォーマーに送るCUEに、バックトークが送られているAUXチャンネルのフェーダーをミュートしてください。そうしないと、演奏者にもバックトークが聞こえてしまいます。





ANUBIS BUILT-IN EFFECTS



Anubis Music Missionには3つのビルトイン エフェクトが搭載されています。これらのプラグインをAnubis ミキサー (Strip, Returns, Bus) で使用すると、内部のDSPエンジンでリアルタイムに動作します。

MERGING+EQ

MERGING+DYNAMICS

MERGING+REVERB

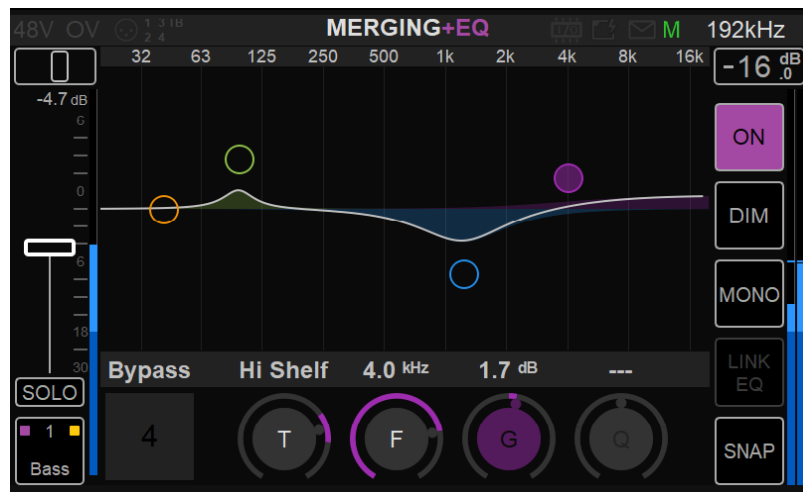
内蔵プラグインは、パフォーマーのCUEにソリューションを提供します。超低遅延の CUE Mixer にエフェクトをかけ、イコライゼーション、コンプレッション、リバーブ をミキサーチャンネル入力で完璧なリスニング環境を提供し、アーティストの最高のパフォーマンスを引き出すことができます。

これらのエフェクトはスタンドアローンで使用することも、DAWで録音することもできます。

Note: 3つの利用可能な Send のうちの 1つを使用して、自身の エフェクト プロセッサに使用することができます。



MERGING+EQ



Anubis EQ は Pyramix EQ-X をベースに作られており、DXDまでのサンプリング周波数でエクストリーム デフィニション フィルタリングを提供します。

Anubis EQ は 4バンドのフルパラメトリックEQ で、各バンドごとにフィルタータイプ、ゲインブースト/カット、周波数、Qファクター（帯域幅）を独立してコントロールすることができます。notch, low cut, Hi Cut, peak, shelving のフィルター タイプが用意されています。このエクストリーム デフィニション イコライザーのフィルター設計は、最高のオーディオ解像度に対応するために特別に最適化されていますが、その一方で非常に低ノイズと低歪みを持っており、可聴域（および非可聴域）全体を通して -110dB 以上の THD+N を持っています。もちろん、この新しいデジタルフィルターのトポグラフィーは、高サンプルレートを考慮して設計されていますが、1FSでのイコライゼーションでも低ノイズとなっています。

EQは、任意の入力(Local または Peered)または 任意のバス出力（ヘッドフォンやルームコレクションなど）に入れることができます。EQ リソースは累積されるのではなく共有されます。これにより、Input や Output ごとに複雑なイコライゼーションが可能となり、Music Missionでは 4バンドの合計 21 x 4バンドEQを任意のサンプリングレートで使用することができます。

ANUBIS EQ FEATURES

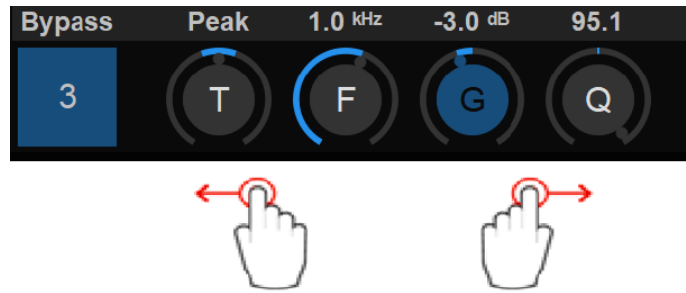
- すべてのユーザーがEQを使用可能
- サンプリング周波数 44.1kHz ~ 352.8kHz (DXD), 384kHzまで対応
- 1チャンネルあたり最大4バンド、合計21のEQインスタンスが任意のサンプリングレートで利用可能

ANUBIS EQ RESTRICTIONS

- DSDでは対応していません
- 周波数とQの設定にタッチパネル操作はできません
- Present はありません
- クロスオーバーには 1 EQ (4バンド)を使用します



ANUBIS EQ PARAMETERS CONTROLS



操作: 操作したいパラメータをタップし、ロータリーコントローラーを使用して変更してください。

EQバンドの選択: 周波数帯を選択したら、設定したいUI自体の周波数帯をタップして、パラメータコントロール上で左右にスワイプして、隣接する周波数帯にアクセスします。

Bypass

2

Band チャンネル番号: バンドを選択して Bypass をタップすると、そのバンドのみがバイパスされます。(例: バンド2) Bypassのデフォルト値: Disable



Filter Type

5種類のフィルター タイプが全てのEQバンドで使用できます。

Types:

- Low Cut (Lo Cut - high pass filter): 6 dB per octave
- Low shelving (Lo Shelf)
- Peak (Parametric)
- High shelving (Hi Shelf)
- High Cut (Hi Cut): 6 dB per octave low pass filter

Note: 12dB/Oct で使用するには 2つのバンドを使用します。

デフォルト値: Peak



Band Frequency (up to 4)

バンドの中心周波数を設定します。

Unit: Hz と kHz

Value Range: 20Hz / 20kHz

Default Value for first five bands: 31Hz / 125Hz / 500Hz / 2kHz / 8kHz

Step: 24 steps per octave



Gain

選択しバンドのゲインを -24 dB から +24 dB の間で dB 単位で設定します。

フィルタータイプが Peak および Shelving にのみ使用されます。





Default Value: 0 dB
Step: 0.1 dB



Band Q-Factor (7)

パラメトリックフィルターを使用している場合、バンド上のゲインと周波数の影響を受ける周波数範囲の調整です。Qは Peak Filter Type の場合のみ設定可能です。

Q の値が低いほど影響を受ける周波数範囲が広く、高いほど影響を受ける周波数範囲が狭くなります。

Value Range: 1 to 100

Default Value: 10

Step: 24 steps logarithmically distributed.

EQ Control Column

EQサイドのコントロール: Reference, DIM, Mono のコントロールはミキサーのものと同じです。

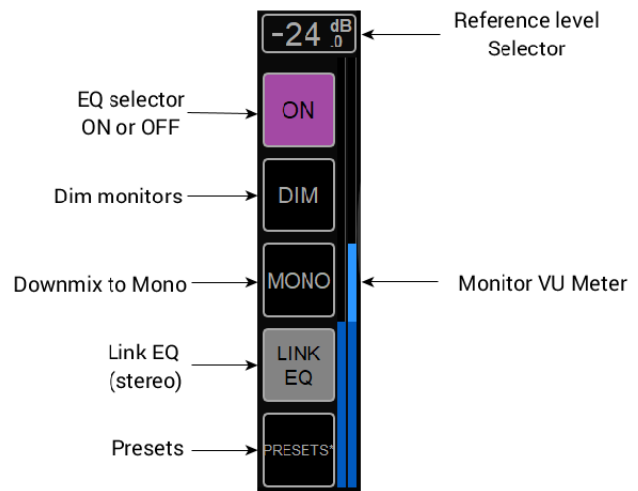
ON-OFF

EQを ON/OFF します。

Link EQ

リンクしたチャンネルと同じEQパラメーターに設定したい場合、Link EQ を有効にしてください。

ステレオ リンクしたチャンネルに異なる EQ をかけたい場合は、各チャンネルの EQ を入れて、Link EQ オプションを入れないでください。

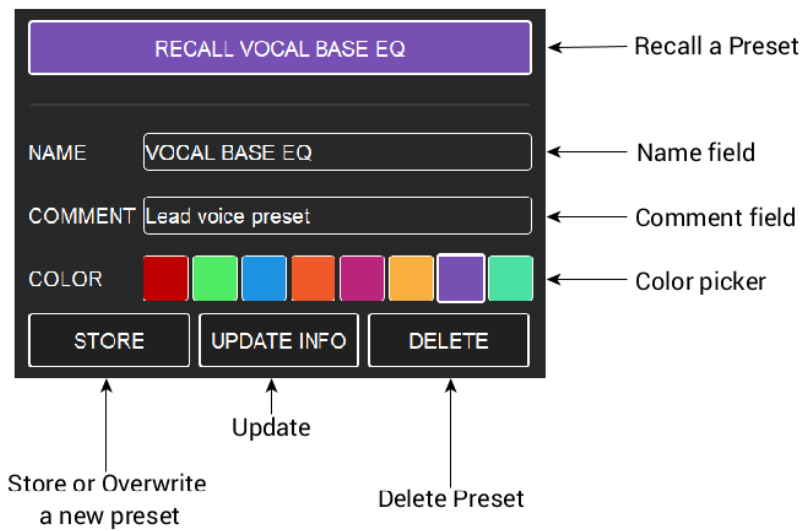


Presets:

エフェクト(EQ, Dynamics, Reverb)ごとに18種類のプリセットが用意されています。

EQ		48kHz
1 LowCut - HF Sss cut EQ Vocals Main	7 Low Cut EQ MY DEFAULT	13 Comment EQ PRESET 13
2 Basic EQ Vocals Back	8 High Cut My EQ cut	14 Comment EQ PRESET 14
3 Comment EQ Acoustic Guitar	9 Comment EQ PRESET 9	15 Comment EQ PRESET 15
4 Stereo Link EQ Elect Guitar	10 Comment EQ PRESET 10	16 Comment EQ PRESET 16
5 100 Hz boost EQ Bass	11 Comment EQ PRESET 11	17 ATM50X EQ Headphones
6 Comment EQ Harmonica	12 Comment EQ PRESET 12	18 home stereo mix EQ Studio
		EXIT

プリセットダイアログを開くには、プリセットボックスをタップして空にします。



Snapshot ページから Mixer ビューに戻るには、ホームボタンを押してください。

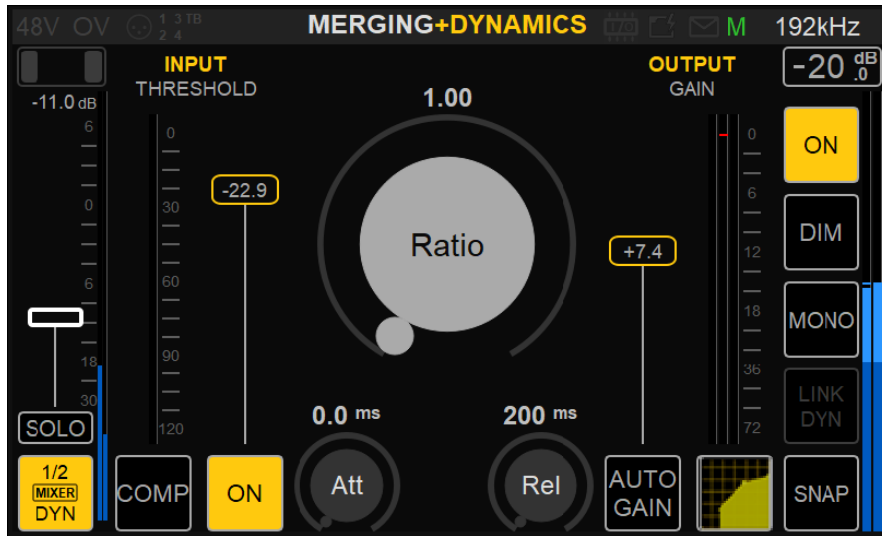
RESET EQ

EQのパラメーターは Dynamics Reset factory preset をリコールするとリセットされます。





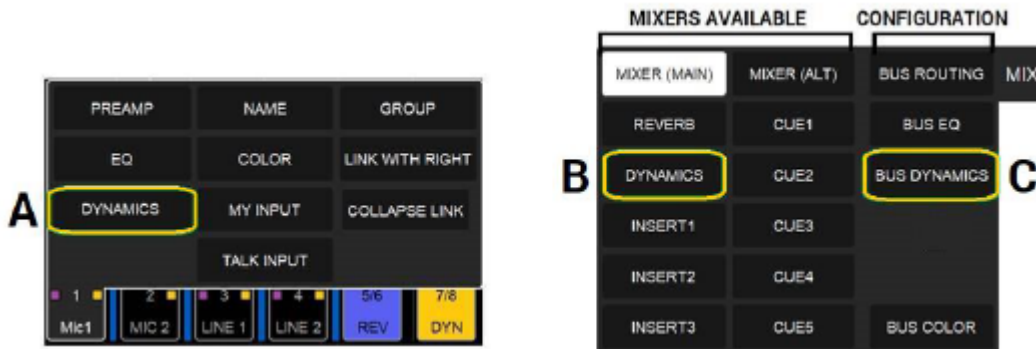
MERGING+DYNAMICS



Anubis のビルトイン ダイナミクスは複数の機能を備えています。直列にかけられる 1x Gate, 1x Compressor, 1x Limiter。それぞれのモジュールはそれぞれのパラメーターを持っています。出力バスのリミッター、チャンネル ストリップのコンプレッション、スネアやキックのゲート、ボーカルのコンプレッションとリミッター、ドラムの パラレルコンプレッション、サイドチェーンなどに使用できます。ダイナミクスは、MonoまたはStereo Mode(Link Dyn)で動作します。

More than just a single Dynamics

- A: どのチャンネル ストリップでも使用できます。Local, Remote/Peered 入力。
- B: Pararell Buss Effect として
- C: どの Output Bus でも使用できます。Local, Remote/Peered 入力。



ANUBIS MERGING+DYNAMICS FEATURES

- MERGING+DYNAMICS は全ての Anubis ユーザーが使用できます。
- MERGING+DYNAMICS は 44.1kHz から 352.8kHz(DXD), 384kHz までのサンプリング周波数で動作します。
- MERGING+DYNAMICS は次のインスタンスをサポートしています。
 - 64 x DYNAMICS instances at 1FS (44.1/48kHz)
 - 32 x DYNAMICS instances at 2FS (88.2/96kHz)
 - 16 x DYNAMICS instances at 4FS (172.4/192kHz)
 - 8 x DYNAMICS instances at 8FS (DXD-352.8/384kHz)



Dynamics Modules

MERGING+DYNAMICS は、1 X Gate, 1 X Compressor, 1 x Limiter で構成されています。



Gate

スレッシュホールド以下の信号を減衰させます。

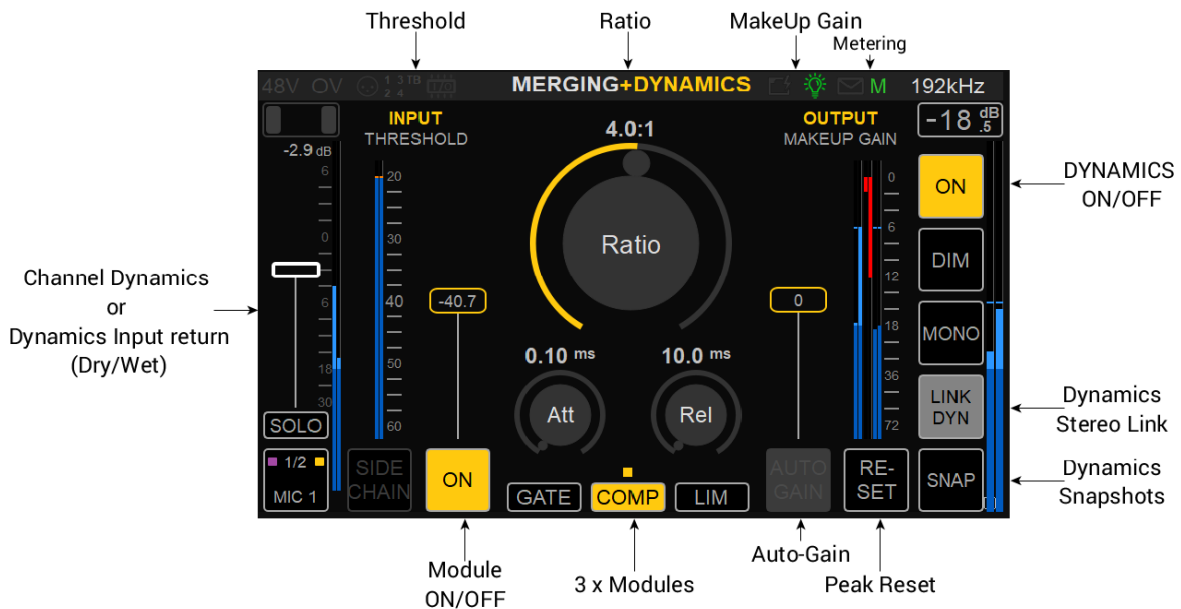
Compressor

純粋なトランスペアレント ディスクリート コンプレッションに加えて、クラシックなファット コンプレッションのオプションを備えており、クリエイティブなミキシングやプロダクションだけでなく、ディスクリート マスタリングやポストプロダクションにも最適です。

Limiter

信号がスレッシュホールドを超えないようにします。

DYNAMICS PARAMETERS



Dynamics ON/OFF

アクティベーションボタンです。ONIにするとダイナミクスがアクティブになり、無効にするとダイナミクスはアクティブにならず、ルーティングもされません。

Threshold

スレッシュホールドコントロールは、プラグインが入力信号のダイナミクスに影響を与えるレベルを設定します。スレッシュホールドの値と範囲は、モジュールごとに異なります。

スレッシュホールド フェーダーには、正確な操作のためのオートスクロール スケールが付いています。スレッシュホールド値を下げると、メーターの目盛りが40dBの範囲で表示されます。

Gate Threshold range: -144dB to 0dB

Compressor Threshold range: -96dB to 0dB

Limiter Threshold range: -96dB to 0dB



Ratio

Compression ratio は、信号がスレッシュホールドレベルを通過したときにコンプレッサーが適用するゲイン リダクションの量を決定します。Compression ratio が1:1の場合、処理された信号は処理の影響を受けません。入力側でスレッシュホールドを超えて1dB変動すると、出力側でも1dB変動します。4:1の ratio を適用してみると、入力信号がスレッシュホールド値より4dB以上上昇した場合、出力信号は1dBだけ上昇します:ここではコンプレッサーの動作を示しています。入力信号のゲインは、スレッシュホールドポイント以上で4:1の比率で減少します。LimitとGateの ratio は固定です。

Compressor Ratio Range: 1.0:1 to 32.0:1

Output / MakeUp Gain

Output / MakeUp Gain は、コンプレッサーの出力にあるゲインコントロールを指します。コンプレッサーは最も大きな信号のレベルを下げるため、入れた後は、通常、元の信号よりも小さな信号になります。

Range: +36dB to -36dB

Metering

入力レベルメーター、ゲインリダクションメーター、出力レベルメーター。これらの表示により、現在のレベルを即座に把握することができます。

Gain Reduction Meters: ダイナミクス処理の瞬間的なゲインリダクション (dB) (0dB以下は赤) またはゲインアップ (dB) を表示します。

Output Meters: 各チャンネルのピークホールド値を表示するフルスケールメーター。

Attack

Attack time は、スレッシュホールドレベルに達したときのプロセッサーの反応速度を設定します。ドラムのようなトランジェントの多い素材では、オーバーシュートを最小限に抑えるために速いアタックタイムが必要です。それ以外の素材では、アタックタイムが短すぎると、音が鈍くなったり、聴感上の歪みが生じたりします。

Range: 0.1ms to 200ms

Release

Release Time は、スレッシュホールドを超えなくなった後、適用されたゲイン変化がユニティーに戻る速度を設定します。ほとんどの場合、リリースタイムはプログラムに大きく依存します。

Range: 10ms to 2 sec

Sidechain

Sidechain コンプレッションは、ある楽器や音のレベルが別のコンプレッサーを動作させるトリガーになることです。Sidechain オプションを有効にしたい場合は、まず両方のチャンネルにダイナミクスが存在することを確認してください。コンプレッサーは代替ソースチャンネルから入力信号を受けている必要があります。

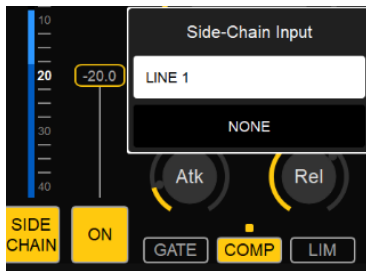
例: ベースとキックで、ベースが演奏している時でもキックの音が聞こえるようにしたい場合、Sidechainが便利です。

ON/OFF

モジュールの起動。ゲート、コンプレッサー、リミッターの各モジュールには、それぞれアクティベーションの設定があります。



Sidechain input channel selector



まず Sidechain のソースのチャンネルのDynamicsを有効にする必要があります。

ON/OFF

モジュールのアクティベーションです。Gate, Compressor, Limiter は、別々の Activation があります。

Module Selector

この画像ではコンプレッサーモジュールが選択されていますが、このモジュールをタップしてアクティブにすることで、操作したいモジュールを選択します。したがって、すべてのパラメータは選択されたモジュールを反映します。



Module Status

モジュールLEDインジケータ:モジュールがアクティブであるかどうかを示します。この例では、GateとLimiterモジュールが有効になっていますが、Compressorは有効になっていません。



Auto Gain

入力信号の強さに応じてゲインレベルを調整し、より安定した音量を実現します。

Reset Gain

長押しすると Output フェーダーが 0dB にリセットされます。

Peak Reset

このボタンをタップすると Dynamics メーターのピークをリセットします。

Link Dyn

同じダイナミクスパラメーターをステレオストリップなどのリンクしたチャンネルに設定したい場合に有効にします。

RESET

Dynamicsのパラメーターは Dynamics Reset factory preset をリコールするとリセットされます。





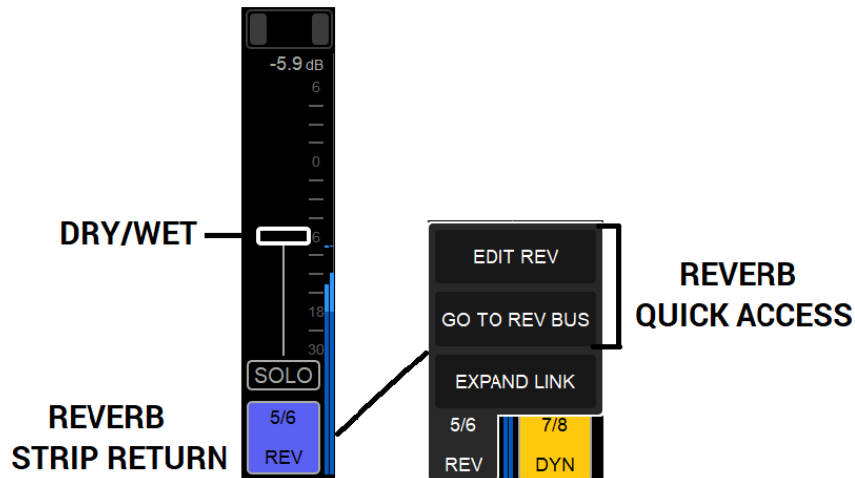
MERGING+REVERB



MERGING+REVERB は全ての Anubis Music Mission に含まれています。1つのリバーブが用意されており、複数に適用することができます。

How to operate

Mixer の Reverb Input Strip の Quick Access メニューから Reverb Bus に入り、GO TO REV Bus エントリを選択してください。



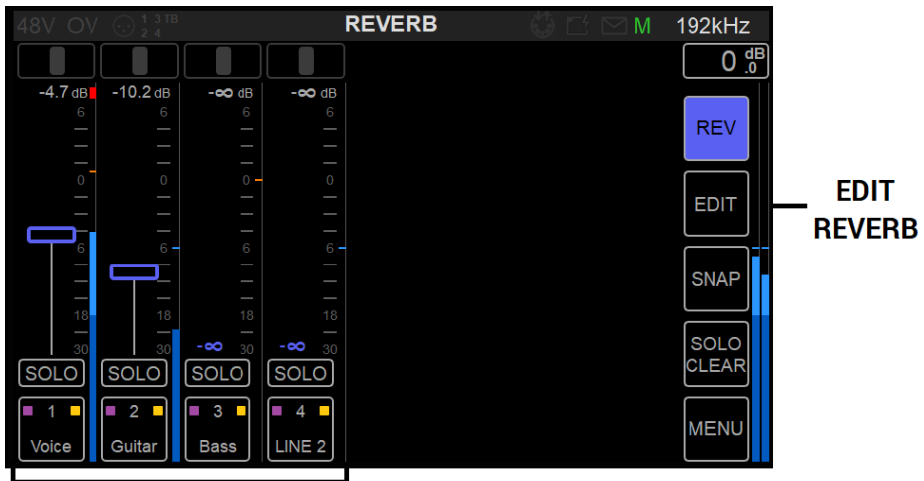
Note: Reverb 信号を Mixer に入れるには、Reverb return input レベルを上げてください。フェーダーは Dry / Wet のグローバル パラメーターとして動作します。

Reverb は Muxer メニューからもアクセスできます。



MIXER	MIXER-ALT	BUS ROUTING	REV
REVERB	CUE1		EDIT
DYNAMICS	CUE2		SNAP
SEND1	CUE3		SOLO
SEND2	CUE4		CLEAR
SEND3	CUE5	RESET	MENU

Reverb Bus からフェーダーは Reverb sends として動作します。下の例ではヴォーカルとギターから Reverb に送っていますが、ベースや Line 4 入力からは送っていません。



REVERB SENDS

EDIT をタップすると、REVERB UI が表示され、Reverb パラメーターが操作できます。

REVERB PARAMETERS





REVERB RETURN INPUT:

Reverb リターン入力チャンネルは、メインミキサーのページにあるものと同じです。Mixer にリバーブ信号を戻すためには、フェーダーのレベルを上げてください。フェーダーは Dry / Wet のグローバルパラメータとして機能します。

REVERB SIZE (Small to Large)

バーチャル ルームのサイズと形状を調整することで、small room から large room, hall, cathedral まで、反射のパターンと空間を変えることができます。small room で前面に出てくるような短くて明るいリバーブや、ミックスを深い空間に置くような長くて暗いリバーブに設定することができます。Reverb size は、他のパラメータと組み合わせて使用することで、部屋のサウンドを変化させることができます。

LOW CUT

リバーブに入る低周波を抑えるために使用します。これにより、ドラムのキックやベースなどの低周波信号が外れ、濁った不明瞭なサウンドになるのを防ぐことができます。

Low Cut Range: 10Hz – 20kHz

HIGH CUT (High Frequency Damping)

リバーブに入る高音域を低減します。リバーブの音が金属的に聞こえる場合は、4~8kHzから高域を減らします。

High Cut Range: 10Hz - 20kHz

PRE-DELAY

演奏を聴いているときは、まず直接音が届き、次に部屋の反射音による残響音が届きます。

プリディレイとは、直接音が到着してから反射音が到着するまでの時間のことです。

Pre Delay Range: 0- 300ms

DECAY

リバーブの減衰していく時間を表します。部屋の中の音圧レベル(SPL)が下がるまでの時間を表しています。初期反射が強く減衰が早いリバーブ設定は、モノラルソースからステレオ効果を生み出すのに最適な方法です。大きな部屋ではリバーブテイルが長く、小さな部屋ではリバーブテイルが短くなります。

Decay Range: 0 -100%

DIFFUSION

リバーブテイルの反射音の密度を高める割合をコントロールします。Diffusion が高いほど、タイミング、レベル、パンの位置の点で、反射の密度がより規則的になります。一般的に、高く設定するとより自然な響きのリバーブになり、低く設定するとより「空気のような」効果が得られます。

Diffusion Range: 0 -100%

DRY / WET

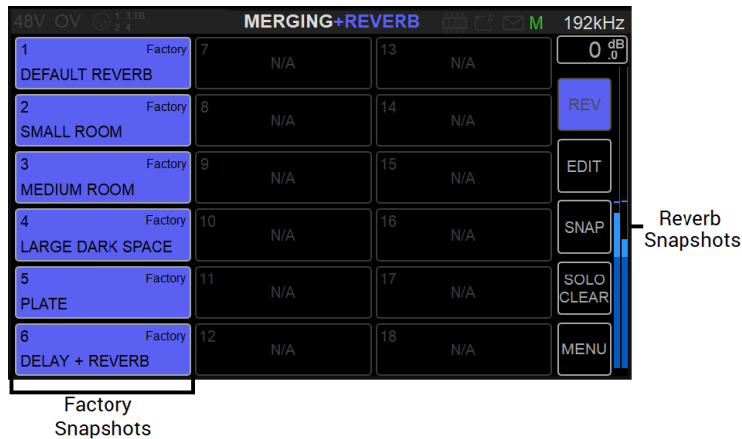
Dry / Wet レベルは、各ストリップの Reverb Bus send フェーダーで調整し、全体の Dry / Wet レベルは Mixer Reverb Input Strip Returnで調整します。

Dry / Wet コントロールは、Dry のトラックと Wet のトラックのバランスを変えることができます。

Note: 各ミキサーは、それぞれリバーブストリップのリターンレベルを設定することができます。例えば、シンガーの CUE 1 は、CUE 2(ギタリスト)よりもボーカルのリバーブ リターン レベルを大きくすることができます。



18 Reverb Snapshots:



Reverb の Preset には、6つのファクトリー Presets が用意されており、ユーザー用に12個の Presets が用意されています。

6 x Reverb Factory Snapshots

これらの snapshots は読み込み専用で上書きできませんが、パラメーターを変更して別途保存することは可能です。

DEFAULT REVERB: 一般的なリバーブ

SMALL ROOM: 短いリフレクションのついた小さいサイズの部屋

MEDIUM ROOM: 中くらいのサイズの部屋

LARGE DARK SPACE: 高域を落とした大きな空間を持ったリバーブ

PLATE: 楽器やボーカル, ドラムのスネア, オーバーヘッドに明るさを加えます

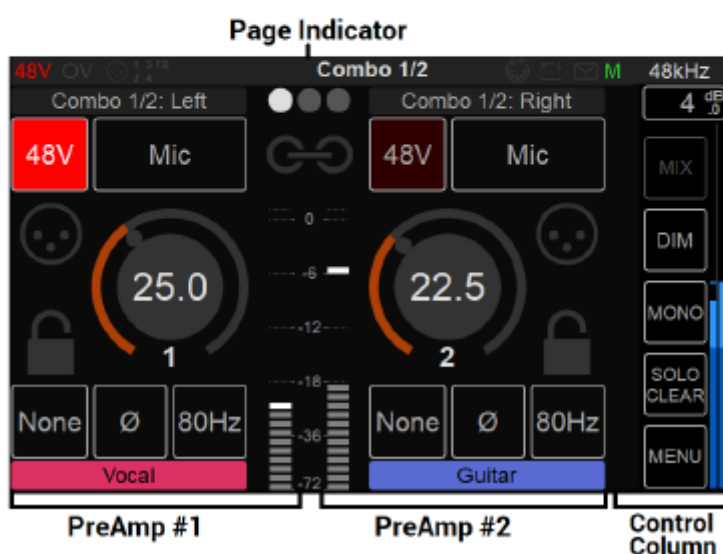
DELAY + REVERB: diffusion のパラメータ値を小さくすると、反射効果が高まり、Delay として機能します。

Small – Large パラメータを使用すると、Delay Time をショートディレイからロングディレイに変更することができます。



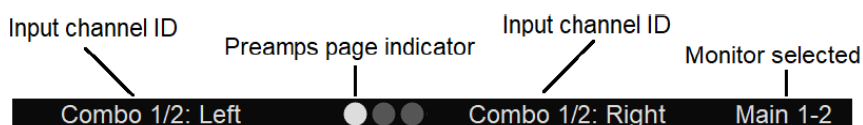
PREAMPS CONTROL

Anubis PreAmps に入るには、どの Mixer Strip Channel からでも、チャンネル ストリップ オプションにある Preamps を選択することで入れます。



PreAmps Page indicators

Preamps Information バー は、コントロール画面の上に表示されています。入力 チャンネルのID, ページのポジション, 選択している Output Monitor の名前が表示されています。



PreAmps Names

例: Combo 1/2: ANUBIS のバックパネルにある XLR / TRS コンボのマイク/ライン入力の PreAmps の名前です。

PreAmpsの名称は、ID名をタップして変更することができます。

PreAmps の下部には、Music Mission Mixerストリップのチャンネル名が表示されています。これらの名前は Mixer ページで変更することができ、色も維持されます。





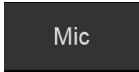
INPUTS OPTIONS



Enableにすると Ch1,2 のファンタム電源 (48v) がONになります。
Note: Mic 入力のあるチャンネルのみに機能がついています。



Warning: パッチベイで配線を変更する場合、ショートを起こす可能性があるため、必ずOFFにしてください。このような故障は無償保証期間であっても保証の対象外となります。



Mic/Line: Mic Preamp と Lineレベル回路の切り替えです。このオプションは、設定されている現在の入力信号パスを表示しています。



ライン入力の感度、マイクからラインへのレベルとインピーダンスの切り替え
Lineフェーダーが0dBの場合、Line入力に存在するアナログ信号レベルが+24dBuの場合に0dBFSであることを意味します。
Lineフェーダーが+6dBの場合、Line入力に存在する+18dBuのアナログ信号レベルが0dBFSであることを意味します。
Lineフェーダーが20dBのとき、Line入力に存在する+4 dBuのアナログ信号レベルが0dBFSであることを意味します。
Lineフェーダーが+ 66 dBのとき、ライン入力に存在する-42 dBuのアナログ信号レベルが0dBFSであることを意味します。

Note #1: MIC, Line, Instrumentsの各入力は独立したパラメータとして保存されているため、Mic, Line, Instruments に切り替えても、保存されているゲインがロードされます。

Note #2: ANUBIS Premiumは、スカーレットブック規格に基づくDSDのSA-CDヘッドルーム+3.1dBの恩恵を受けることができるように設計されています。そのため、マイクプリアンプまたはライン入力には、最低でも+6dBのゲインが必要です。このゲインは、デジタルセクションのポストADでシングマデルタ1ビットモジュレータの直前に適用されます。ADがDSD(64, 128, 256FS)に切り替わると同時に自動的に適用され、プリアンプページで確認できます。ゲインは、DSDモードでは+0dBから+66dBの間で調整できます。Lineモードでは、+6dBのゲインで、+21dBuの入力は、+3dBのSA-CDの信号を生成し、Micモードでは同じゲインで、+9dBuの入力は、+3dBのSA-CDの信号を生成します。



Gain: 調整したいチャンネルをタップします。ゲインが強調表示されているときは、Anubis のロータリーコントロールで0.5dBステップで値を調整できます。ゲインの範囲は0dBから+66.0dBまでです。ロータリーノブを時計回りに回すとゲインの値が大きくなり、反時計回りに回すとゲインの値が小さくなります。



Link: タップすると2つの入力プリアンプをリンクさせ、同時に設定をコントロールします。変更は両方のチャンネルに適用され、ゲイン値のオフセットは維持されます。



None: Mic入力レベルの最大値で、Gain が 0 の時、+12dB で 0dbFsとなります。



Pad: Mic入力の感度を 12dB 減衰させます。

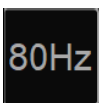


Boost: Mic入力の感度を 12dB 増加させます。
Note: リボンマイクを使用する場合に使用します。





Polatiry: 選択した入力の位相を反転させます。



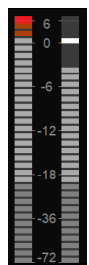
80Hz: ローカット フィルターです。2次で12/octave の特性となっています。



Cut: チャンネル入力のカットです。XLRやジャックの入力を接続したり、切断したりする際に発生するノイズを避けるためにも使用できます。



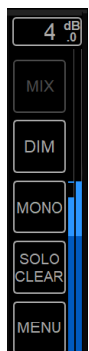
Lock: 有効にするとパラメータが変更されるのを防ぐことができます。これは、安全性を確保するためや、外部のアナログ処理チェーンのキャリブレーションを維持するために役立ちます。



Meters: デフォルトの表示スケールは、-90 dBFSから0 dBFSです。

Note: レベルメーターの色範囲 (*Peak, Alignment, Decay time*) を設定、調整するには、*General Settings* を参照してください。メーターについては、*DSD* の項を参照してください。

Peaks: プリアンプのメーターの一番上の赤いLEDは、ピークが発生したことを示します。ピークの表示を消すには、メーターのVUをタップしてください。



Control Colum: メインカラムと似ていますが、メニューに若干の違いがあります。

Mixer メニューはアクティブではありませんが、選択されたモニターセットが表示されます。

右端の Output メーターには、ローカルの Mixer バス (Main, Line, Headphones 1, Headphones 2) や Peer したモニターセットからの出力など、選択した Mixer バスの出力レベルとメーターが表示されます。メーターの上部には、選択している出力の名前が表示されます。

Dim, Mono, SOLO Clear は、他のページと同様に機能します。

下部メニューには、オプションのリストが用意されています。

Inputs 3-4 Instruments/ Line

TFT画面を右から左にスワイプすると、Anubis Inputs 3-4にアクセスできます。

ロケーションインジケータには、2番目のプリアンプページであることが表示されます。

Instruments (Hi-Z) / Line inputs 3-4は、Anubisのフロントパネルにある1/4インチコネクタ (6.3mm) の入力です。この2番目のプリアンプページで、これらをコントロールすることができます。





これら inputs 3-4のプリアンプ コントロールは、inputs 1-2と同様ですが、Hi-Z Instruments, Line入力タイプにのみ使用できます。48Vファンタム電源, Pad / Boost は、この入力では使用できません。

Note: Input 4 は内蔵トークバックと共用です。この入力に接続すると、内蔵トークバック(チャンネル 5)が無効になります。



Disabled if Input #4 has a connector inserted

内蔵トークバックマイクとモニターセットの間でショートフィードバックが発生するのを防ぐため、Input 4 からジャックを引き抜く際には、モニターをミュートするか、ジャックを引き抜く前に Input 4 の信号をカットしておくことをお勧めします。

Input 5 Built-in Talkback:

再度、TFT画面を右から左にスワイプすると、内蔵トークバックマイク専用の Anubis Input 5 が表示されます。





Input 5 のプリアンプコントロールは、内蔵のトークバックマイクをコントロールします。

Note: Input 5 の内蔵トークバックは、Input 4 と共有されています。この入力にインストゥルメントまたはライン入力ジャックを接続すると、内蔵トークバック(チャンネル5)は無効になります。



TFT画面を左から右にスワイプすると、前の Inputs Preamps ページに戻ります。

Note: Settings > Inputs > Split で Split Channel を有効にすると、3つ以上のプリアンプ ページが利用可能になります。

ProTools DAWを使ったAnubis Mic Preampsのリモートコントロール

Mac: Virtual Audio Deviceガイドの操作方法については、[VADユーザーガイド](#)をご参照ください。

PC: 手順の詳細は [RAVENNA ASIOガイド](#) または [MAD \(Merging Audio Device\)](#) を参照してください。

Remote MIDI preamps limitations (Boost, Link, Cut):

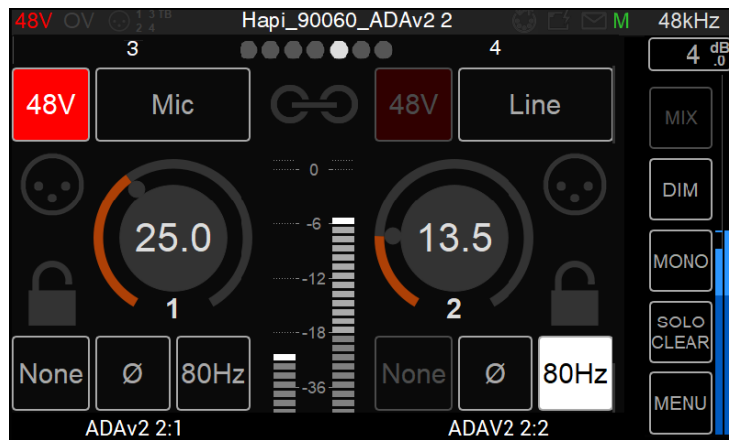
Boost: Remote MIDI Preamps コントロールは、Boost に対応していません。これは Pad として解釈されません。このパラメータはローカルで設定してください。

Link と Cut: Remote MIDI Preamps コントロールは、Link に対応していません。Cutもローカルで設定してください。



PEERED PREAMPS

Anubis で Merging RAVENNA / AES67 デバイスを Peering すると、ローカルのAnubis PreAmpsに続いて ADモジュールが表示され、Anubis本体から直接デバイスの PerAmp をコントロールできるようになります。



PreAmps のページで左から右にスワイプすると、Peered されたPreAmpsにアクセスできます。

Note: Peered モジュールの PreAmps は、一部のパラメータ(Cut, Lock, Boost)に対応していない場合があります。



Anubisのホームボタンを押すと、Mixerビューに戻ります。



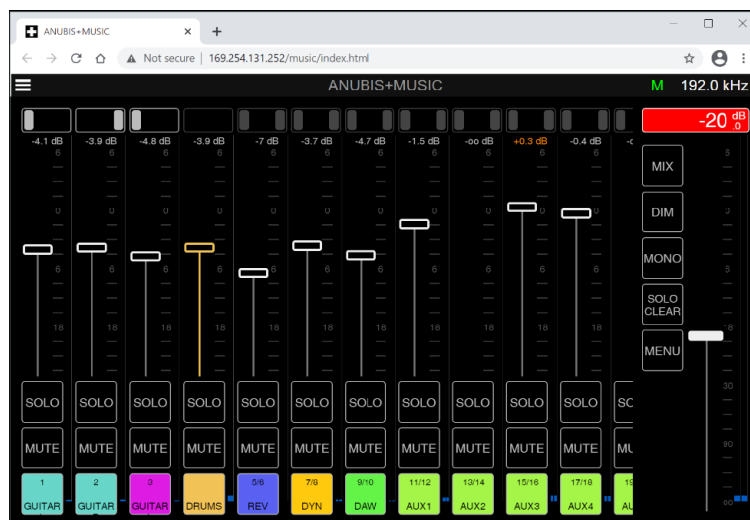
Peered PreAmps Remote Web Access

Anubis で Peer した PreAmp は、Web Access でも リモート コントロールすることができます。

手順 : ANEMAN, MTDDiscovery, ドライバーパネル(MADまたはVAD)から、Anubis のアイコンをクリックして Webアクセスページを開きます。



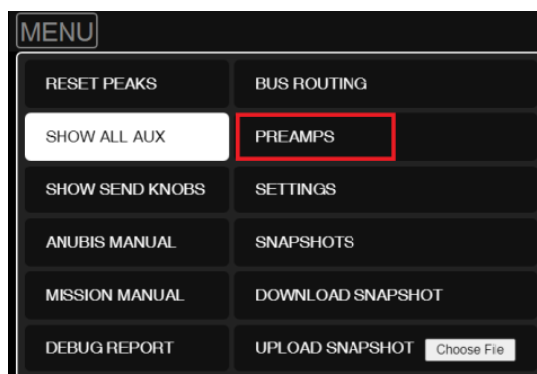
これにより、Anubis Web Accessが開き、Anubis Music Missionを完全にリモートコントロールすることができます。ブラウザには Google Chrome を使用してください。



Mission Browser メニューから "Remote PreAmps" を選択すると "Remote PreAmps" ページが開きます。

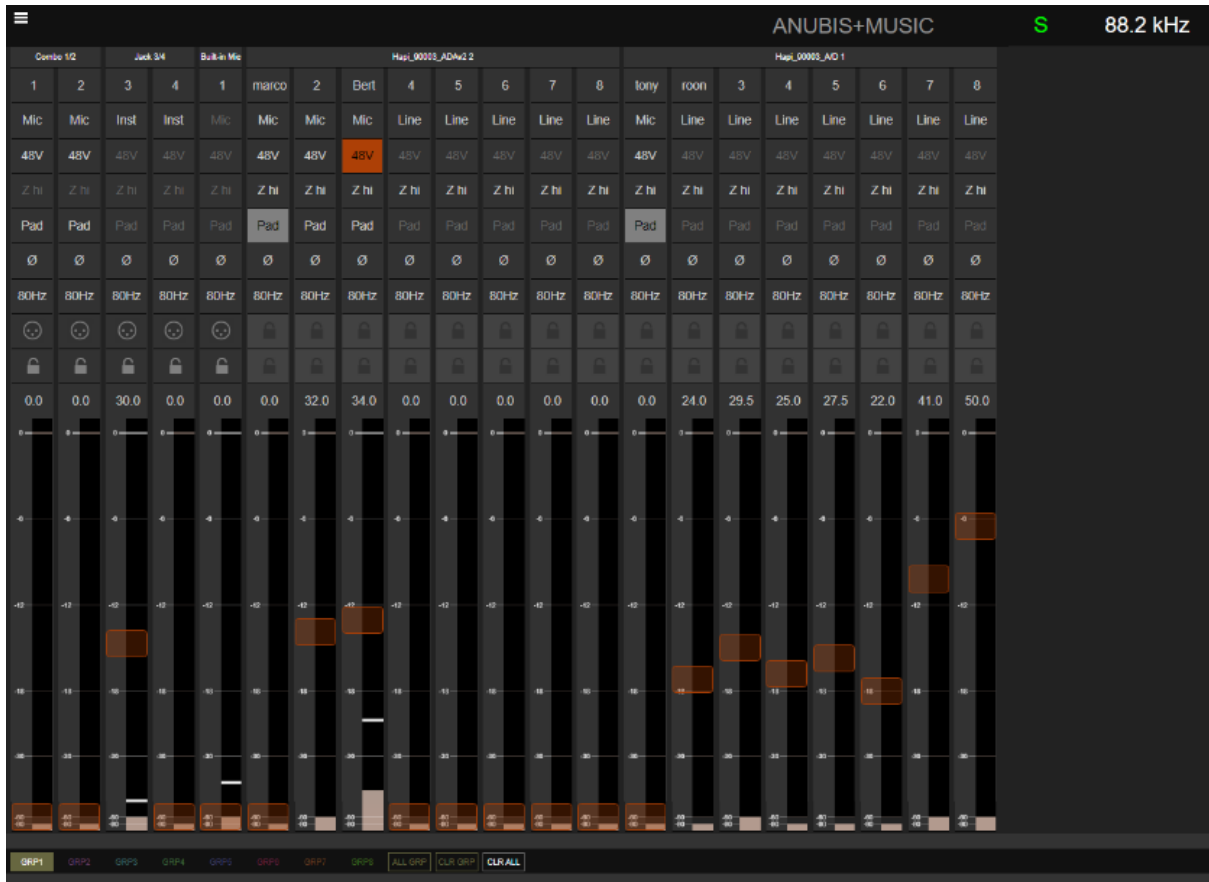


左上のボタンをクリックすると、メニューオプションが表示されます。





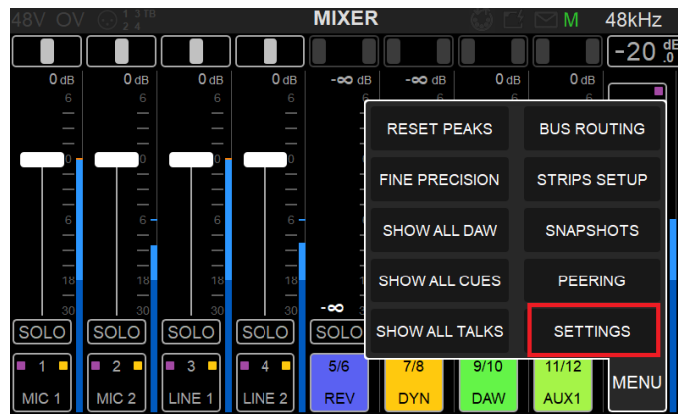
Peer したリモートコントロール PreAmp の例





SETTINGS と WEB Access

Anubis Music Missionの設定は、UIの右下にあるメニューオプションから行えます。



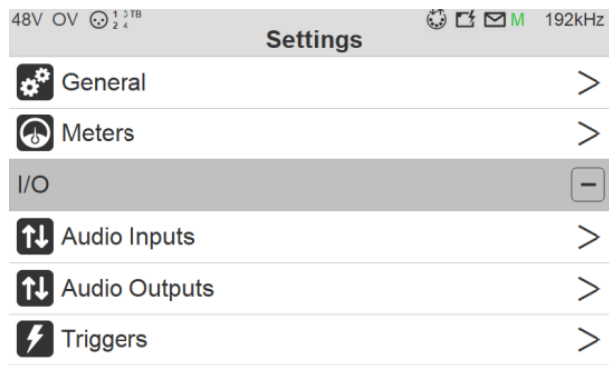
また、Anubis のホームボタンを長押しすることでも Settings にアクセスできます。



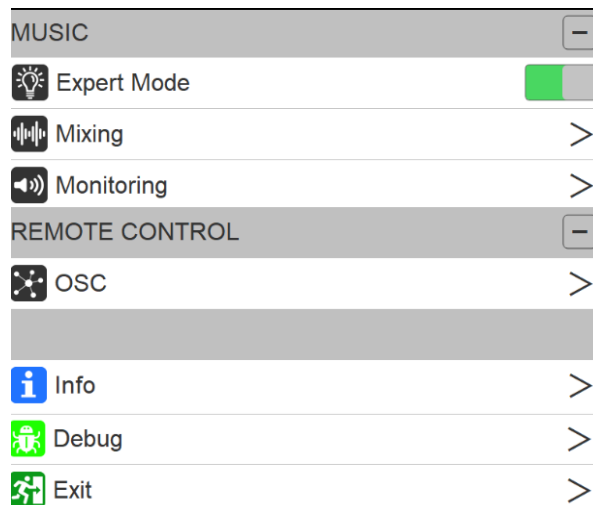
ホーム画面で Settingsアイコン を押すと、Mission Settings が表示されます。



Settings ページを開きます。



上下にスクロールして、設定項目を表示、操作します。





SETTINGS CATEGORIES DESCRIPTION



GENERAL SETTINGS

Sample Rate



Sampling Rate

サンプリング周波数を設定するドロップダウンメニューがあります。

Anubis Pro: 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz, 176.4kHz, 192kHz

Anubis Premium: 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz, 176.4kHz, 192kHz, 352.8kHz (DXD), 384kHz, DSD64, DSD128, DSD256

警告: DSDは Music Mission Mixerではサポートされていません。Music Missionを起動しながらDAWにDSDで直接録音することは可能ですが、Music Mission でモニタリングすることはできません。



A/D Mode in DXD/DSD

このフォーマット設定は、DXD、DSD64、DSD128、DSD256のいずれかに設定できるAD(プリアンプ)にのみ適用できます。

	DXD
 A/D Mode in DXD/DSD	DSD64
	DSD128
	DSD256

このモードでは、任意のオーディオデータフォーマットのストリームを受信し、A/Dまたはストリームのオーディオデータフォーマットに応じて、DXDまたはDSD64、DSD128、DSD256のストリームを生成することができます。

A/Dはプロジェクトで選択したものと同一サンプリングレートに設定してください。Pyramix MassCoreでは、A/DモードをDSDフォーマットに設定してDXDプロジェクトに録音することができますが、この機能はMassCoreユーザーのみが利用可能で(Native/ASIOではサポートされていません)、チャンネル数が多い場合にはかなりのリソースが必要になります。

警告: Music Mission MixerはDSDをサポートしていませんが、DXD / 352.8 kHz と 384 kHz をサポートしています。





Auto

Auto を有効にすると、ASIO, VAD (Virtual Audio Device), MassCore、または PTPクロックを備えた他のインターフェースによって提供される RAVENNA / AES67 ソースのサンプリングレートに、Anubisが自動的に追従します。初期設定では有効になっています。

例1: 外部プレーヤー (DAWなど) を使用している場合、Autoモードを有効にすると、プロジェクトの設定に応じてAnubisのサンプリングレートが自動的に変更されます。

例2: RAVENNA ASIO/Virtual Audio Device (VAD) の設定に従ったネットワーク構成で、Anubisが自動的にサンプリングレートを適応させる場合にも、このAuto設定は有効です。

Note: 上記の例はいずれも、少なくとも1つの RAVENNA ASIO または Virtual Audio Device (旧Core Audio Driver) ストリームが Anubis のソースに接続されている場合に有効です。

Frame Mode



Latency

使用可能なモード (単位は サンプル): AES67(6), AES67(12), Ultra(16), Extra(32), AES67(48)*, Low(64)
選択したモードは、RAVENNAネットワーク上のデバイスのレイテンシーを決定します。複数のRAVENNA機器 (例: Anubis) をネットワークで接続する場合は、全ての機器を最小のレイテンシーに調整するように設定する必要があります。

* 工場出荷時のモード

Clock

PTPクロックについて: PTP (Precision Time Protocol) とは、コンピュータネットワーク上で時計を同期させるためのプロトコルです。IEEE 1588またはIEC 61588とも呼ばれ、分散システムのノードのリアルタイムクロックを同期させるために設計されたプロトコルです。RAVENNAは、このIEEE標準プロトコルのV2をベースに使用しています。PTPクロックは、ナノ秒単位の時間分解能を持っています。



PTP Master

複数のAoIP機器をネットワークで使用している場合、この設定を有効にすると、BMCA (Best Master Clock Algorithm) を使用して、Anubis がPTPマスターの優先順位として選出されるようになります。

Note: Merging社製品でない機器は、AnubisをPTPマスターとみなさない場合があります。



PTP Status

Anubis のPTPの状態に関する情報です。Slave, Master, Unlock, Locking, Lock などを表示します。





ASIO Clock

Auto: ASIO Clock は、PTP Master となった Anubis により生成されます。

On: ASIO Clock は、どの機器が PTP Master となっても この Anubis で生成されます。

Off: ASIO Clock は、生成されません。

Interface Controls



Brightness Display

TFTディスプレイの明るさを Anubis のロータリーエンコーダーで調整します。



Buttons Intensity

Anubis のボタンの明るさを、Anubisのロータリーエンコーダーで調整します。

Fan



Fan

冷却モード: Low, Mid, High の冷却モードを設定できます。この設定は、内部で測定された温度を基準に、ファンが動作を開始する値です。推奨設定はありませんが、ノイズレベルが気になる場合を除き、適切な冷却動作と保護のために Mid 程度の設定にしておくことをお勧めします。

- > Low: 50°C以上でファンが始動
- > Mid: 45°C以上でファンが始動
- > High: 40°C以上でファンが始動

これらのしきい値を超えると、ファンは常に最低速度(最小ノイズ)で起動し、測定された温度に比例して徐々に上昇していきます。

Note: Anubis は、温度が66°に達すると自動的にシャットダウンします。



Stop on Talk

Stop on Talkオプションを有効にすると、Anubis のトークバックボタンを押したときにファンが停止します。ボタンを離すと、必要に応じてファンは再び動き出します(測定された温度によります)。





Network Settings

Obtain an IP address	<input type="button" value="Auto"/>			
IP address	<input type="text" value="192"/>	<input type="text" value="168"/>	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="122"/>
Subnet mask	<input type="text" value="255"/>	<input type="text" value="255"/>	<input type="text" value="255"/>	<input type="text" value="0"/>
Default gateway	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>
<input type="button" value="Apply & Reboot"/>				

ST2022-7 mode

Anubis PSP モデルでは ST2022-7 Setting が表示されます。
詳細は User マニュアルの ST2022-7 の項を参照してください。

Obtain an IP Address

Manual: 編集したいアドレス フィールドをタップし、ロータリーノブで値を入力してください。

Auto: IPアドレスはZeroConf/Auto-IPメカニズムを使用して自動的に割り当てられます (DHCPサーバーが存在しない場合、アドレス範囲は 169.254.x.x)

Note: デフォルトでは、AnubisのIP設定は Auto に設定されています。

Anubis SPS モデルの詳細については、Anubis SPS のマニュアルをご参照ください。

IP address

Anubis の IP アドレス設定です。フィールドをタップし、ロータリー ボリュームで変更してください。IP Settings を Manual にした場合にのみ入力できます。

デフォルト: 169.254.x.x

Subnet mask

Anubis のサブネットマスクの設定です。フィールドをタップし、ロータリー ボリュームで変更してください。IP Settings を Manual にした場合にのみ入力できます。

デフォルト: 255.255.0.0

Default gateway

インターネット プロトコルを使用するコンピュータ ネットワーク ノードがパケットの宛先IPアドレスに一致する他の経路指定がない場合に、他のネットワークへの転送ホストとして機能するもののIPアドレスを設定します。

デフォルト: 0.0.0.0

Apply & Reboot

IPアドレス等に変更を加えた場合はこのボタンを押して設定を保存し、Anubis本体を再起動させる必要があります。

Date & Time

Anubis には、外部電源がなくても電池で動作するリアルタイムクロックが搭載されています。



DATE & TIME	
TimeZone	Europe/Paris
Date	29 / 4 / 2019
Time	11 : 3 : 49

TimeZone

タイムゾーンをドロップダウン メニューで選択してください。

Date

フィールドをタップして Day:Month:Year をロータリーエンコーダーで合わせてください。

Time

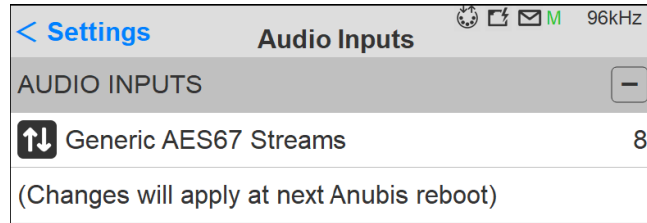
フィールドをタップして 現在の 時間(24時間形式):分:秒 をロータリーエンコーダーで合わせてください。

Note: 設定を保存するには Settings から抜け出るか、Settings > Exit > Save で現在の設定を保存してください。



I/O Settings

INPUT SETTINGS



Generic AES67 Streams support

範囲 0~48チャンネル

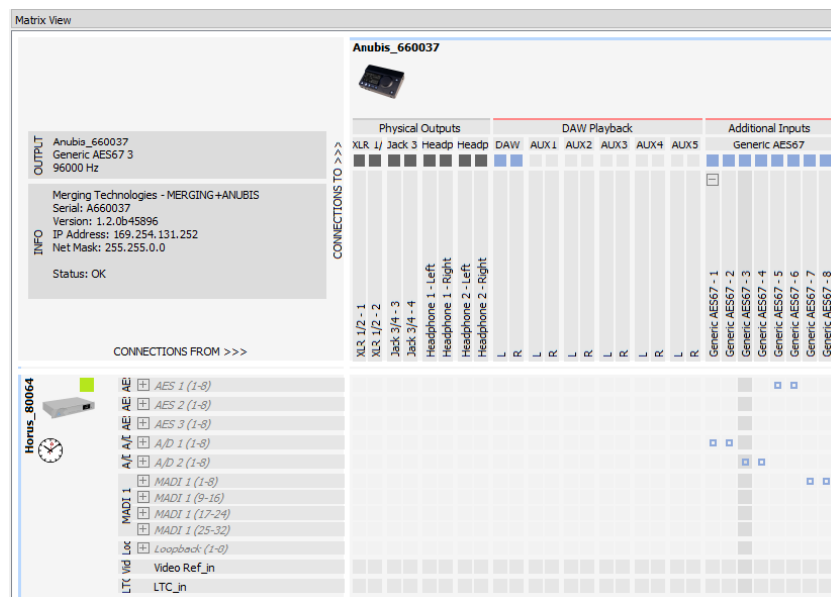
AES67に対応した機器を Music Mission に接続して、その機器の入カストリームを Anubis Mixer で利用できるようにする方法を解説します。

手順:

1. Generic AES67 Streams をタップして、Anubisのロータリーエンコーダーで使用したいチャンネル数を入力します。
2. 設定ができたなら終了して Anubis を再起動してください。
3. お使いのシステムで、ANEMAN (まだインストールしていない場合はダウンロードしてインストールしてください) または RAVENNA Advanced ページを開きます。RAVENNA Advanced ページを参照してください。

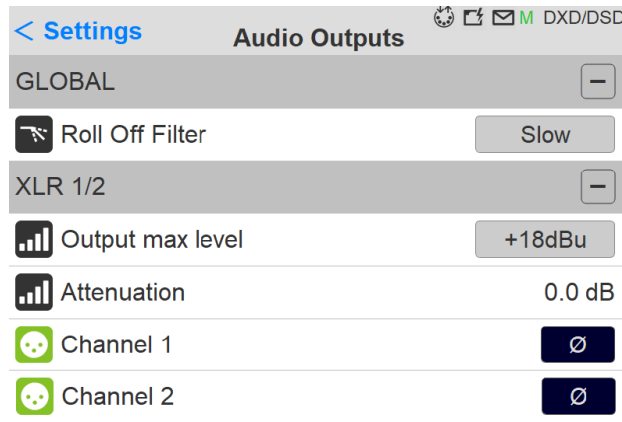
<https://confluence.merging.com/pages/viewpage.action?pagelId=33260125>

4. ANEMAN 上で AES67 Streams が接続できるようになっています。
5. 接続が完了すると、ストリームの入力が Mixer にオンラインで表示されます。





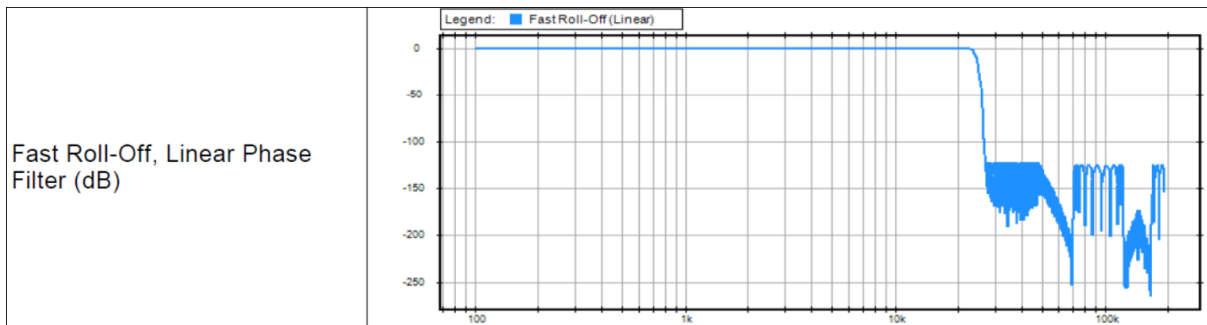
OUTPUT SETTINGS



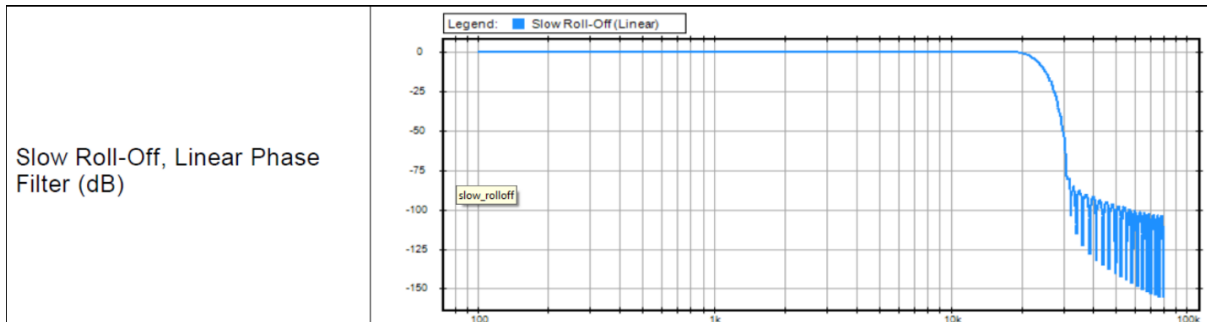
Global Outputs Settings

Roll Off Filter:

Sharp: フラットな周波数特性を持ち、 $0.484 \times FS$ (23.2kHz@48k) で3dBの減衰となっています。



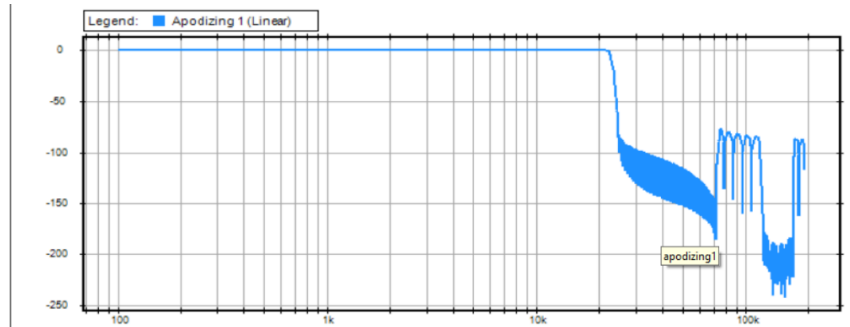
Slow (default): 9サンプルという最小のレイテンシーを実現する一方、周波数特性の減衰は緩やかで、 $0.45 \times FS$ (21.6 kHz @48k) で-3dBとなっています。





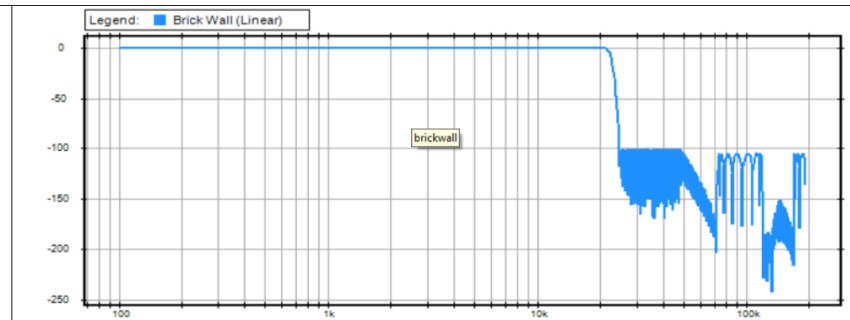
Apodizing: 高速ロールオフ フィルター、リニアフェイズ フィルター。35サンプルのレイテンシーとなっています。

Apodizing, Fast Roll-Off,
Linear Phase Filter (dB)



Brickwall: ナイキストで-100dB以上の除去率を確保(0.50×FS、24kHz @48k)。35サンプルのレイテンシーとなっています。

Brickwall Filter (dB)



XLR 1/2: Anubisの背面にある物理的なXLR出力1と2のライン出力レベル

最大出力レベル: +18dBuまたは+24dBu

Attenuation*: +0dBuまたは-36dBu

チャンネル1: Polarity setting

チャンネル2: Polarity setting



Warning: 最大出力レベルの制限については、"[How to connect a balanced line output to an unbalanced input](#)" の項を参照してください。

JACK 3/4: Anubisの背面にある物理的なTRSジャック出力3と4

上記のパラメータ(XLR 1-2)と同じです。

HEADPHONE 1: ヘッドフォンセット1は、Anubisの左側にあります。

最大出力レベル: +9dBuまたは+18dBu

Attenuation*: +0dBuまたは-36dBu

チャンネル1: Polarity setting

チャンネル2: Polarity setting

HEADPHONE 2: Anubisの前面右側にあるヘッドフォンセット2

上記(ヘッドフォン1)と同じパラメータです。

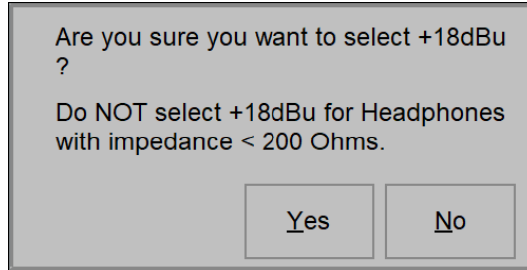
Anubisの DA コンバーターは、ハイインピーダンスまたはローインピーダンスのヘッドフォンをハイレベルで駆動できるように設計されていますので、オーディオ出力は大きく損なわれません。

使用するヘッドフォンのインピーダンスに注意して、Anubisの最大出力レベルを設定してください。





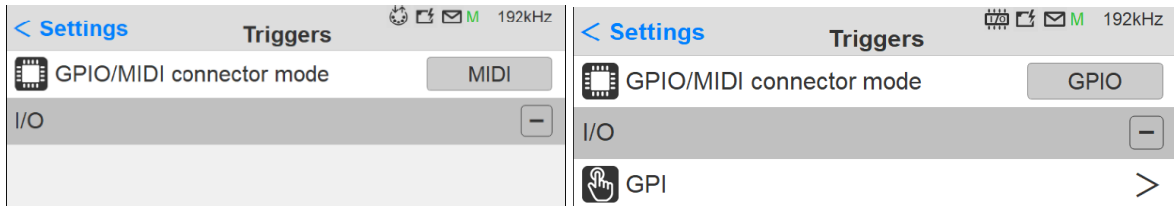
Warning: インピーダンスが200オーム以下のヘッドフォンでは、Output Level に +18dBu を選択することはお勧めできません。予防策として、ユーザーがヘッドフォンの Output Level を +9dBu から +18dBu に変更するたびに、以下の警告メッセージが表示されます。



Warning: Anubis Headphonesの出力レベルは、上げすぎるとヘッドフォンの音が非常に大きくなり、聴覚障害を引き起こす可能性があります。18dBuの設定で使用する場合は、音量による耳への健康被害に注意してください。

Firmware 1.0.16以降、Settings>Audio Outputs ページにチャンネルごとのトリムがなくなりました。これは、出力ペアの Attenuation に置き換えられました。今後はチャンネルごとのトリムは、Monitor で行う必要があります。

TRIGGERS SETTINGS



Trigger Setting には2つの操作モードがあります。

1. MIDI: Musical Instrument Digital Interface プロトコルは電子楽器やオーディオ機器に広く採用されています (remote MIDI keyboard や MIDI sound device)。
2. GPIO: General-purpose input/output は スタジオの「録音中」ライトのコントロール(GPO)やフットスイッチ(GPI)に使用されます。

MIDI or GPIO Selector: MIDI (デフォルト) と GPIO のどちらかの選択です。2つを混在して使用することはできません。

MIDI mode:

キーボードの MIDIアウト -> Anubis の MIDIイン と RAVENNA/RTP 経由で接続するか、キーボードがDAWのVSTインストゥルメントをトリガーするように設定します。DAWのソースストリームはANUBISでモニターされます。

DAW/MIDI プログラムは、MIDIアウト信号を返すことができ、Anubis MIDIアウトを經由して外部シンセサイザーのMIDIインプットに送られ、演奏させることができます。



Requirements:

MIDIジャックと1/4”プラグの変換ケーブルを使用する必要があります(詳細はAnubisユーザーマニュアルの“Specifications”セクションに記載されています)。このケーブルは、お近くの Merging社製品の販売店にご注文ください。

MIDI Setup Procedure:

MIDIポートの設定方法は、以下のリンクを御覧ください。

<https://confluence.merging.com/pages/viewpage.action?pageId=61309057>

Status: Anubis のタスクバーには、MIDI入出力のインジケーターがあり、MIDI信号の受信と送信時に点灯します。

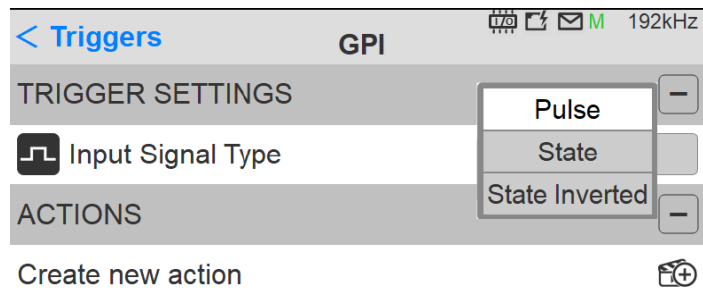
GPIO mode:

GPIOモードを有効にして、Anubis の背面にある I/O を使えるようにすると、Trigger Settings に“GPI”と“GPO”の2つの項目が追加されます。



GPIO Settings

GPIOページでは、GPIOトリガの機能やモードを設定することができます。



Pulse: スイッチがクローズからオープンした時に、Action が実行されます。

State: スイッチがオープンした時に、Action が実行されます。Toggle モードでは オープン = on, クローズ = off の様にスイッチの状態が反映されます。

State Inverted: スイッチがクローズの時に、Action が実行されます。Toggle モードでは オープン = off, クローズ = on の様にスイッチの状態が反映されます。



Create a new GPI action:

どのような Action をトリガするかを設定します。



は、作成した Action を実行します。は、その Action を実行しません。



は、そのAction を消去します。

Status: Anubis のタスクバーには、GPIO のインジケーターがあり、GPIO の受信と送信時に点灯します。





Group:利用できる Group リストが用意されています。

Talkback
Buses
Monitor
Snapshots
Preamp

Component:選択した Group により異なります。

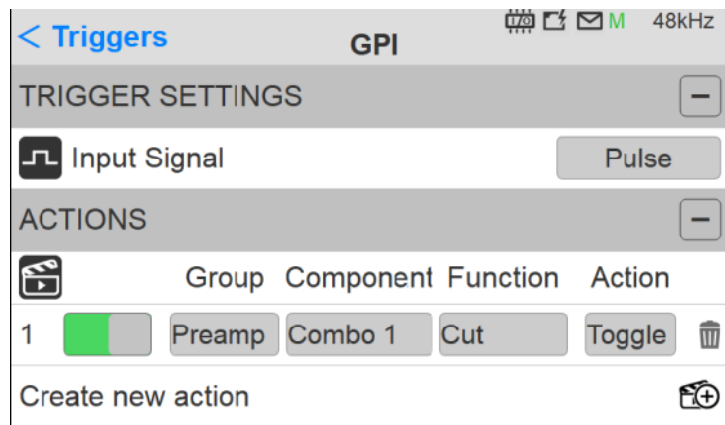
Function:選択した Component により異なります。

Action:Toggle:ON と OFF が逆側切り替わります。

On:ONに切り替わります。

Off:OFFに切り替わります。

Trig:トリガします。



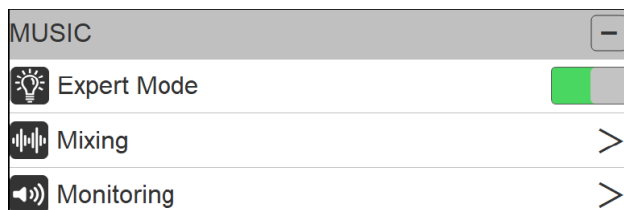
Note: 上の例では、フットスイッチで *PreAmps Cut* オプションの *On/Off* をトリガーすることで、この製品を カフペダル として使用することができます。

GPI Table:

Group	Component	Function	Action	Description
Talkback	Cue 1 to Cue 5	Talk	On/Off/Toggle	Talkback behavior actions
Buses	Mixer	Mute	On/Off/Toggle	Output Buses behavior actions
	Mixer-ALT	Mute	On/Off/Toggle	
	Cue 1 to Cue 5	Mute	On/Off/Toggle	
Monitor	MIX-A	Mono	On/Off/Toggle	Monitors behavior actions
	MIX-B	Mono	On/Off/Toggle	
	MIX-B/B	Mono	On/Off/Toggle	
Snapshots	Recall	Next/Revious/1-18	Do	Snapshot recalling actions
Preamp	Combo 1	Cut/Highpass	On/Off/Toggle	PreAmps inputs actions
	Combo 2	Cut/Highpass	On/Off/Toggle	
	Jack 3	Cut/Highpass	On/Off/Toggle	
	Jack 4	Cut/Highpass	On/Off/Toggle	

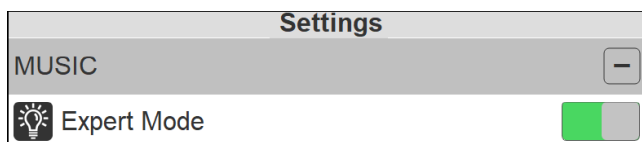


MUSIC SECTION



Expert Mode

Anubis Music Missionには、2つの操作モードがあります。Default モード(簡単な操作)と Expert モード(高度で複雑な操作)です。これらは Music Settings で Expert Mode を有効にするか無効にするかで、切り替えることができます。



Operating Mode Features

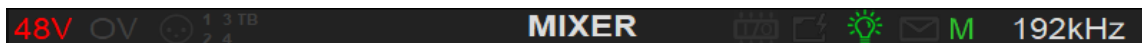
Default mode

- エンジニア/ミュージシャンに加えて、もう一人のパフォーマー用で使用するのに最適
- 内蔵のリバーブ、EQ、ダイナミクスをロータリーコントロールで簡単に操作可能
- 1×CUE、1×SEND を使用可能
- 1つの CUE に対する CUE モニタリングコントロール
- 少ないメニューオプション
- 少ない設定でセットアップエラーを起こしにくい設定

Expert Mode

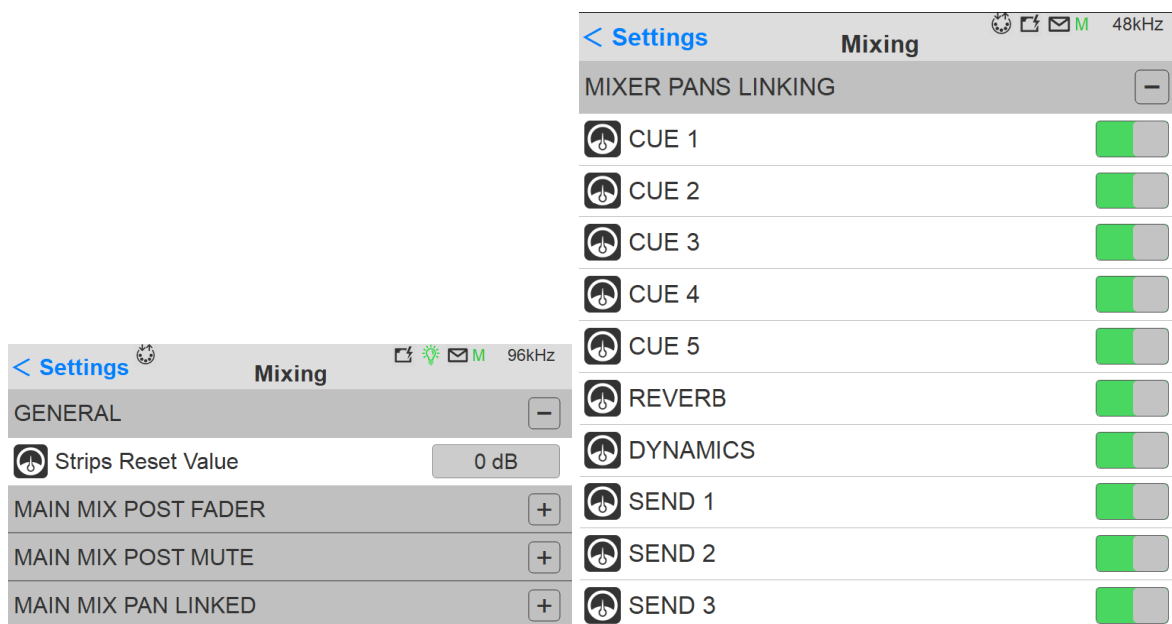
- 5×CUES と 3×SENDSを用意
- CUE モニタリング機能を5つの CUE に搭載
- 3つの SENDS に拡張されたクイックロータリービュー表示
- リバーブ、ダイナミクスバスを含むすべての SENDS のフルフェーダー表示
- Mixer チャンネルのレイアウトをカスタマイズできる Mixer Setup ページ
- IOの追加と迅速な拡張のための Peering サポート

Expert モードが実行されていると、Anubis のトップタスクバーには電球が表示されます。





MIXING Settings



Strips Reset Value

フェーダーを設定値にリセットします。これはBusの”Reset”(ミキサーのトップメニュー)したときと新しくPeerしたストリップに適用されます。0dB または $-\infty$ dB

MAIN MIX POST FADERS

有効にすると、REV, DYN, SENDS バスのすべてのチャンネルが MIX フェーダーのポストフェーダーに送られます。REV, DYN, SENDS のフェーダーはそのままMIX フェーダーの値に追加されます。

MAIN MIX POST MUTE

有効にすると、REV, DYN, SENDSバスのすべてのチャンネルがMIX Muteのポストになります。REV, DYN, SENDS の Mute はそのまま適用され、MIX Mute の状態に追加されます。

Mixer Pans Linked

Default: すべての Pans は Main Mixer にリンクされます。

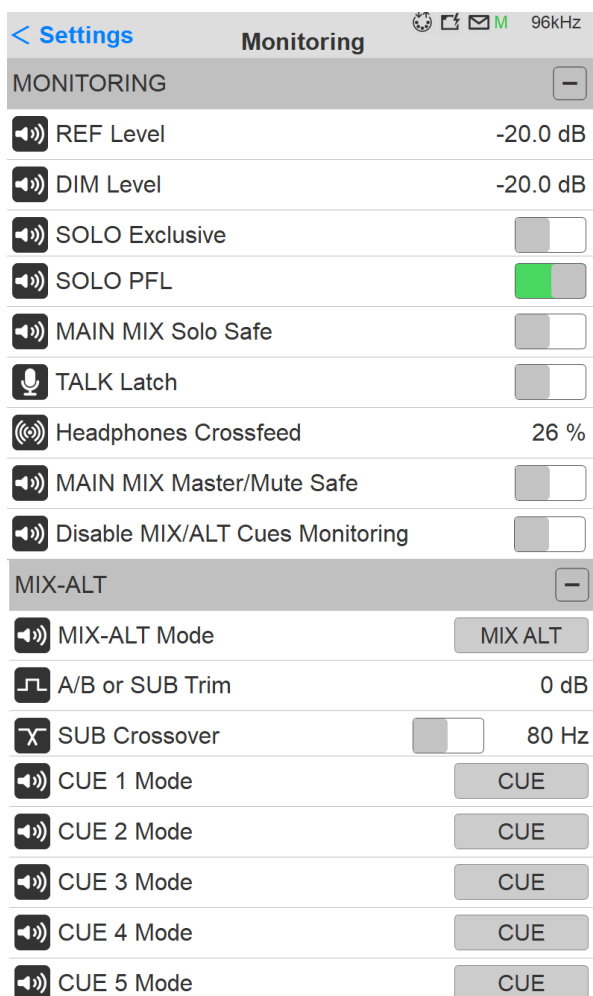
オペレーターは、Cue, Effect, Sends の Pan を Main Mixer にリンクさせるかどうか決めることができます。

Link モードが有効な場合: Main Mixer の Pan は Link されたすべてのアイテム (Cue, Effect, Sends) に適用されるので、オペレーターは Cue, Effect, Sends ごとにパンを何度もやり直す必要がありません。この操作モードは、ミキシングコンソールのワークフローに似ています。

Link モードが無効な場合: Cue, Effect, Sends はそれぞれ独自の Pan を持つため、Main Mixer とは異なる Panning に設定することができます。



MONITORING Settings



Monitoring settings ページでは、モニタリングのオプションや動作を設定することができます。

REF Level:

リコール時に設定するリファレンスのリスニング レベルを決定します。ロータリーノブを使ってレベルを設定します。

Range: -144dB ~ +6dB

Default: -20dB

DIM Level:

ロータリーノブを使ってDimレベルを設定します。Dim のあつてネーションは、Speaker Set の現在のボリューム値に適用されます (Dim は Headphone や Cue には適用されません)。Main ページの Mnitoring controls で Dim を設定します。

Range: -60dB~0dB

Note: Ref と Dim は、Monitor Modes の Type が Speaker Set にのみ適用されます。



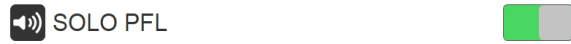
SOLO Exclusive :



このオプションを有効にすると、Anubis の Mixer の選択したチャンネル ストリップで Solo を実行すると、他のチャンネル ストリップの Solo が解除され、そのチャンネルだけが Solo になります。Group Master Channel で Solo Exclusive を実行すると、Group 全体に適用されます。

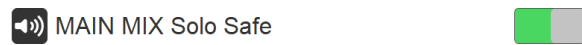
Default : Disable

SOLO PFL



このオプションを有効にすると、ソロはプリフェーダー リッスンとなり、フェーダー レベルは適用されません。

MAIN MIX Solo Safe:



有効にすると、MAIN MIX ディスプレイ上で実行されたすべてのソロが無効になり、MAIN MIX アウトプットにソロが流れないようにになります。MAIN MIX アウトプットへの偶発的なソロを防ぐために、ライブでの使用に最適です。

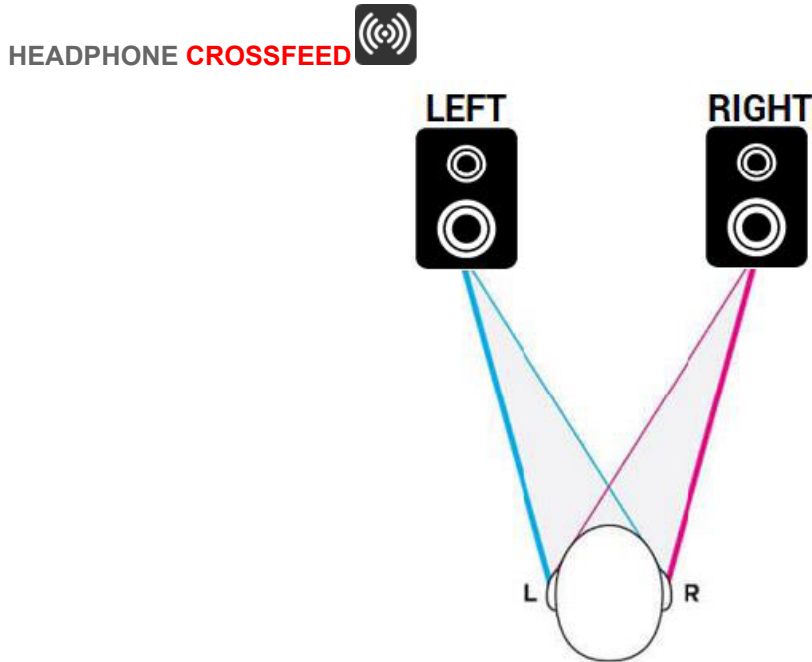
このモードでは、ソロになったチャンネルが MIX-ALT ビューに反映されるため、FOH は MIX-ATL で作業することをお勧めします。

TALK Latch :



有効にすると、Anubis Mixer のトークバックはラッチモードになり、Talk ボタンを押したままで会話を続けることができます。Talk ボタンを離すと自動的にトークバックが解除されます。

Default : Disable



Crossfeed はヘッドフォンにのみ適用されます。Crossfeed とは、ステレオの左右のチャンネルをブレンドする処理のことです。一般的には、ヘッドフォンでモニターする際に、極端なチャンネルセパレーションを軽減するために使用されます(例: 楽器が完全に片側にパンされている場合など)。Crossfeed を適用すると、ヘッドフォンの音をスピーカーで聴いているときのような自然な音にすることができます。Anubis ロータリーエンコーダーを回して値を設定します。範囲は、0(クロスフィードを適用しない)から100%(モノラル)。
クロスフィードをモニターするには、その値を適用するだけで、どのローカルヘッドフォンセットからもモニターされます。

注意: クロスフィードは Peer した Headphones には適用できません。Anubis の ローカル HP1 と HP2 にのみ適用されます。

Anubis の Settings > Monitoring の Headphone Crossfeed。パラメーターは、% が単位です。



MAIN MIX Master/Mute Safe



この機能を有効にしてメインミックスを表示/選択すると、マスターゲインを操作するデフォルトのロータリー操作と物理的なミュートボタンが無効になります。これらはMIX-ALTバスに適用されます。
誤ってMAIN MIXの出力レベルを変更してしまわないように、ライブでの使用に最適です。

Disable MIX/ALT Cues Monitoring



M>C がDisableで C>MがEnableな場合、Cue MonitoringセクションとWeb Accessページでは、これらのオプションが無効になり、グレー表示されます。
誤ってメインミキサーバスにオーディオを入れたり、キューモニターをメインミックスで上書きしてしまうことを防ぐため、ライブでは理想的な機能です。

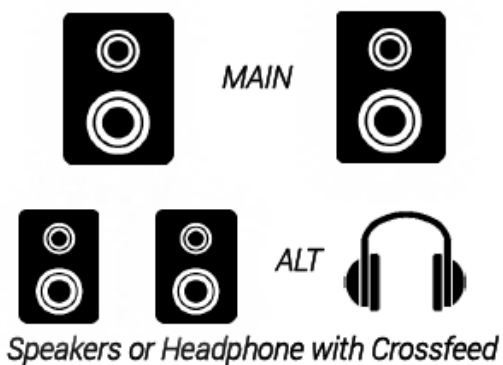


MIX ALT - Multi Mode Mixer Alternatives

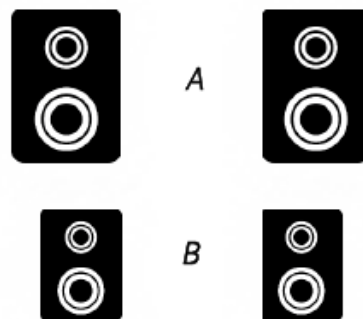
MIX-ALT -	MIX-ALT -
MIX-ALT Mode MIX ALT	MIX-ALT Mode SUB.1
MIX ALT Crossfeed 0 %	MIX ALT Crossfeed 0 %
A/B or SUB Trim 0 dB	A/B or SUB Trim 10 dB
SUB Crossover 80 Hz	SUB Crossover 80 Hz

Mixer Alternate では、ヘッドフォンとエキストラスピーカーのモニタリングに加え、ヘッドフォンへのCrossfeed, A/B モニターセット, 2.1 または 2.2 スピーカーのレイアウトなど、複数のモニタリングモードが用意されています。

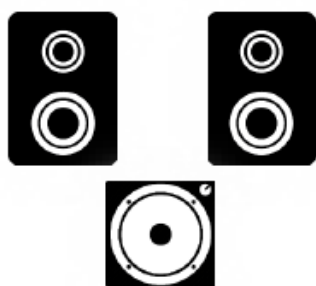
Alternate Output



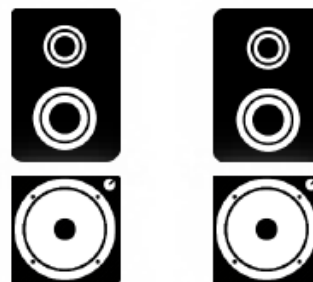
A/B Mode



2.1 Layout

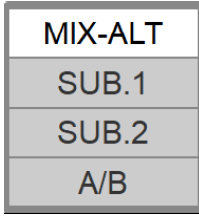


2.2 Layout





MIX-ATL 4 modes



選択したモードに応じて、MIX-ALT には異なる動作が適用されます。

Mode/Action	Solo	Mute	Fader	Pan	Master (Gain/Dim/Ref/Mono)
MIX ALT	x	x	x	x	
MIX A/B	x	x	x	x	
SUB.1	x	x	x		x
SUB.2	x	x	x	x	x

MIX - ALT

Anubis Standard Mixer Alternate monitoring:

MAIN MIXER と同じ Mixer を使用しますが、独立した ボリュームレベル を持ちます。

一般的には、ヘッドフォンでミキサーをモニターし、ヘッドフォンの独立したボリュームコントロールを行う場合に使用します。

Default Output Routing : Headphones 1

A/B or Sub Trim mode

A/Bスピーカーセット使用時。

A/B mode は、2組のスピーカーセットを使用する場合に選択します。これらは リファレンス スピーカーとオルタネート スピーカーのセットです。このモードは、スピーカーとヘッドフォンのモニターを切り替える場合にも使用できます。このモードでは、2組のスピーカーセットのボリュームゲインは同じになります。Anubis の Aボタン と B ボタン を切り替えると、選択されたスピーカーセットに信号が出力され、もう一方のスピーカーセットはミュートされます。



SUB mode では レベル Trim が使用できます。一般的に SUB のブーストに使用されます。

SUB.1

2.1 など、Sub ウーファーを加えたセットアップに使用します。

Sub は Speaker Set A と同じ内容をモニターし、リンクボリュームも同じになります。

SUB.2

2.2 など、Sub ウーファーを2本加えたセットアップに使用します。

Sub は Speaker Set A と同じ内容をモニターし、リンクボリュームも同じになります。

パンニングは Sub の L-R となります。



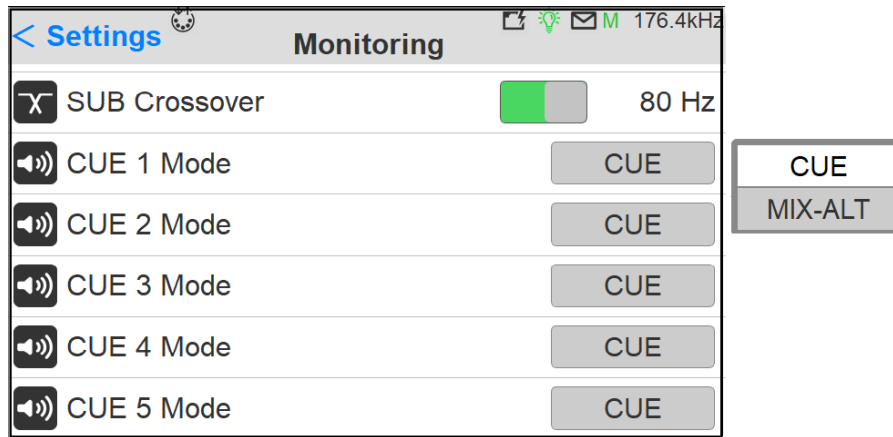
SUB Crossover:

ベースマネージメントのためのクロスオーバー パラメーターが設定できます。

Frequency Range : 20Hz to 1000Hz

クロスオーバーは Anubis が持つ 21 の EQ の 1 つの EQ を使用します。

CUES Modes

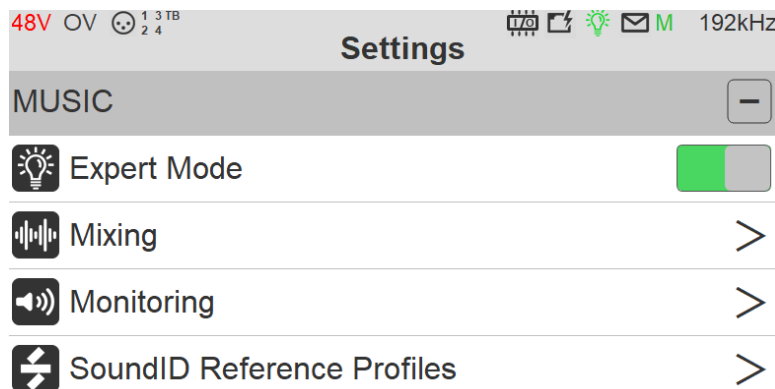


CUESは、CUEごとに独立したミキサーを持つCUEモードと、CUEミキサーがメインミキサーの複製となり、マスターゲインとマスターエフェクトを持つ MIX-ALT (Mixer Alternate) モードで動作します。MIX-ALT モードでは、CUEは CUE Monitoring セクションに表示されなくなり、右側のバーコントロールはメインミキサーのものと同じになります。

このモードは、メインミックスを別のバスから独立したマスターゲインでモニターする場合に便利です。

SoundID Reference Profiles.

Sonarworks SoundID Reference の補正をAnubisにインポートします。



この後の Sound ID - Room Correction の章を参照してください。



ACCESS CONTROL Settings



Access Control

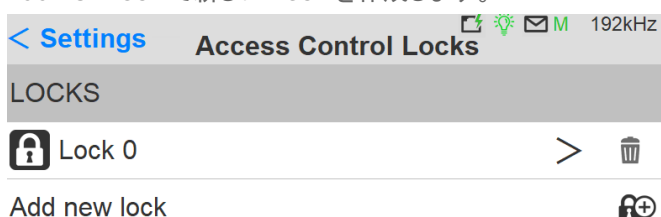
パラメータ(アイテム)のリストにセキュリティアクセスを適用し、一部のオペレータがフルアクセスできないように、パスワードで保護することができます。

Lock は Snapshot とは独立しており、常に完全な保護ができます。

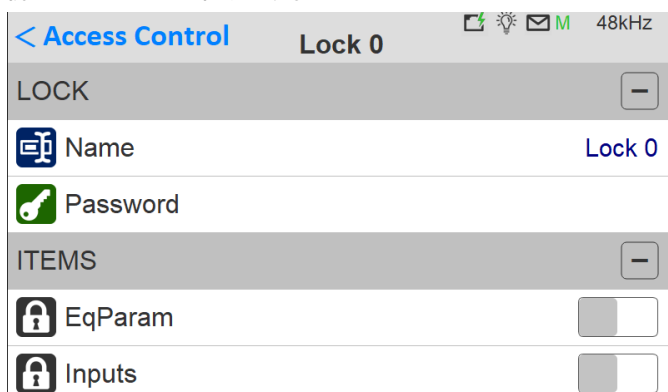
1. Access Control に入ります。



2. Add new lock で新しい Lock を作成します。



3. 新しい Lock が加わります。



Lock

Name: Lock の名称です。

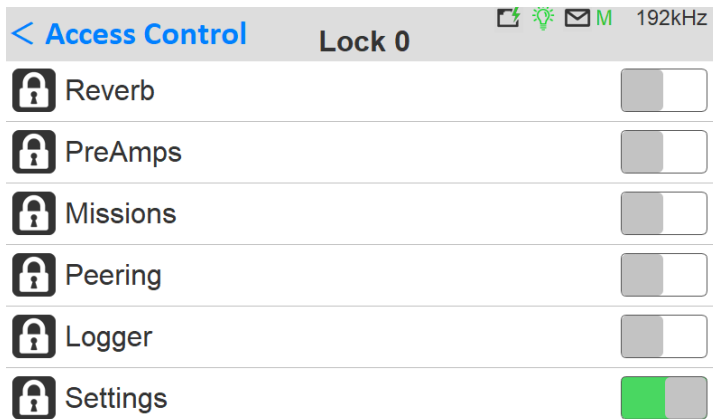
Password: プロテクション用のパスワードを作成します。このパスワードにより Lock の内容にアクセスできます。

Items

Lock に選択、適用できる項目の一覧です。リストアップされる Items は、運用中の Mission によって異なります。

4. この例では Settings が Lock されており、変更にはパスワード 1234 が必要です。





Note: リストの最初の Settings は、Main Settings (root) ページです。

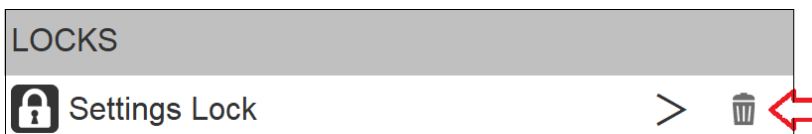
5. 誤ったパスワードを入力すると、Settings へのアクセスは拒否されます。パスワードを入力します(ここでは1234にしています)。



6. これにより Settings ページが開きます。

Delete Lock

Lock はいつでも削除することができます。



Lockを再初期化するには

1. Preset を Save します。
2. Anubis の Advanced ページを開きます(これは MT Discovery またはドライバーから開きます)。
3. System タブを開きます。
4. Reboot を選択してください。

警告:これは全ての Lock を初期化します。



INFO Settings



Info

Anubis の名前, タイプ, ファームウェアバージョン, メンテナンスモード, シリアルナンバーに関する全ての情報と、Anubis のステータスに関する情報を見つけることができます。また、温度, CPU, メモリーの使用率などの情報も確認できます。

< Settings		Info	48kHz
Device's name	Anubis_Premium		
Type	Premium		
Firmware version	1.0.0b28910		
Maintenance Mode version	16		
Serial Number	A650041		
Boards run	Main: 3 Front: 3 UI: 3		
STATUS		-	
Temperature	26 °C		
Cores	0 %	37 %	
Memory	10 %		

Note: 新しいファームウェアが利用可能かどうかを定期的に確認してください。最新のファームウェアにアップデートすることは、改善や修正のために重要です。詳しくは、ファームウェアのアップデート手順をご覧ください。

DEBUG Settings



Debug

Loopback: 発振器(1FS対応)と透過性チェックツール(384kHzまで対応)を備えた内蔵モジュールです。

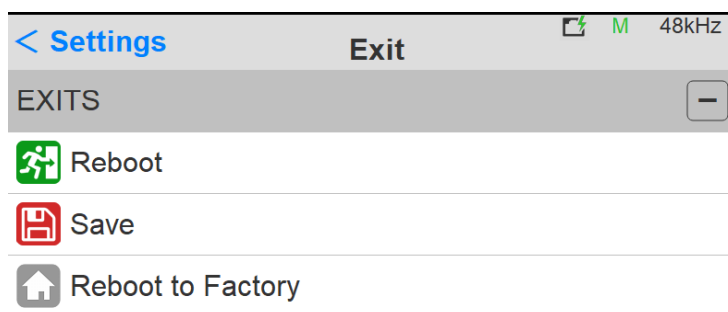


Loopbackを有効にすると、Anubis I/Oの Loopbackモジュールにアクセスできるようになります。

Note: Loopback は、現在のところ、Merging チームのデバッグツールとしてのみ利用可能です。



EXIT Settings



Reboot

Anubis を再起動させます。

Note: Anubis の電源をOFFにするには、POWERボタンを押してください。



Save

Anubis の現在の設定を保存します。

Note: Anubis の全設定は2分ごとに保存され、設定を終了するたびに保存されます。設定中に変更を加え、設定中にAnubis の電源を切る場合は、Save を行うことをお勧めします。



Reboot to Factory

Anubis を出荷時の設定に戻して再起動させます。



Warning: 全ての *Source*, *Monitors*, *Settings* は消えます。

保存してある *Presets* は、この操作により消去されることはありません。*Preset* に Anubis の設定を保存されることをお勧めします。



Anubis ホームボタンを押すと、Settings を終了して Mixer 画面に戻ります。





ANUBIS ROOM CORRECTION WITH SONARWORKS SOUNDID REFERENCE

Sonarkworks SoundID Reference and Anubis integration

MERGING+ANUBIS は、SoundID Reference の補正をパソコンの外で可能にする初のハードウェアです。

SoundID Reference (旧Reference 4ソフトウェアの次世代版)は、不要な色付けを取り除き、正確なスタジオリファレンスサウンドを提供するスピーカーとヘッドホンのキャリブレーションソフトウェアです。SoundID Referenceを使用すると、推測することをやめてすべてのミックスを信じることができます。どこで作業しても、フラットで一貫したサウンドを聴くことができます。

Sonarkworks の SoundIDプロファイルを Anubis にアップロードし、ルームまたはヘッドフォン補正を行います。Anubis が部屋やヘッドフォンを補正してくれるので、補正のためにシステムを動かす必要はありません。

必要なもの

- Monitor Mission または Music Mission の動作する Merging Anubis
- Merging Anubis Firmware 1.2.5 以降
- SoundID Reference のフルライセンスと version 5.1.0 (以降) がインストールされていること。最新のアップデートは [ここ](#) からダウンロードできます。
- SoundID Reference と Measure for Room Correction をインストールするか、Headphones プロファイルをエクスポートする。
- Sonarkworks SoundID outputs は、MAD または VAD で行ってください。
- Exported Profile は、同じシリアル番号の Annubis にのみインポートできます。

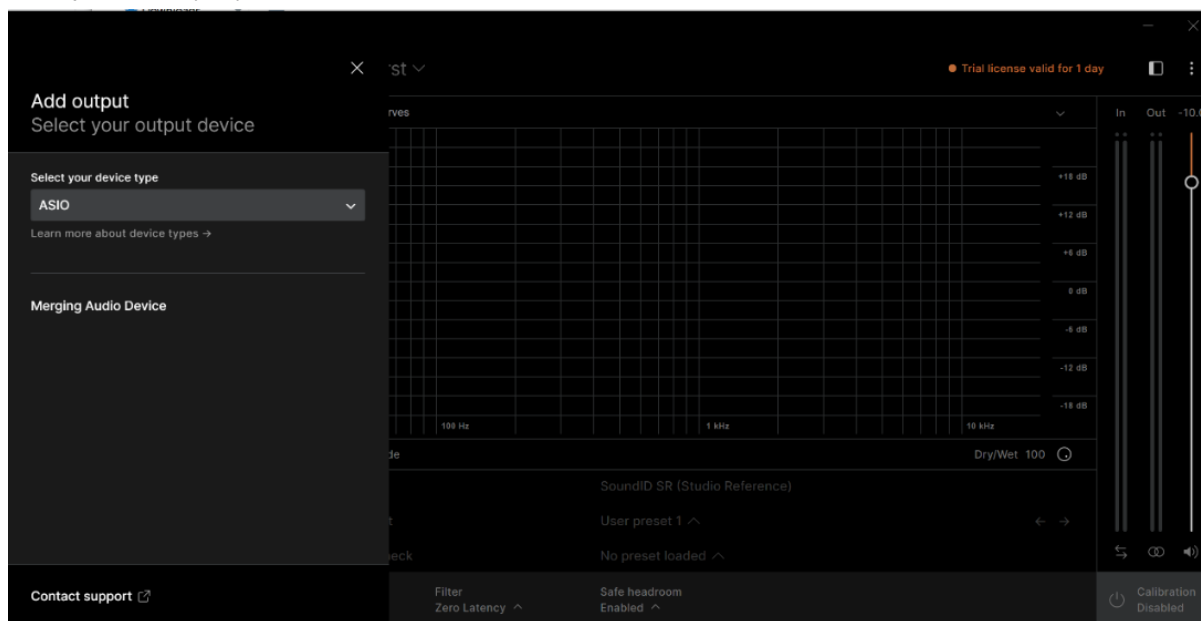
警告: *The SoundID Reference correction* は、44.1 から 192 kHz で使用できます。352.8kHz(DXD) と 384kHz は、将来のファームウェア(1.2.5以降)で計画されています。DSDはサポートされません。

手順

1. SoundID Reference と Measure (Room Correction オプション) をダウンロードしてインストールする。
2. "Add Output" を選択して SoundID が Merging VAD (Mac) または MAD (PC) で動作するように設定する。
3. Merging Audio Device (MAD^PC) または Merging RAVENNA/AES6 (VAD-macOS) を次の図のように選択する



Example: MAD (PC)



4. スピーカー用のプロファイルを作成するかヘッドフォン用のプロファイルを選択し、Sonarworks のドキュメントに従う。

[Speakers SoundID Setup](#)

[DAW and Headphones SoundID Setup](#)

SoundID Reference Measure (Room Correction):

新しいSpeakers Profileを作成する場合、SoundID MeasuresでAnubis Micインプットと設定されたDAWアウトプットを以下の画像のように選択してください(MAD IOまたはVAD IO)。



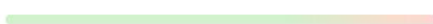
Select your input and output device

It is recommended to use a single audio device for microphone input and speaker output. [Learn more](#)

Measurement microphone input channel:

Merging Audio Device - MAD Input 1

Cannot find your device in the channel list?



Tap the microphone lightly and check if a signal is received from the microphone

Output channels:

Merging Audio Device - MAD Output 1 & ...

Play test track and make sure your output volume is set to conversation level

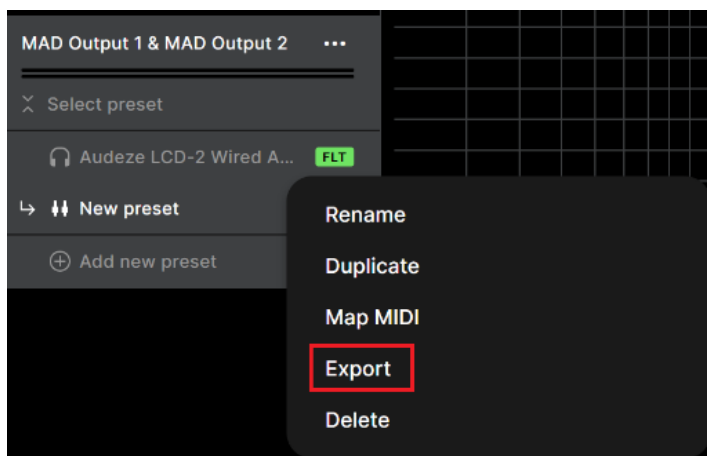
Preferences

Back

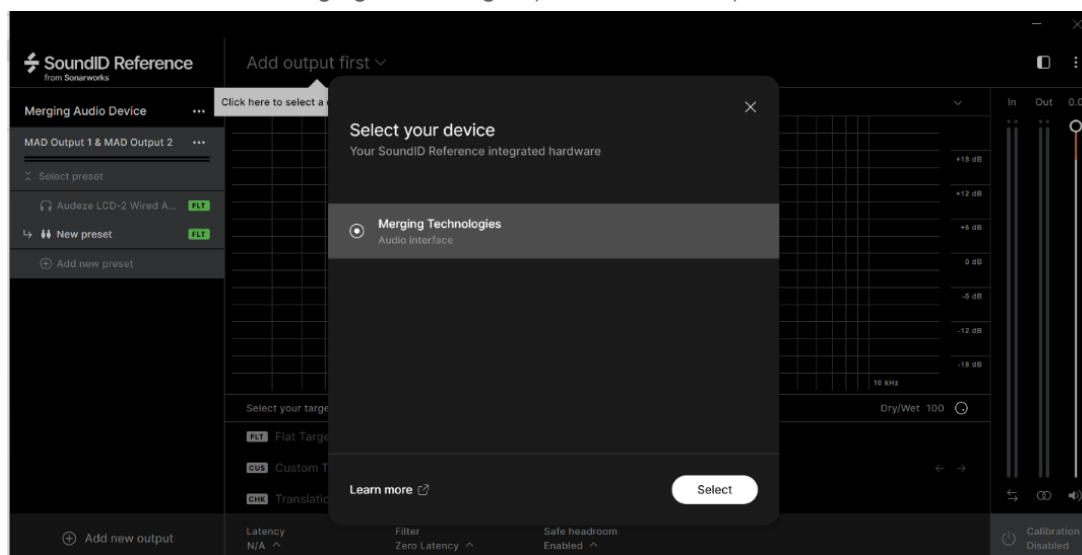
Next



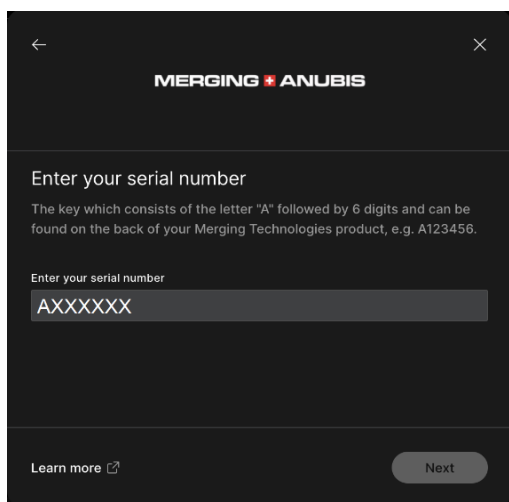
5. プロファイルが作成されたら、SoundID でそのプロファイルを “Export” する。



6. 表示されたダイアログで Merging Technologies(Audio Interfaces) を選択する。

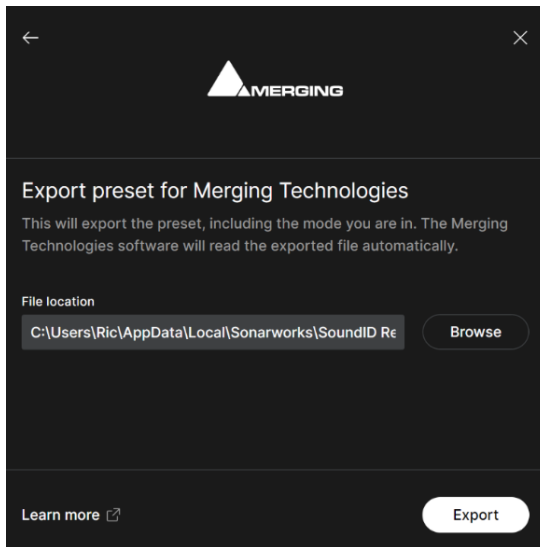


7. Anubis のシリアル番号を入れる。シリアル番号はAnubisの底蓋を見るか、Settings > Info ページに AXXXXXX と表記されています。

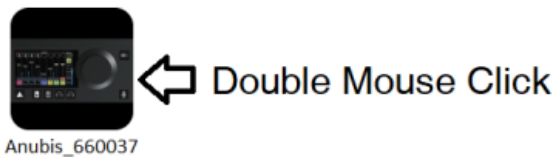




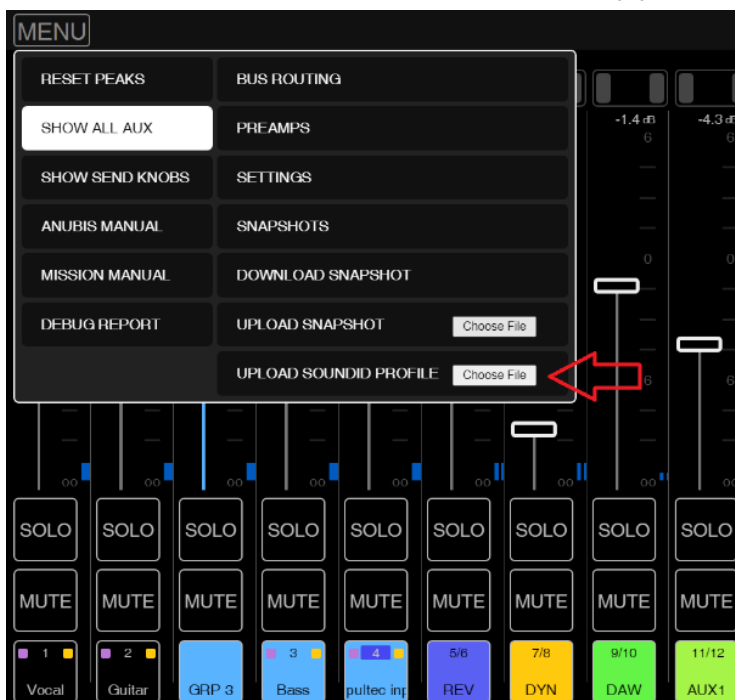
8. エクスポートした SoundID profile のパスを記録しておく。エクスポートする場所を変更したければ、Browse で保存場所を変更する。



9. プロファイルをExportしたら SoundID をdisableにして閉じる。
10. AnubisにPreset ProfileをImportするために、MAD, VAD, ANEMAN で Anubis remote Web Access ページを起動する(Anubis のアイコンをマウスでダブルクリックする)。

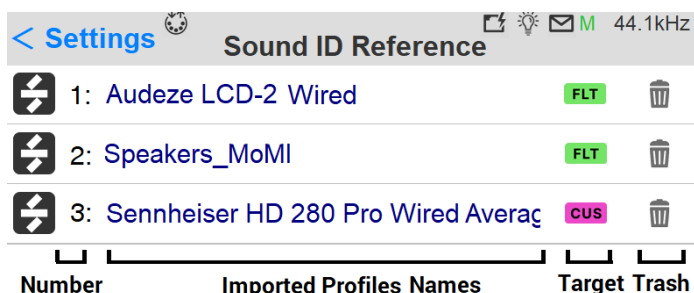


11. Web Access が開いたら左上にある Menu の中から “Up;pad SoundID profile” を選択する。





12. これで profile が Anubis にインポートされます。Profile名の変更や消去は、Settings > SoundID Reference ページで行えます。



Number: Profile はアルファベット順に並びます。

Name/Rename: Profile 名をタップするとバーチャルキーボードが現れ、Profileの名称変更ができます。

Target: SoundID profile のターゲットモードです。

- **Flat:** フラットなターゲットカーブ。部屋でのニュートラルスピーカーに基づく。SoundID SR (Studio Reference)は、Headphonesのサウンドターゲットを定義しています。
- **Check:** 特定のリスニング環境またはデバイスをシミュレートします。
- **Custom:** ターゲットカーブの調整、または特定の周波数領域へのキャリブレーションの制限

Delete: Profileの横にあるゴミ箱をタップすると、そのProfileを消去します。



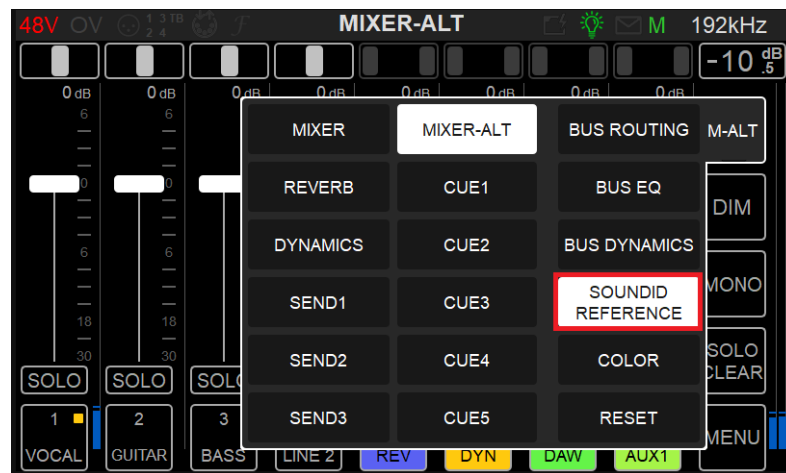
Music Mission SoundID management

Music MissionでSoundIDプロファイルを利用する方法は、以下の通りです。まず、Anubis にプロファイルがインポートされていることを確認してください。

Music Mission では、SoundIDプロファイルは Mix Bus Outputs に適用され、ローカルの出力やペアリングされたデバイスの出力に適用されます。

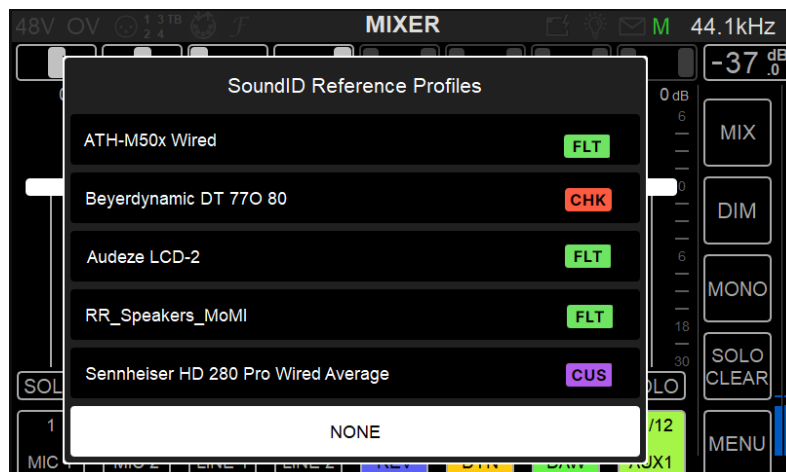
制限:

- SoundIDプロファイルは、同時に最大2つのリファレンスコレクション(スピーカーまたはヘッドホン)に適用することができます。
 - Music Mission の Cue は、firmware 1.4.0 以降でSoundIDプロファイルに対応しています。
 - SoundIDを適用できない場合は、ストリップまたはバスEQのEQリソースの一部を無効にしてください。
1. Music Mission Mixer Menuを選択し、SoundID ReferenceエントリーをMixまたはMix-ATL Busesのいずれかにタップします。



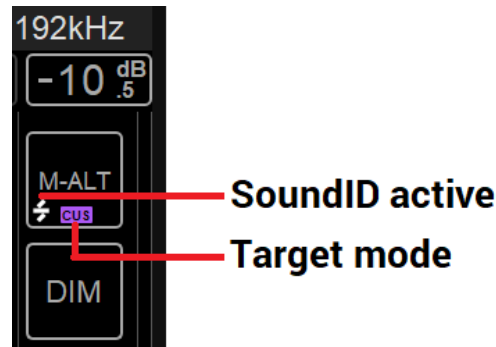
注意: SoundID Referenceの項目がグレーアウトしている場合は、Anubisにまだプロファイルをインポートしていないためです。上記の手順が完了していることを確認してください。

2. Mix Bus に適用するSoundID Reference Profileを選択します。





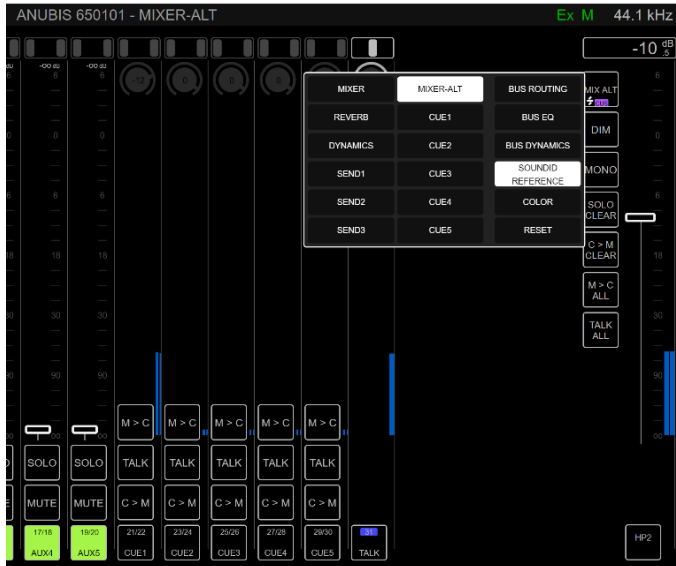
3. プロファイルを選択すると、以下のようにログの識別ができます。



これで、SoundIDプロファイルによるルームコレクションまたはヘッドホンコレクションの設定が完了し、いつでもプロファイルの有効化、無効化、再インポート、新規プロファイルの管理ができるようになりました。

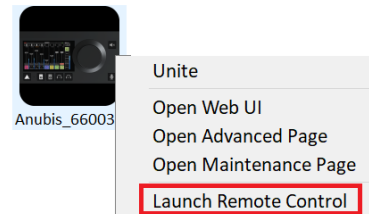
Anubis SoundID Remote Access

Webブラウザ(Google Chrome推奨)からSoundID Profilesをリモートで適用・無効化。VAD-MADのオプションであるAnubis Remote Control Appにも対応しています。



Web Access Remote

Network Discovery



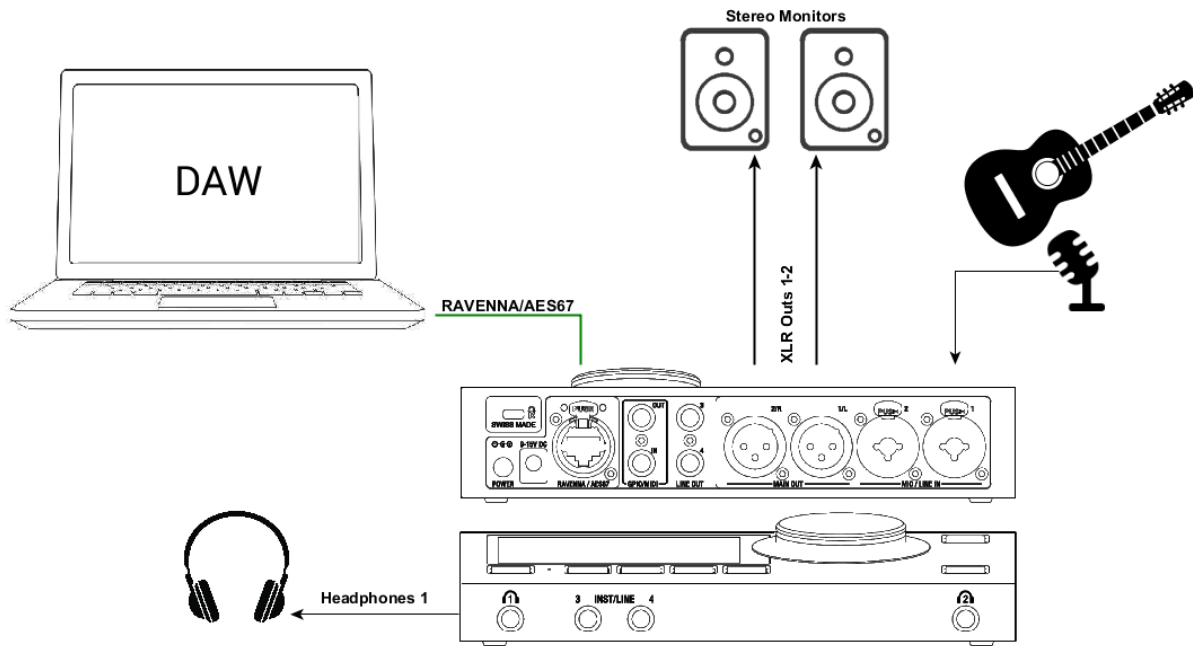
Remote Control Application

SoundID integration latency table when enabled.

44.1kHz	1.36ms
48kHz:	1.25ms
88.2kHz:	0.68ms
96kHz:	0.61ms
176.4kHz:	0.34ms
192kHz:	0.32ms



BASIC MUSIC SETUP



SetUp:

スピーカーとヘッドフォンを使い、DAWのメイン出力と録音する楽器をモニターする。

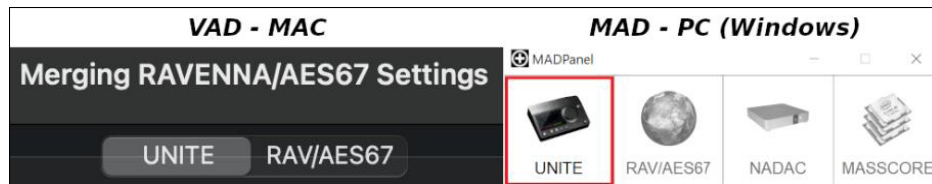
必要事項:

まず、Anubis ユーザーマニュアルの“Drivers Installation Procedure”に沿って、正しく接続して電源を入れ、Music Mission が起動していることを確認してください。

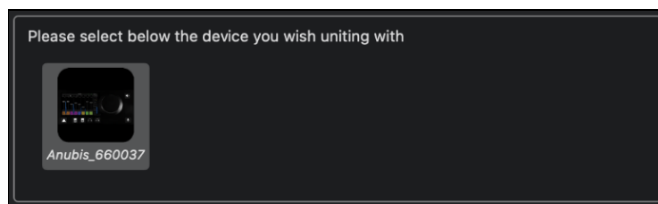
モニタースピーカーへの回線を XLR Output 1/2 または TRS Output 3/4に接続してください。
マイクまたは楽器からの回線を Anubis の入力に接続してください。

手順:

1. Merging Audio Device (PC) または Virtual Audio Device (Mac) を起動してください。
2. UNITE タブを開いてください。



3. Anubisをクリックしてください(Mac または PC に Cat5e または Cat6 ケーブルでAnubisを接続してください)。



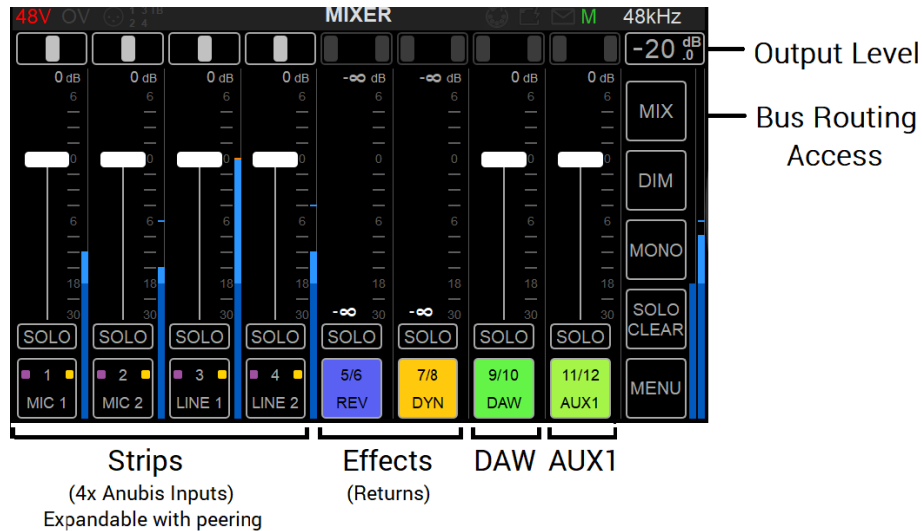


4. UNITEで接続したいものを選択してください。



Returns: バス出力 (Mixers, Cues, 内蔵エフェクターセンド) を録音したい場合はチェックしてください。
Peered input: このマニュアルの Peering の章を参照してください。

5. DAWやアプリケーションを起動してください。出力がDAWまたはAUX出力に出ているはずです。
6. Anubis Mixer でDAWまたはAUXがAnubisで再生されているはずです。
7. Anubisのダイレクト入力をミックスしてみてください。マイクまたは楽器が接続されているならばミックスができるはずです。

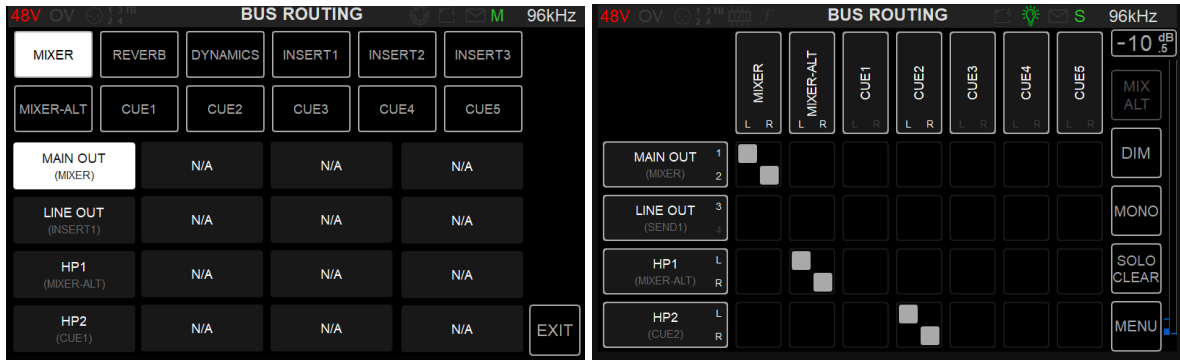


8. Bus Routing のページを開き、Mixer と Mixer-ALT の出力をモニターしたい出力に接続してください。

Legacy (firmware 1.2.4 and prior)
higher)

New Bus Routing (Firmware 1.2.5 and higher)





これで、Anubis Music Mission を使って DAW を録音したりモニターしたりする準備が整い、超低遅延でチャンネルをミックスできるようになりました。

RAVENNA/AES67 mode もっと複雑なセットアップ用

より複雑な設定を行う場合は、RAVENNA/AES67モード(RAV/AES67 タブ)を実行し、ANEMANIによる接続を行うことができます。ANEMANIでは、マルチキャストまたはユニキャスト接続のいずれかを選択して接続することができます。

Unicast: 1つの送信元から1つの送信先へ、つまり1対1(ホームプロジェクトスタジオに推奨)

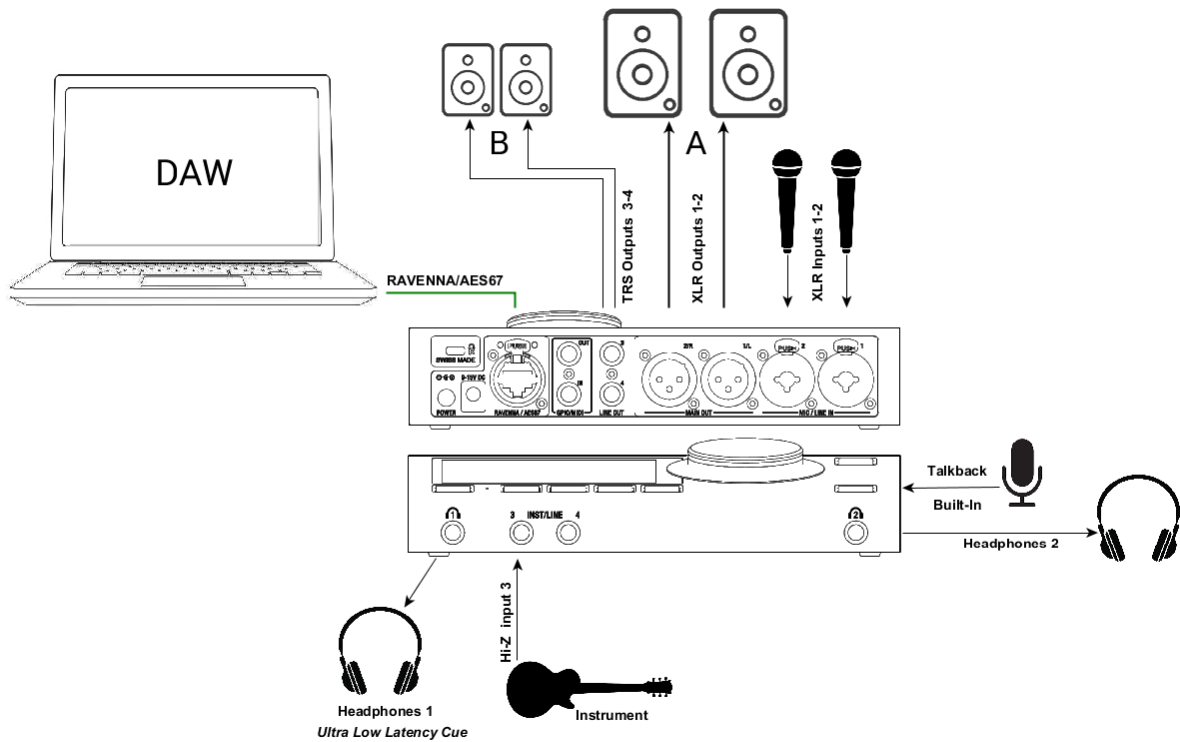
Multicast: 1つの送信元から、複数の送信先へ、つまり1対多の接続

これらが適用されると、緑の接続が紫(マルチキャスト)または青(ユニキャスト)に変わります。

Note: Anubis と Driver の両方が、同じサンプリングレートとであることと、レイテンシーが同じフレームモード、または倍数(例:AES67-48サンプル、64フレームモードなど)であることを確認してください。



RECORDING SETUP WITH CUES



SetUp:

マイクや楽器を DAW に録音しながら Speaker でモニターする。同時に Cue キューを Headphone 1 に送る。

必要事項:

まず、Anubis ユーザーマニュアルの“Drivers Installation Procedure”に沿って、正しく接続して電源を入れ、Music Mission が起動していることを確認してください。

モニタースピーカーへの回線を XLR Output 1/2 または/と TRS Output 3/4に接続してください。マイクは Anubis 背面の XLRコンボ入力1-2に接続し、ギターやベースは前面の TRS 入力3のHi-Zインストゥルメント入力に直接接続します。ステレオで使用する場合は、TRS 入力3-4 としても使用できます。

Note: TRS 入力4を使用すると、内蔵のトークバックマイクと同じ回路を使用しているため、トークバックマイクが使用できなくなります。

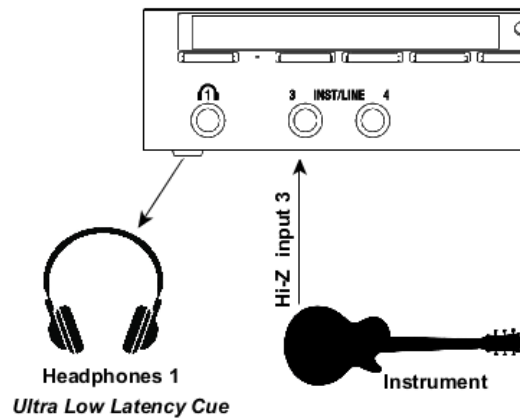
手順:

DAWのプレイバックとモニタリングは、前述のユースケースで説明したように、配線と設定してください。

超低レイテンシー CUE の使用

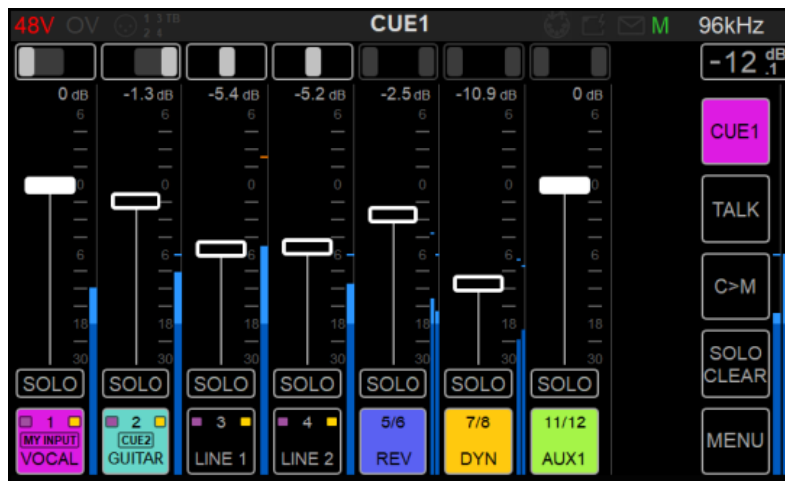
この例では、Headphones 1に演奏者のためにフォールドバック用の Cue を設定します。

Note: Anubis Music Mission の各 Cue には専用の Mixer があり、任意の Outputs set でモニターすることができます。スピーカーやヘッドフォンで Cue をモニターしたり、出力を持っている Peered デバイス(例: Hapi-Headphones)から Cue をモニターすることができます。



手順:

1. UNITE または ANEMAN で DAW/AUX を接続してください。
UNITE とコネクティビティに関する詳細は、オンラインデータベースをご覧ください。
<https://confluence.merging.com/pages/viewpage.action?pageId=86212613>
2. 演奏者用のマイクまたは楽器を Anubis (または Peer されたデバイス) の入力に接続してください。
3. Anubis Mixer の DAW、AUX をモニターして、入力から直接マイクや楽器を入力してミキシングします。
位相やレイテンシーの問題を避けるため、アーティストにはインプットリターンを除いたフォールドバックミックスを送り返すことをお勧めします。
4. Cue 1 を選択し、バスルーティングで、演奏者がモニターするヘッドフォンまたは出力チャンネルにパッチしてください。
5. CUE1 で、演奏者の Mix バランスを調整します。
例) ダイレクト入力にリバーブをかけたり、EQ やコンプレッションをかけることができます。



6. 演奏を DAW で録音し、演奏者は CUE ミックスを、エンジニアはメインミキサーをモニターして聴くことができます。録音したテイクをアーティストに戻すには M>C 機能、テイクを聴いて CUE を準備するには C>M 機能を使ってください。

これで **Anubis** を使ったレコーディングと、低遅延 **CUE** ミキサーを使ったセットアップが整いました。

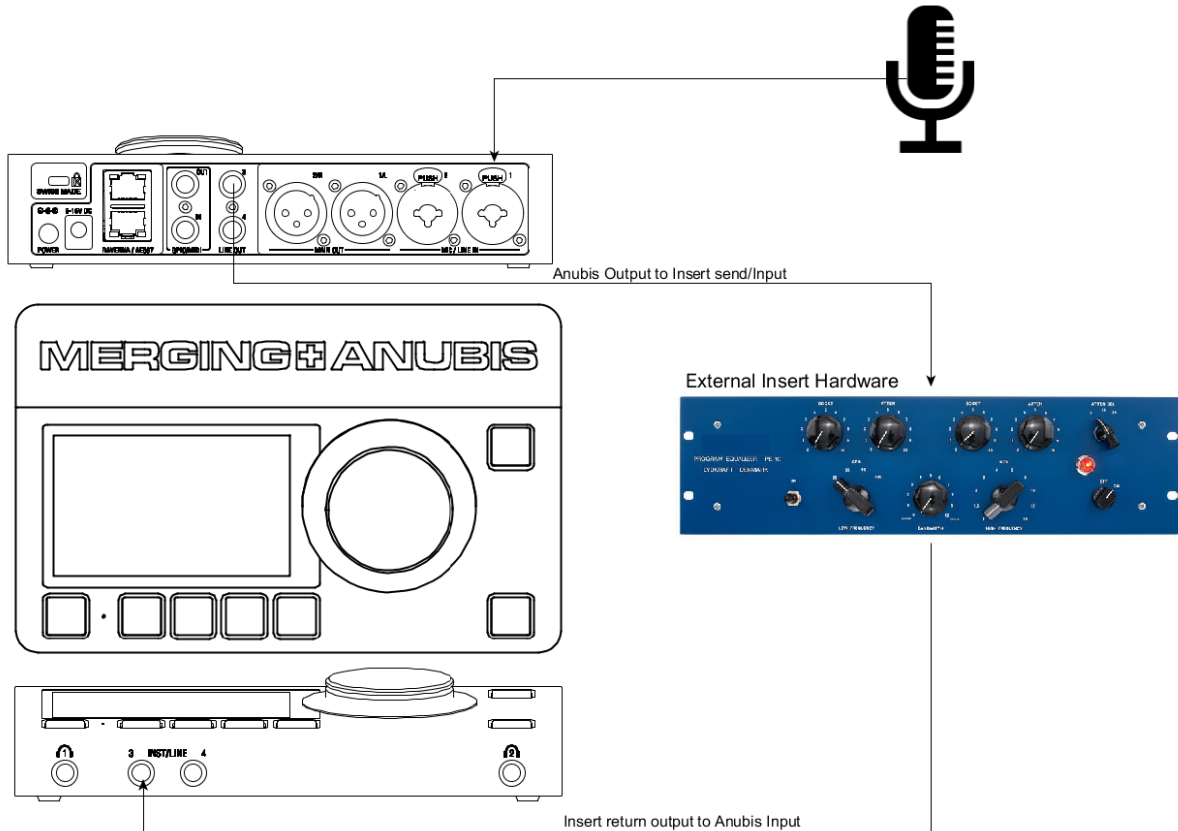


HARDWARE INSERTS

Music Mission でハードウェアをインサートしたい場合、信号を外部に出す必要があります。

SetUp:

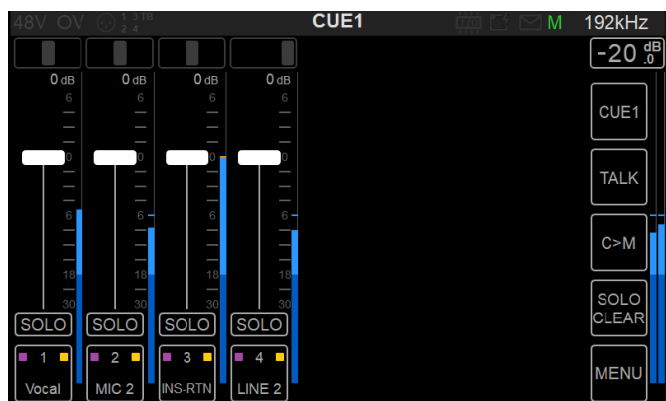
- 外部でエフェクト処理された音をモニターする。
- 外部でエフェクト処理された音を DAW に送る。



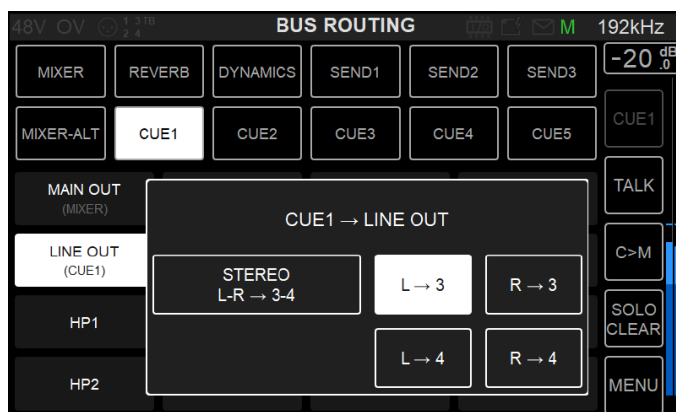
Music Missionで外部インサート処理を行うための手順の説明をします。

この例では、ソース入力にマイクを使用しています。このマイクに外部機器をインサートして、インサートをかけた状態 または かけない状態を録音します。

1. ソースを接続する(ここではCombo入力1にマイクを接続しています)。
2. インサートの出力と入力を接続する(この例の Pultec はモノラル機器なので、1つの IO チャンネルを使用しています)。ステレオ機器のハードウェアインサートを使用することもできます。
3. MIX Menu から CUE1 に入ります。



4. BUS Routing を選択します。



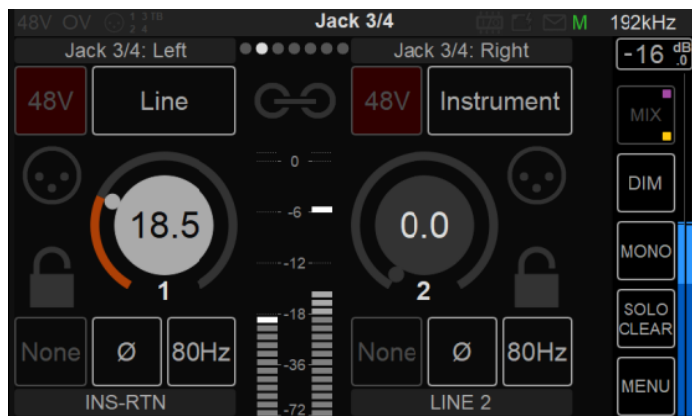
5. CUE 1 の Output を TRS 3 output に接続します。

6. 余計なプロセッシングを加えないために、CUE 1 のページで CUE Output を 0dB にしておくことをお勧めします。

7. Main Mixer ページで Line #3 をインサートリターンが返るように設定します。



8. Line #3 の Input Source は、PreAmps Line input #3 で調整できます。



これで、外部インサートのリターンチャンネルを録音する準備が整いました。

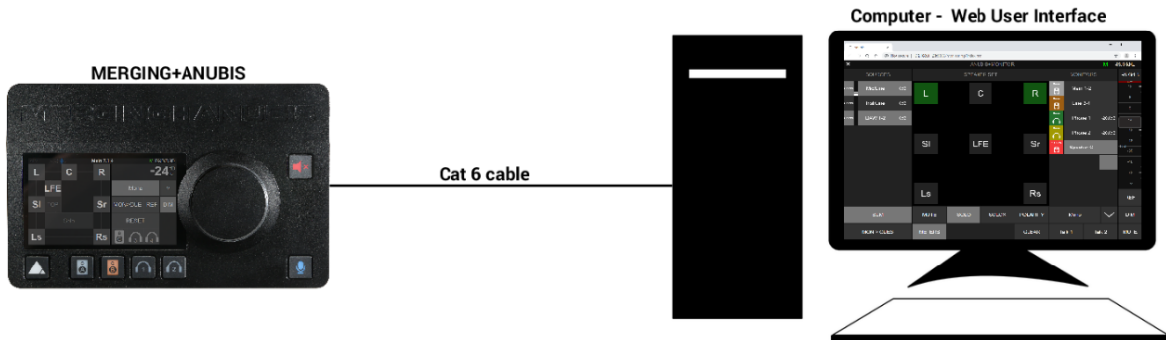
Mic PreAmps channel #1と、処理済みのハードウェアリターンの **Insert #3** のを録音するのが一般的です。



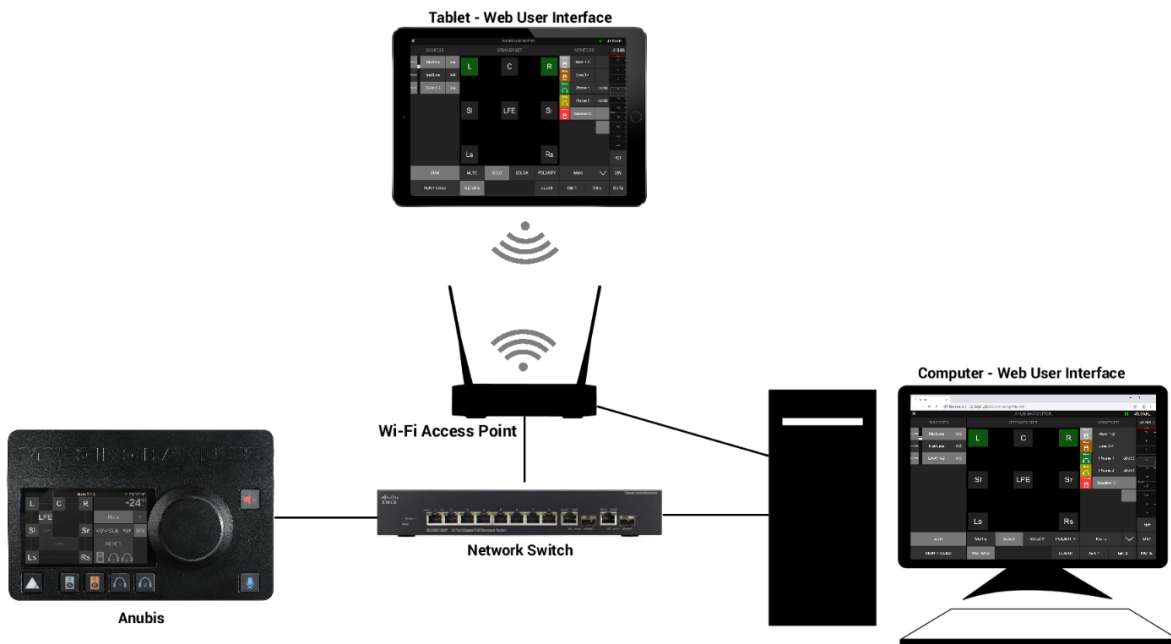
MONITORING WEB USER INTERFACE

タブレットやWebブラウザで Anubis の Webユーザーページを開いて、モニタリングをリモートコントロールします。Anubis Monitoring Web User Interface は、Monitoring Mission の3つのページを1つのWebページにまとめたものです。

Peer to Peer Remote Access:



Network/Tablet Remote Access:





How to Open the Remote Web User Interface

リモート Web ユーザー インターフェースの開き方

PCユーザー:

Anubis をPCに正しく接続したら、ANEMANを起動して、World view に現れた Anubis のアイコンをダブルクリックしてください。Monitoring Web Access ページがデフォルトのWebブラウザに表示されます (Google Chromeを使用してください)。

また、MT Discovery の Anubisのエントリーをクリックしても Webユーザーインターフェースのページを開くことができます。



Mac ユーザー:

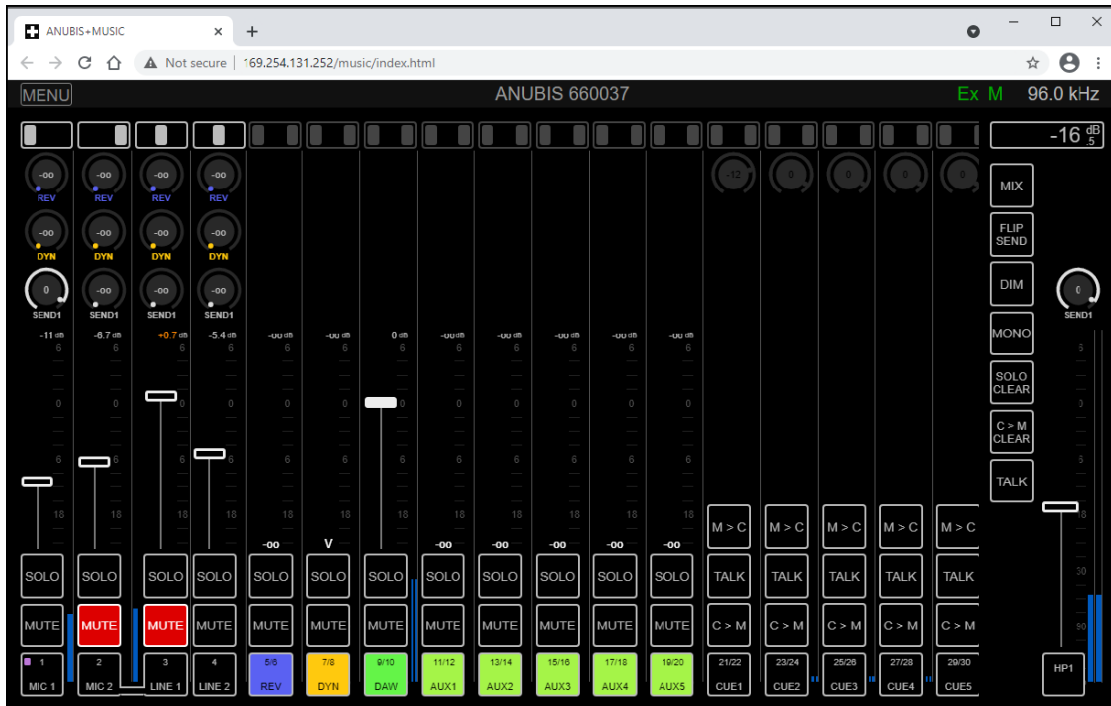
Anubisがお使いのMacに正しく接続されたら、VADパネルを開き、Anubisアイコンをクリックします。これにより、Anubis Monitoring Web Access ページがデフォルトのブラウザで開きます (Google Chromeを使用してください)。

ANEMAN や MT Discovery から、Anubisアイコンをクリックすると Webユーザーインターフェースのページを開くことができます。



Anubis_650017

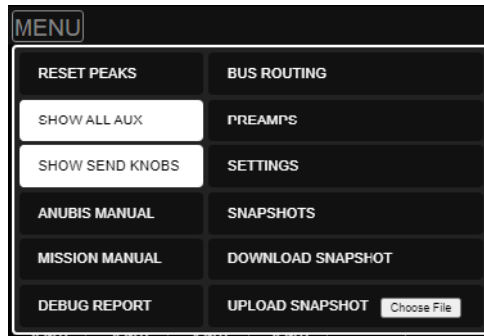
Music Mission Web User Interface Page





Webユーザーインターフェース ページは、Anubis の TFTディスプレイを再現したもので、Anubis と同じネットワークに接続された Webブラウザから Anubisを遠隔操作することができます。

MENU 左上のボタンをクリックすると、メニューオプションが表示されます。



メニュー項目はAnubis TFTのものと似ていますが、マニュアルリンクとShow Send Knobsが追加されています。

Reset All Peaks:

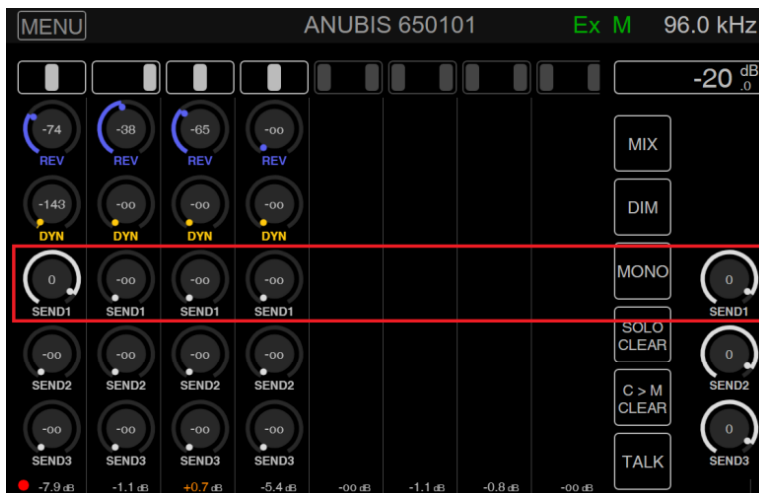
この項目を選択すると、UIピークの表示がリセットされます。

Show All Aux

有効にすると、すべての AUX(1~5)がミキサーに表示されます。

Show All Sends

この項目を選択すると、リバーブ、ダイナミクス、SEND 1 ~ 3 のSENDロータリーがリモートウェブアクセス(ブラウザ)に表示されます。



注: Send 1-3には、リモートWebアクセスミキサーの右端にあるMaster Send レベルが表示されます。

Anubis Manual

この項目を選択すると、Anubisに内蔵されているAnubisユーザーマニュアルが開きます。マニュアルを表示するには、PDFプログラムまたは拡張機能がインストールされている必要があります。

Mission Manual:

この項目を選択すると、アクティブなMission Manual(ここではMusic Missionのマニュアル)が開きます。



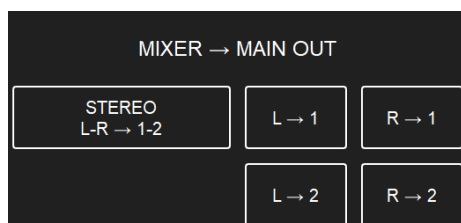
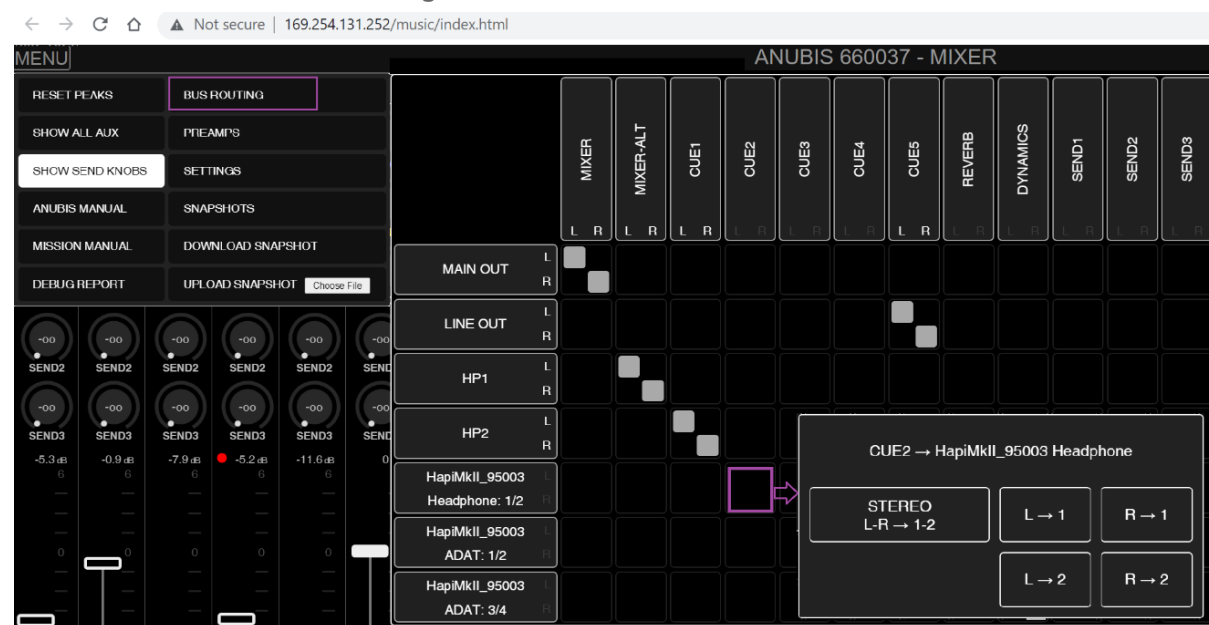
Download Debug Repoer

Anubisのデバッグレポートをダウンロードして保存する場合に選択します。このレポートは、必要に応じて Mergingチームに送られ、デバッグや問題の調査に使用されます。

Bus Routing

Webバスルーティングは、TFTデバッグルーティングと同じ原理に基づいていますが、UIがマトリクス表示になっています。

Remote Web Access Bus Routing



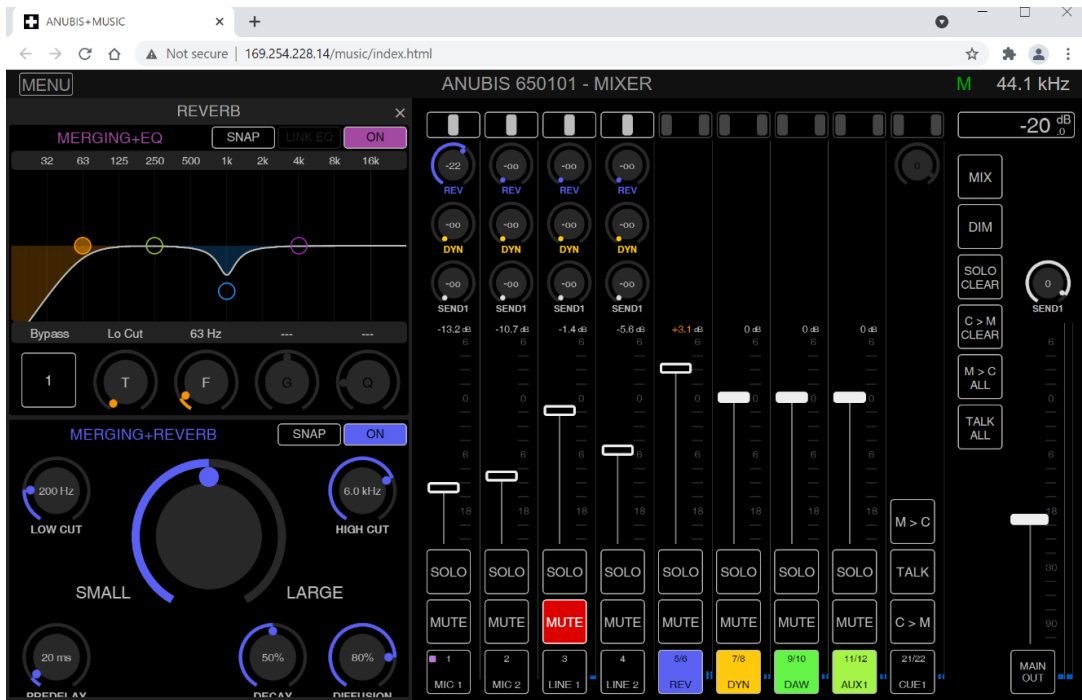
- ステレオL-R→1-2。Anubisのステレオチャンネルペア(1-2)にバスをルーティングします。
- L -> 1: Anubisの左チャンネル(アウト1)にバスをルーティングします。
- R -> 1: Anubisの右チャンネル(アウト1)にバスをルーティングします。
- L -> 2: バスをAnubisの左チャンネル(アウト2)にルーティングする
- R -> 2: バスをAnubisの右チャンネル(アウト2)にルーティングする

注意:L-1とL-2を選択すると、どちらか一方が選択されます。このようなパッチングでは、シンプルにステレオを選択してください。

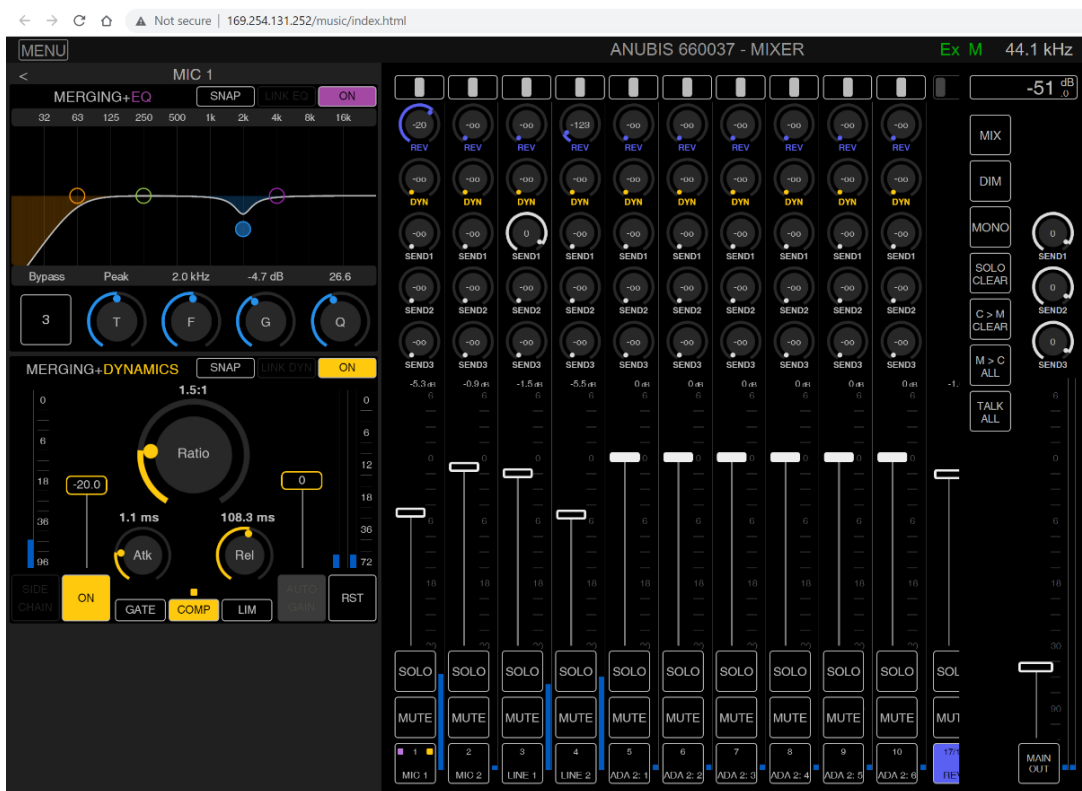


Music Mission Remote Control

ブラウザ(Chrome推奨)からMusic Missionのすべてのエレメントをリモートコントロールすることができます。下の例では、Merging+Reverb Effectが開かれています、ReverbにはEQも用意されています。



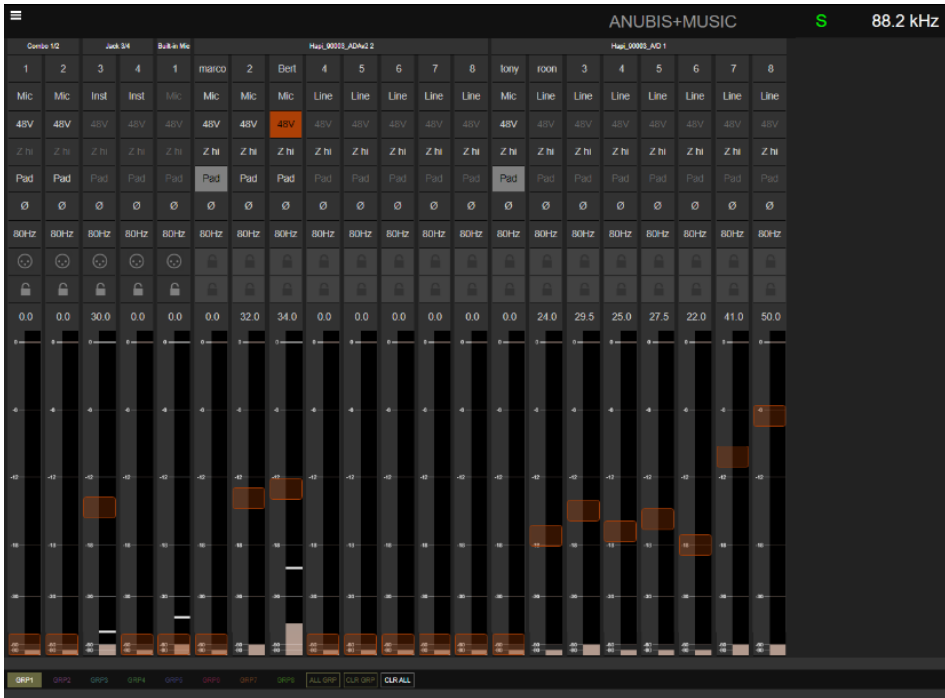
下の例では、MERGING+EQとMERGING+Dynamics Effectがリモートコントロールで開かれています。





PreAmps Remote Control

Peerした Merging Hapi の ADモジュール が拡張されている Anubis の Remote PreAmps ページ



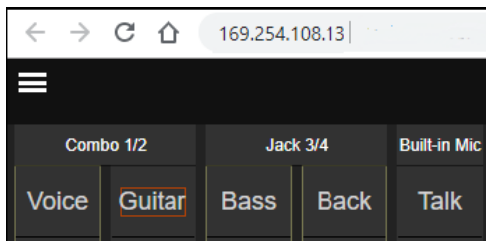
Anubis PreAmp Remote Control

- ブラウザ(Google Chrome を使用してください)から Anubis の PreAmp をフルリモートコントロール可能
- 最大 8グループ まで対応



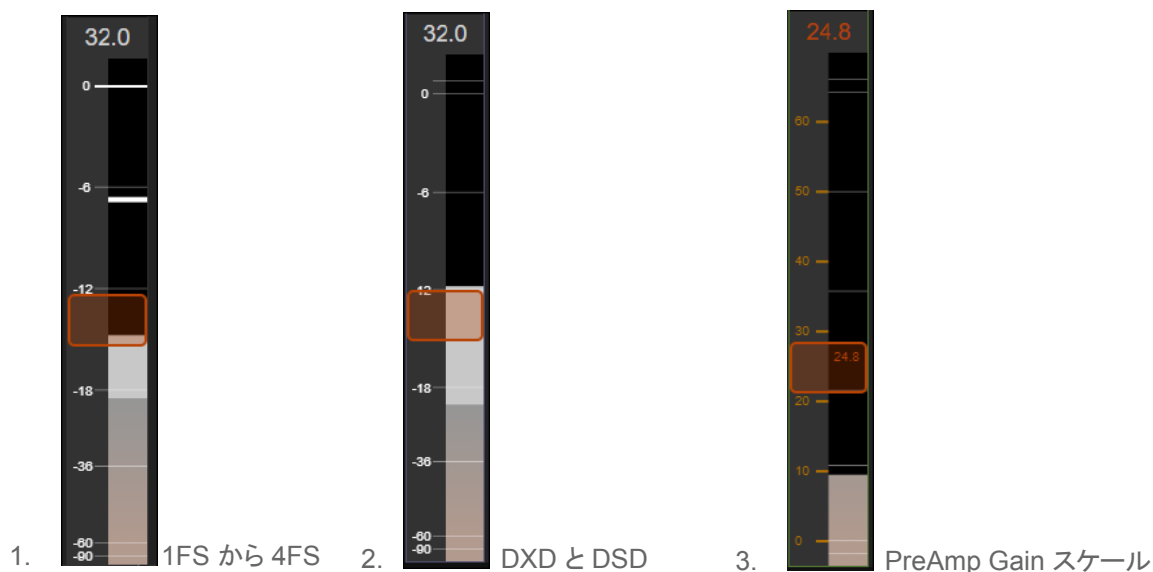
グループの一つを選択し、番号/名前の部分を選択してグループに追加します。

- チャンネルの名前付け
入力チャンネルの名前を変更するには、チャンネル番号表示部をマウスでクリックします。



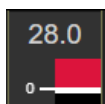
Note: 名前は Anubis の Presets に保存されます。

- VU メーター
Input Gain のレベルは、dB で表示されます。



1. 44.1kHz から 192kHz までの PreAmp Input メータリング スケール
2. DXD と DSD モードでの PreAmp Input メータリング スケール。DSDでのヘッドルームを表すために、0 dBFS = +6dB SA-CD となっています。
3. Gain を変更するとメーターの目盛が変化し、Gain の目盛レベルをdBで表します。この目盛りは、Gain を調整している間のみ表示されます。
Range: 0dBから+66dB

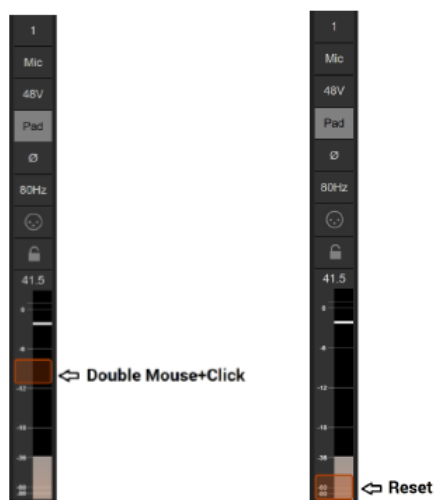
● Peak リセット



ピーク値をリセットするには、Peak Hold をクリックしてください。

● Reset Faders Unity

フェーダー (Gain) をリセットするには、フェーダーをダブルクリックしてください。



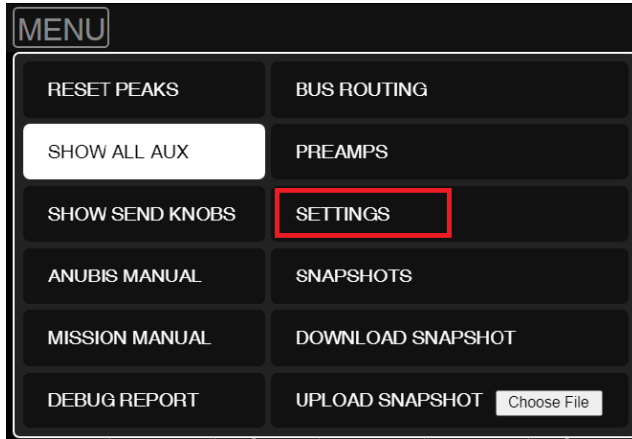


Remote Settings

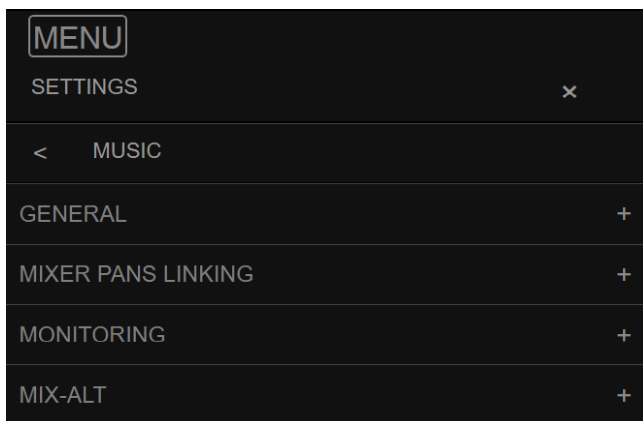
Webアクセスでは、Anubis の主要な設定をリモートコントロールできるようになりました。

注意: すべてのMission設定がリモートコントロールで利用できるわけではありません。

メニューオプションから “Show Settings” を選択すると、Settings のリモートレイアウトが表示されます。



特定の設定を開くには、Setting のエントリー または + をクリックしてください。





GENERAL SETTINGS

MENU
SETTINGS

< GENERAL

SAMPLE RATE

Sampling Rate 96.0 kHz

Auto

A/D Mode in DXD/DSD DXD

FRAME MODE

Latency AES67 (48)

CLOCK

PTP Master

NETWORK

Interface 1

Type Auto

Address 169.254.131.252

Netmask 255.255.0.0

Gateway 0.0.0.0

Apply & Reboot

DATE & TIME

Current Host Date & Time 4/21/2021 5:09:21 PM

Apply Date & Time to device

MUSIC SETTINGS

MENU
SETTINGS

< MUSIC

GENERAL

Expert Mode

MIXER PANS LINKING

CUE 1

CUE 2

CUE 3

CUE 4

CUE 5

REVERB

DYNAMICS

MONITORING

REF Level (dB) -20

DIM Level (dB) -20

SOLO Exclusive

MIX-ALT

MIX-ALT Mode MIX-ALT

MIX-ALT Crossfeed (%) 0

A/B or SUB Trim (dB) 0

INFORMATION

MENU
SETTINGS

< INFORMATION

VERSION

Firmware Version 1.2.1b47321

Serial Number A660037

Boards Run Main:2 Front:5 UI:5

STATUS

Temperature 43°C

Cores 23% 0%

Memory 49%

DEVICE

Name Anubis_660037

Type Premium

Note: Settings の変更は Anubis に反映されます。



Snapshots

Anubis Music Missionには18個のスナップショットが用意されており、それらをリモートで保存したり呼び出したりすることができます。

1 record guit	N/A	N/A
2 record guitars Kemper	N/A	N/A
3 Vocals recording	N/A	N/A
4 BASS recording	N/A	N/A
N/A	N/A	N/A
6 MIXING 1	N/A	18 MY DEFAULT

Recall a Snapshot will recall the entire Anubis configuration.

Download Snapshots

Anubis Snapshotをダウンロードして外付けドライブに保存する場合に選択します。ユーザーは、Anubisプリセットの.mumiファイルを保存するフォルダを参照して選択する必要があります。

注:

Monitor Mission のプリセットのファイル拡張子は .momi

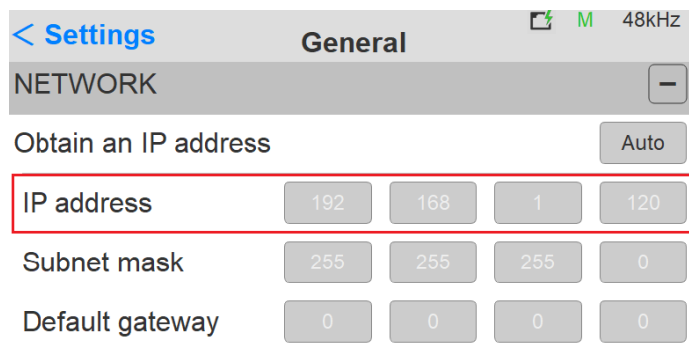
Music Mission のスナップショットは .mumiです。



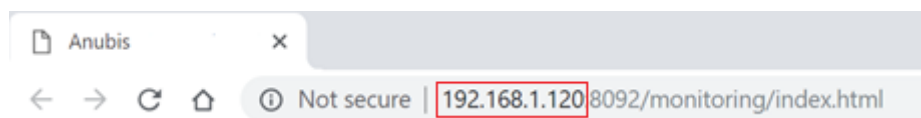
Tablet Remote Access - Anubis の IPアドレスを使った Web GUI アクセス

Wi-Fiアクセスポイントに接続されていることを確認して、Anubis をネットワークに接続してください。

Anubis の IP アドレスは Settings > General の Network IP address で確認できます。



リモート Web ユーザー インターフェース を開くには、Anubis の IP アドレスをWebブラウザに入力してください。



この方法は、Chrome, FireFox, Opera, Safari で動作しますが、Microsoft Edge では動作しません。

Note: Merging 社では Google Chrome のみを使って動作検証を行っています。

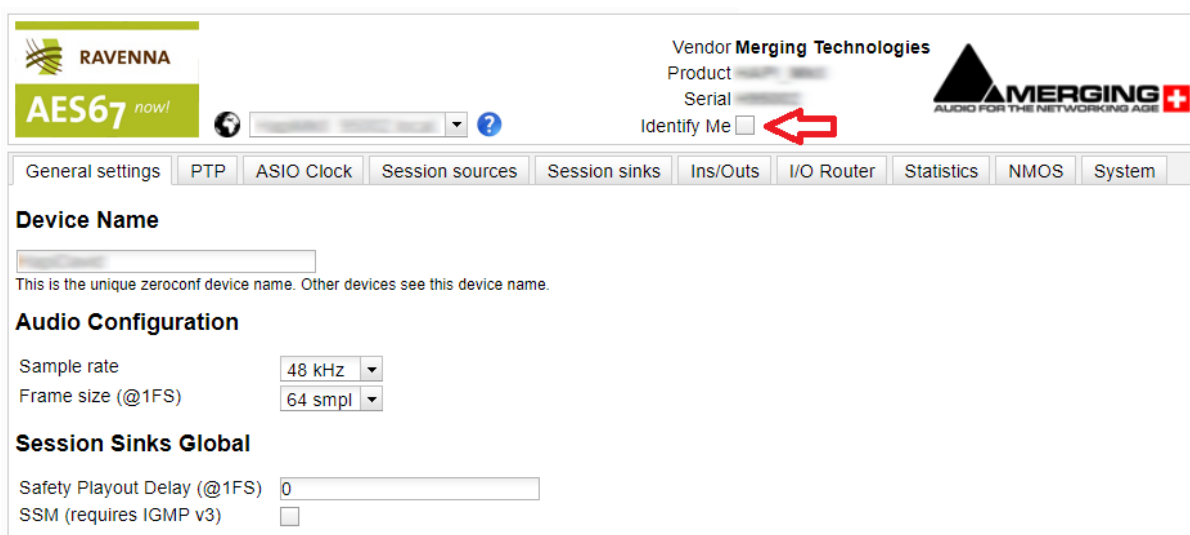


Identify Me – Device Location

Identify me 機能は、ネットワーク上でデバイスを探すために使用します。ネットワーク上に複数のネットワークインターフェースがある場合、そのうちの1つを特定したいことがあります。このとき、識別されたデバイスを点滅させて確認することができます。

手順

1. Anubis の Advanced ページを開きます。
これはドライバー (MAD または VAD) や MT Discovery 上で、エントリーされている Anubis をマウスの右クリックで開くことができます。
2. Advanced ページの右上を見てください。
3. Identify Me のボックスにチェックを入れてください。



4. これにより Anubis の Home ボタンが点滅し、TFTディスプレイにダイアログが表示されます。

